ISSN 0915－1613

年　報　26

２００９年度
（平成21年度）

２０１０．１２

山梨県埋蔵文化財センター

年　報　26

２００９年度
（平成21年度）

２０１０．１２

山梨県埋蔵文化財センター

序

この年報は平成21年度（2009）の当センターで実施した発掘調査、試掘調査、分布調査および資料普及事業に関する内容を報告するものです。

記録保存のための発掘調査は次のものがあります。リニア実験建設事業に伴う発掘調査として、御所山遺跡（笛吹市境川町）は、曽根丘陵の一支丘の先端付近に位置し、弥生時代末から古墳時代初頭の住居跡1棟のほか溝３条、土坑２基、焼土跡１基、ピット７基を検出しました。太鼓畑遺跡（笛吹市御坂町）は、調査面積は少ないにもかかわらず、平安時代の住居跡１棟、集石遺構１基、ピット５基を発見しました。六ツ長遺跡（同）では２条の溝状遺構と土坑19基を検出しました。御坂中丸遺跡（同）では70数基の土坑と縄文時代中期を中心とする包含層の調査を行いました。

富士河口湖バイパス建設事業に伴う発掘調査として、滝沢遺跡（富士河口湖町）3,020㎡の調査を行いました。付近には古代の官道の「河口の駅」があったと言われています。調査の結果9～10世紀の竪穴住居跡が15棟、集石遺構1基と中世以降の掘立柱建物跡1棟、土坑45基、溝状遺構３条が発見されました。特に甲斐型土器の坏や皿には墨書、刻書土器が多量に出土した点が注目されています。

都留バイパス建設事業に伴う美通遺跡（都留市井倉）の発掘調査は、調査区を分けて行いました。Ａ区では奈良時代前後の住居跡５棟、土坑37基などがあり、Ａ2区では奈良～平安時代の住居跡４棟をはじめ土坑、溝状遺構があり、近世の土坑や溝状遺構の検出もありました。Ｂ3区では縄文時代前期中葉の土坑３基、前期末の竪穴住居跡１棟、集石遺構５基など早期末前～前期末の遺構遺物を検出し、Ｃ区では住居跡１棟、集石土坑６基、土坑30基などと、Ｃ区南では住居跡３棟、土坑88基などを検出しました。

中部横断道関連事業としては原間遺跡（南部町本郷）面積6,000㎡を調査しました。調査区を北からＡ区、Ｂ区、Ｃ区に分け、Ａ区では縄文後期と思われる焼土遺構１基、土坑42基、弥生末から古墳時代初頭の掘立柱建物跡１棟、Ｂ区では土坑２基、C区では貯蔵穴１基、平安時代の住居跡１棟、土坑77基を検出しました。

整備に伴う発掘調査として県史跡甲府城跡の石垣修繕工事に伴う調査を継続的に実施しています。本年度は稲荷曲輪東面石垣および天守曲輪南面石垣の補修工事に伴う調査を約751㎡実施しました。

本年度から「山梨県内山岳信仰遺跡分布調査事業」を開始しました。この調査は山梨県内に所在する山岳信仰遺跡について、その場所や歴史を明らかにし、保護・活用するための基礎資料を蓄積することを目的としています。本年度は冨士御室浅間神社二合目本宮社有地１箇所、北口本宮冨士浅間神社社有地２箇所の調査を行いました。

市町村埋蔵文化財専門職員研修会は明治大学名誉教授であり、当センターの所長をされました大塚初重先生をお迎えして「遺跡を再度掘る意義と成果について」と題する講演をしていただき、桜井茶臼山古墳、登呂遺跡について、自らの調査経験を踏まえた講義でした。専門職員以外にも一般にも参加を呼びかけ、90名以上の聴講者の参加を得ました。

資料普及事業の対象者次の人数になります。出前支援事業740人　発掘体験セミナー451人、講座講演会1,464人、資料貸出639人、職場体験10人です。

当センターは調査研究、資料の保管・収蔵、資料普及等の事業を進めております。今後とも事業推進に邁進していきますので、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

2010年12月

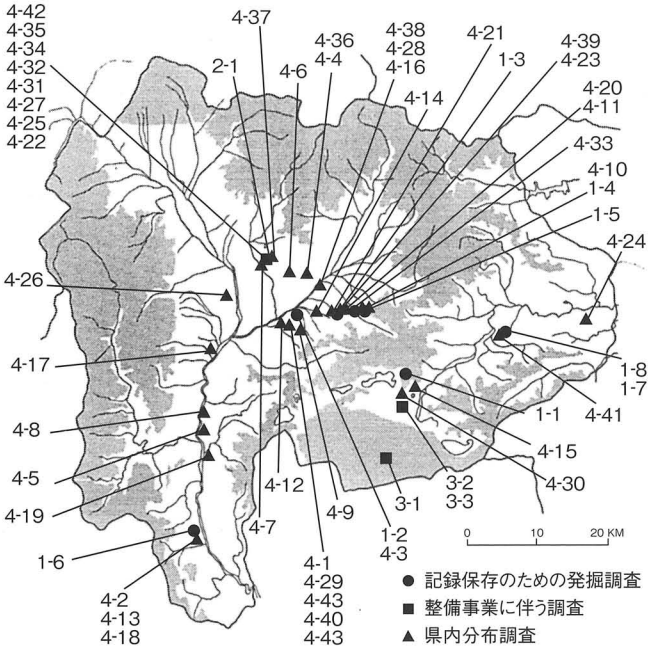
山梨県埋蔵文化財センター
所　長　小野　正文

目　次

序
凡例・職員組織
第Ⅰ章　2009年度の事業概要
1　発掘調査等 …… 1
2　整理作業 …… 1
3　資料普及事業 …… 2
4　収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧 …… 4
5　第22回市町村埋蔵文化財専門職員研修会 …… 7
6　遺跡調査発表会 …… 7
7　埋文シンポジウム …… 8
8　山梨の遺跡展2010 …… 9
9　埋文やまなし …… 10
10　県指定史跡甲府城跡活用事業 …… 11
11　遺跡データ管理（ＧＩＳ）…… 13
12　発掘調査・整理作業の標準化に関する検討 …… 14
13　寄贈・購入図書 …… 14

第Ⅱ章　各遺跡の発掘調査等概要
1　記録保存のための発掘調査
1－1　滝沢遺跡 …… 15
1－2　御所山遺跡 …… 17
1－3　太鼓畑遺跡 …… 19
1－4　六ッ長遺跡 …… 21
1－5　御坂中丸遺跡 …… 23
1－6　原間遺跡 …… 25
1－7　美通遺跡A2区・B3区 …… 27
1－8　美通遺跡A1区・C区 …… 29
2　整備事業に伴う調査
県指定史跡甲府城跡 …… 31
3　分布調査
山梨県内山岳信仰遺跡分布調査 …… 33
4　県内分布調査 …… 37

第Ⅲ章　県内の概説
1　届出件数と内容 …… 63
2　発掘調査 …… 63
3　県指定文化財（考古資料）及び県指定史跡 …… 63
4　発掘調査の成果と保存整備事業 …… 63
5　発掘調査体制 …… 64
発掘届出件数・発掘調査件数の推移・2009年度県内発掘調査一覧表 …… 65～73



2009 年度　発掘調査等遺跡位置図

凡　例

1　本書は、2009年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。

2　本書の編集は、高野が行った。

3　2009年度の収蔵資料の貸出し及び掲載許可一覧、発掘調査一覧表は2010年3月末日現在で集計したものである。

4　第２章各遺跡の発掘調査等概要における発掘調査面積の（　）内は、調査対象面積である。

5　左記の地図は、2009年度発掘調査遺跡の位置図である。なお、地図中の番号は、1頁の発掘調査の表に対応している。

2009（平成21）年度　職員組織

所長	小野正文
次長（兼）	渡辺晶夫
総務課長（兼）	渡辺晶夫
調査研究/資料普及課長	出月洋文

総務課	
主査	佐藤浩
副主査	松尾秀樹
主事	浅川史郎

調査研究課　調査第一担当	
副主幹・文化財主事	高野玄明
副主査・文化財主事	野代幸和
副主査・文化財主事	石井明
主任・文化財主事	依田幸浩
主任・文化財主事	小林万里子
非常勤嘱託	長田隆志

資料普及課　資料第一担当	
主査・文化財主事	吉岡弘樹
主査・文化財主事	田口明子
主査・文化財主事	皆川賢司
主任（事）（兼）	中山尚行

調査研究課　調査第二担当	
副主幹・文化財主事	山本茂樹
主査・文化財主事	三田村美彦
非常勤嘱託	小澤美和子
非常勤嘱託	稲垣自由

資料普及課　資料第二担当	
主査・文化財主事	保坂和博
主任・文化財主事	野代恵子
非常勤嘱託	古郡雅子

調査研究課　調査第三担当	
主査・文化財主事	小林健二
副主査・文化財主事	笠原みゆき
主任・文化財主事	堀込紀行
非常勤嘱託	古川明日香

第Ⅰ章　2009年度の事業概要

1　発掘調査等

2009年度の発掘調査等は、以下のとおりである。各遺跡の概要は、第Ⅱ章で述べることとする。

1）記録保存のための発掘調査

番号	調　査　名　他	番号	調　査　名　他
1－1	滝沢遺跡（吉田河口湖バイパス建設事業）	1－5	御坂中丸遺跡（山梨リニア実験線建設事業）
1－2	御所山遺跡（山梨リニア実験線境川土捨場造成事業）	1－6	原間遺跡（中部横断自動車道建設事業）
1－3	太鼓畑遺跡（山梨リニア実験線建設事業）	1－7	美通遺跡Ａ2区・Ｂ3区（国道139号都留バイパス建設事業）
1－4	六ッ長遺跡（山梨リニア実験線建設事業）	1－8	美通遺跡Ａ1区・Ｃ区（国道139号都留バイパス建設事業）

2）整備事業に伴う調査

番号	調　査　名　他
2－1	県指定史跡　甲府城跡

3）分布調査

番号	調　査　名　他
3－1～5	山梨県内山岳信仰遺跡分布調査

4）県内分布調査

番号	調　査　名　他	番号	調　査　名　他
4－1	風土記の丘・曽根丘陵公園整備(方形周溝墓広場展望台建替)事業に伴う試掘調査(上の平遺跡)	4－24	入山沢通常砂防事業に伴う立会調査(金山金山遺跡)
4－2	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査(大神遺跡)	4－25	県庁構内水道管敷設工事に伴う立会調査(甲府城跡)
4－3	山梨リニア実験線境川土捨場造成事業に伴う試掘調査	4－26	流域下水道敷設工事に伴う立会調査(南アルプス市鏡中條地内)
4－4	平等川基幹河川改修事業に伴う試掘調査(七沢の渡し、堤防推定地)	4－27	県庁舎耐震化等整備事業に伴う立会調査(甲府城跡)
4－5	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査(身延町一色地内)	4－28	風土記の丘・曽根丘陵公園整備(方形周溝墓広場展望台基礎撤去)に伴う立会調査(上の平遺跡)
4－6	城東Ⅱ期バイパス建設事業に伴う試掘調査(甲府市砂田町地内)	4－29	県立笛吹高等学校給水管敷設工事に伴う立会調査(石和高校周辺遺跡)
4－7	県立中央高等学校改築事業に伴う試掘調査(甲府市飯田地内)	4－30	流域下水道敷設工事に伴う立会調査(富士吉田市新倉地内)
4－8	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査(身延町田原地内)	4－31	県庁構内ＡＴＭ基礎撤去事業に伴う立会調査(甲府城跡)
4－9	国道358号拡幅事業(甲府市中畑町地内)に伴う試掘調査(諏訪前南遺跡)	4－32	県庁舎耐震化等整備事業に伴う地中電線管撤去に伴う立会調査(甲府城跡)
4－10	山梨リニア実験線建設事業に伴う試掘調査(御坂町上黒駒地内)	4－33	山梨リニア実験線建設(笛吹市道512号改良)事業に伴う立会調査(御坂町竹居地内)
4－11	山梨リニア実験線建設事業に伴う試掘調査(御坂町竹居地内)	4－34	県庁構内電気高圧供給管新設事業に伴う立会調査(甲府城跡)
4－12	間門川改修事業に伴う試掘調査(下曽根橋下遺跡)	4－35	県庁周辺電気高圧供給管撤去並びに新設事業に伴う立会調査(甲府城跡)
4－13	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査(南部町本郷地内)	4－36	平等川基幹河川改修事業に伴う立会調査(七沢の渡し、堤防推定地)
4－14	山梨リニア実験線(リニア変電所)建設事業に伴う試掘調査(竜安寺川西遺跡)	4－37	県立中央病院北口院長宿舎解体事業に伴う立会調査(武田城下町遺跡、甲府城下町遺跡)
4－15	吉田河口湖バイパス建設事業に伴う試掘調査(富士吉田地内)	4－38	県立笛吹高等学校建設事業に伴う立会調査(石和高校周辺遺跡)
4－16	県立笛吹高等学校建設事業に伴う試掘調査(石和高校周辺遺跡)	4－39	山梨リニア実験線建設事業に伴う立会調査(柚木遺跡)
4－17	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査(町屋口遺跡・青柳河岸跡)	4－40	風土記の丘・曽根丘陵公園整備事業(日本庭園改修工事)に伴う立会調査(岩清水遺跡)
4－18	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査(清水原遺跡)	4－41	運転免許課都留分室他下水道接続工事に伴う立会調査(都留市下谷地内)
4－19	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査(上の山遺跡)	4－42	県庁舎耐震化等整備事業(第１南別館解体)に伴う基礎撤去立会調査(甲府城跡)
4－20	山梨リニア実験線建設事業に伴う試掘調査(笛吹市御坂町地内)	4－43	風土記の丘・曽根丘陵公園整備(バンガロー解体撤去)事業に伴う立会調査(甲府市下向山地内)
4－21	山梨リニア実験線建設事業に伴う試掘調査(笛吹市八代町地内)		
4－22	県庁舎耐震化等整備事業(第１南別館跡地)に伴う試掘調査(甲府城跡)		
4－23	山梨リニア実験線建設事業に伴う試掘調査(笛吹市八代町地内)		

2　整理作業

1）基礎的整理作業

番号	遺　跡　名
1	滝沢遺跡
2	御所山遺跡
3	太鼓畑遺跡
4	六ッ長遺跡
5	御坂中丸遺跡
6	原間遺跡
7	美通遺跡A2区・B3区
8	美通遺跡A1区・C区
9	山梨県内山岳信仰遺跡分布調査

2）本格的整理作業

番号	遺　跡　名
1	八幡神社遺跡
2	三光遺跡
3	稲山遺跡
4	竜安寺川西遺跡
5	中丸・中丸東遺跡
6	県指定史跡甲府城跡　平成21年度調査・整備
7	山梨県内分布調査

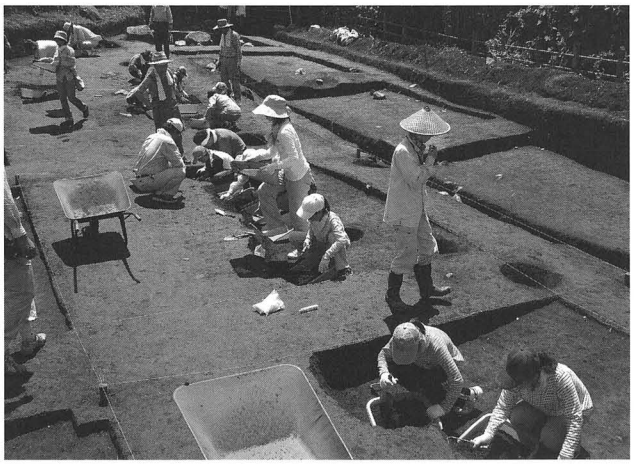
3）報告書刊行一覧

番号	報　告　書　名
第264集	寺前遺跡
第265集	八幡神社遺跡
第266集	山梨県内分布調査報告書
第267集	県指定史跡甲府城跡　平成21年度調査・整備報告書

3　資料普及事業

今年度に実施した事業は、県内の小中学校等へ土器作りなどについて指導に行く「出前支援事業」、中高生を発掘調査や整理作業の現場に受け入れる「職場体験」、様々な研修会などにおいて埋蔵文化財発掘調査の成果等を報告する「講師派遣」などがあり、これらの事業は外部機関の要請に応じて行ったものである。このほかでは、発掘調査現場で実際に発掘を体験する「発掘体験セミナー」や学校の教職員を対象として、埋蔵文化財を利用した学習を授業に積極的に取り入れる指導者の育成を目的とした「先生のための文化財支援講座」、埋蔵文化財センターシンポジウム「社会を支えた石の技術－その成立と展開を考える－」を実施した。これらの事業以外にも「考古資料の貸出」として、遺物貸出セット・火おこしセット・映像ライブラリーの貸出も行った。

文化庁の補助金(埋蔵文化財保存活用整備事業費)を得て活動した「埋蔵文化財学習活動事業」では、学校教育などで広く活用できるように過去に出土した木製品を整理し修復及びレプリカの作成を行った。



発掘体験セミナー

土器作り(成形)

勾玉作り体験

甲府城下町探検

資料普及事業集計表

月	学校への出前支援事業	人数	月	講座・講演	人数	月	遺物など貸出・利用	人数	月	発掘体験セミナー・現地見学会	人数	月	職場体験受入	人数
5	大月市初狩小学校「土器作り」	20	4	「甲府城御案内仕隊」養成講座	30	4	甲府東高校　縄文時代土器・石器(考古資料貸出キット1・4・5)	100	7	第1回　御坂中丸遺跡(笛吹市)	19	7	インターシップ中富中整理体験	1
	中央市田富南小学校「土器作り」	41		山梨英和中学校「土器・石器に触れる」	50		初狩小　まいぶん映像ライブラリー	20		第2回　御坂中丸遺跡(笛吹市)	19		インターシップ白根高校整理体験	1
	中央市豊富小学校「土器作り」	53	5	「甲府城御案内仕隊」養成講座	30		田富南小　まいぶん映像ライブラリー	41	8	第3回　原間遺跡(南部町)	16	8	インターシップ小淵沢中整理体験	2
	大月市初狩小学校「土器焼き」	20		「甲府城御案内仕隊」養成講座	28		豊富小　まいぶん映像ライブラリー	53		第4回　原間遺跡(南部町)	19		インターシップ富竹中整理体験	3
	中央市田富南小学校「土器焼き」	41		塩山高校講座「地域の文化財」	41		山梨英和中　縄文時代土器・石器等(考古資料貸出キット5)	50		第5回　美通遺跡(都留市)	31		インターシップ北東中整理体験	1
	中央市豊富小学校「土器焼き」	53		「甲府城御案内仕隊」養成講座	30		かえで支援学校　縄文時代土器(考古資料貸出キット1)火おこし道具	8		第6回　美通遺跡(都留市)	16		インターシップ笛南中整理体験	2
6	身延町下山小学校「火おこし体験と身延町内にある遺跡の話」	30	6	ことぶき勧学院南巨摩学園「古代の甲斐」	30		下吉田第一小　火おこし道具	40		第7回　滝沢遺跡(富士河口湖町)	32			
	北杜市武川中学校「火おこしと縄文土器の話」	34		H21観光ボランティアガイド「御案内仕隊」総会記念講演	73	5	中道北小　火おこし道具	35		第8回　滝沢遺跡(富士河口湖町)	9			
	山梨市三富小学校「土器作り」	16		ことぶき勧学院甲府学園「古代の甲斐」	48		櫛形中　石器類(考古資料貸出キット5)	90		第9回　甲府城下町の痕跡を探そう！(甲府市)	45			
7	甲斐市竜王北小学校「火おこしと石器作り」	65		ことぶき勧学院南都留学園「古代の甲斐」	30	6	三富小　まいぶん映像ライブラリー	16	9	原間遺跡発掘体験　睦合小6年(南部町)	20			
	北杜市長坂小学校「土器作り」	30		ことぶき勧学院西八代学園「古代の甲斐」	30		大河内小　まいぶん映像ライブラリー	22		原間遺跡発掘体験　睦合小5年(南部町)	26			
	山梨市三富小学校「土器焼き」	16	7	H21年度富士河口湖町歴史・文化財講座「郷土の原風景」	25		長坂小　まいぶん映像ライブラリー	30		滝沢遺跡現地見学会(富士河口湖町)	50			
8	富士川町(旧鰍沢町)教育委員会「土器作り」	6		ことぶき勧学院北巨摩学園「古代の甲斐」	33		韮崎西中　火おこし道具	35		第10回　甲府城で石垣構築技術を体験！(甲府市)	44			
	富士川町(旧鰍沢町)教育委員会「土器焼き」	6	8	先生のための埋蔵文化財活用講座第1回	8	7	豊岡小　まいぶん映像ライブラリー	8		第11回　探検！甲斐府中城(甲府市)	25			
9	北杜市長坂小学校「土器焼き・縄文土器と石器の話・火おこし」	30		先生のための埋蔵文化財活用講座第2回	7	8	笛吹市教委　稲山遺跡・竜安寺川西遺跡調査写真	1		原間遺跡現地見学会(南部町)	80			
	身延町大河内小学校「土器作り」	22		ことぶき勧学院中巨摩学園「古代の甲斐」	43		中央高校　縄文時代土器・石器(考古資料貸出キット1・5)等	20						
	甲府市石田小学校「勾玉作り」	171		ことぶき勧学院北都留学園「古代の甲斐」	26	10	富士吉田市歴史民俗博物館(縄文王国)	40						
	身延町豊岡小学校「土器作り」	8		イブニングフォーラム所長トーク	50	11	山梨大学附属幼稚園　火おこし道具	30						
	身延町大河内小学校「土器焼き」	20		2009年度上半期遺跡調査発表会	80									
	身延町豊岡小学校「土器焼き」	8		大月東小　地域の文化財「五ヶ堰」の解説	44									
	北杜市日野春小「土器作り」	25	1	やまなし再発見講座&埋文シンポ「サテライトNo1」	87									
	北杜市日野春小「土器焼き」	25		やまなし再発見講座&埋文シンポ「サテライトNo2」	93									
				やまなし再発見講座&埋文シンポ「サテライトNo3」	101									
				やまなし再発見講座&埋文シンポ「サテライトNo4」	50									
				ことぶき勧学院東八代学園「古代の甲斐」	101									
			2	やまなし再発見講座&埋文シンポ特別講演・パネルディスカッション	41									
				甲府新紺屋地区史跡講演会「八幡神社遺跡について」	95									
				甲府新紺屋地区史跡講演会「八幡神社遺跡について」	65									
			3	2009年度下半期遺跡調査発表会	95									
	22件	740		29件	1464		18件	639		15件	451		6件	10

人数総計　3,304人

件数総計　90件

4　収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧

収蔵資料の貸し出し許可一覧

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名	
1	4.15～9.15	浅間縄文ミュージアム	浅間縄文ミュージアム企画展「土偶－破壊の運命をたどる女神－」に展示のため	酒呑場遺跡	土偶6点
				鋳物師屋遺跡	土偶（複製）1点
				一の沢遺跡	土偶（複製）1点
				金生遺跡	土偶（複製）1点
				中丸遺跡	土偶（複製）1点
2	9.15～12.20	県立博物館	秋期企画展「甲斐道をゆく－交流の文化史－」に展示のため	百々遺跡	土師質土器5点
				狐原遺跡	土師質土器5点
				北堀遺跡	土師質土器5点
				滝沢遺跡	土師質土器5点
3	9.2～平22.3.31	県立博物館	「内陸地域の生業と農耕期限に関する研究」で研究題材として使用するため	玉川金山遺跡	土器13箱
				談合坂遺跡	土器1箱
				上の平遺跡	土器1箱
				酒呑場遺跡	土器12箱
				天正寺遺跡	土器1箱
4	10.23～12.15	釈迦堂遺跡博物館	特別展「縄文　炎を抱く土器－釣手土器展－」に展示のため	柳坪遺跡	土器1点
				酒呑場遺跡	土器1点
				宿尻遺跡	土器1点
				金山遺跡	土器1点
				一の沢遺跡	土器1点
				大月遺跡	土器1点
				塩瀬下原遺跡	土器1点
				宮の前	土器1点
				関山遺跡	土器1点
5	H22.1.15～3.26	富士見市立水子貝塚資料館	平成21年度企画展「縄文土器と動物装飾」に展示のため	酒呑場遺跡	土器1点
				上の平遺跡	土器1点
				宮の前遺跡	土器1点
				安道寺遺跡	土器1点
6	H22.3.25～6.10	釈迦堂遺跡博物館	特別展「祈りのまなざし－土偶　大英博物館帰国展」に展示のため	大木戸遺跡	土偶5点
				獅子之前遺跡	土偶4点
				桂野遺跡	土偶2点
				安道寺遺跡	土偶1点
				酒呑場遺跡	土偶4点
				岡遺跡	土偶形容器2点
				一の沢遺跡	土偶（複製）1点
				鋳物師屋遺跡	土偶（複製）1点
				金生遺跡	土偶（複製）1点

古代衣装貸し出し許可一覧

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名	
1	5.8～5.19	富士河口湖町立船津小学校	社会科学習のため	胡服	3着
				貫頭衣	3着
				女官	3着
2	9.25～11.15	三重県久留倍官衙を考える会	第2回四日市久留倍遺跡まつりの古代衣装行列に使用のため	貫頭衣	2着
				胡服	2着
				巫女	2着
				女官	2着
				官吏	2着
3	9.17～10.2	きっづ科学館ふぉとん	きっづ科学館ふぉとん特別イベント「平城遷都1300年祭記念カウントダウン」で使用のため	貫頭衣	1着
				胡服	1着
				巫女	1着
				女官	1着
				官吏	1着
4	12.20～平22.1.20	東放エンターテイメント高等学院	高円山に陽を当てる会が主催する劇団高円公演「高円山物語～影媛伝説～」に使用のため	貫頭衣	3着
				胡服	3着
				巫女	3着
				女官	3着
				官吏	3着

写真資料の貸し出し並びに掲載許可一覧

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名	
1	4月10日	株式会社アム・プロモーション	未完成考古学叢書７『縄文土器の文様構造－縄文人の神話的思考の解明に向けて』	西田A遺跡	縄文土器1点
				宮の前遺跡	縄文土器1点
				柳坪遺跡	縄文土器1点
				一の沢遺跡	縄文土器1点
2	5月4日	岡野秀典	山梨県考古学協会2009年度地域大会・『山梨考古112号』で使用・掲載のため	横畑遺跡	石器1点
				弥二郎遺跡	石器1点
3	5月4日	笛吹市教育委員会	歴史・文化財冊子に掲載のため	平城京	木簡（複製）1点
4	5月4日	株式会社シーティーエステーマ東京	日本旅行パンフレット「夏の旬感満彩　山梨へいこう」掲載のため	考古博物館	外観1点
5	5月20日	株式会社日本標準	『楽しく学べる日本の歴史』第１巻に掲載のため	甲ッ原遺跡	石器1点
				金生遺跡	耳飾り1点
6	5月28日	株式会社アルカ	『アルカ通信』№70に掲載のため	酒呑場遺跡	使用痕1点
7	6月2日	株式会社　淡交社	月刊誌『なごみ』2009年9月号掲載のため	一の沢遺跡	縄文土器1点
8	6月3日	末木健	山梨県考古学協会2009年度地域大会・『山梨考古112号』で使用・掲載のため	小井川遺跡	大型建物跡1点
					五輪塔4点
					五輪塔出土状況2点
					堤防跡2点
					遺跡全景1点
9	7月22日	社団法人　日本自動車連盟山梨支部	JAFホームページに掲載のため	考古博物館	外観1点
					館内展示1点
10	7月26日	クウネル編集部	雑誌『クウネル』9月20日号に掲載のため	安道寺遺跡	縄文土器1点
				海道前C遺跡	縄文土器1点
11	7月26日	飯田市上郷考古博物館	秋季企画展『南信州の山城－戦国に生きた人びと－』で展示・図録掲載のため	二本柳遺跡	兜前立1点

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名	
12	8月4日	甲府市	広報こうふ9月号掲載のため	立石遺跡	石器集合1点
13	8月6日	株式会社　吉川弘文館	『史跡で読む日本歴史１』に掲載のため	金生遺跡	配石遺構1点
14	8月10日	株式会社　同成社	『弥生時代の考古学』第5巻に掲載のため	酒呑場遺跡	縄文土器1点
15	8月18日	小学館	『サライ』11月号掲載のため	甲斐銚子塚古墳	航空写真1点
16	8月18日	笛吹市教育委員会	広報に掲載のため	牛居沢窯跡	出土状況2点
					調査風景1点
17	8月18日	笛吹市教育委員会	文化財パンフレットに掲載のため	甲斐銚子塚古墳	航空写真1点
18	8月28日	株式会社　バド・インターナショナル	「チュスマ」9月号に掲載のため	殿林遺跡	縄文土器1点
				上の平遺跡	出土状況１点
				考古博物館	外観1点
19	9月9日	釈迦堂遺跡博物館	特別展「縄文　炎を抱く土器-釣手土器展」関係印刷物に掲載のため	柳坪遺跡	縄文土器1点
				酒呑場遺跡	縄文土器1点
				金山遺跡	縄文土器1点
				一の沢遺跡	縄文土器1点
				大月遺跡	縄文土器1点
				塩瀬下原遺跡	縄文土器1点
				宮の前遺跡	縄文土器1点
20	9月18日	常陸大宮市歴史民俗資料館	企画展「再葬墓と人面付土器のふしぎ」展示・関連印刷物掲載のため	岡遺跡	土偶形容器1点
21	10月26日	海像社	ポプラ社発行の総合百科事典『地理』に掲載のため	甲斐銚子塚古墳	航空写真1点
22	11月6日	新津健	『先史から現代へ～発掘から学んだ文化史～』掲載のため	上の平遺跡	縄文土器1点
				甲ッ原遺跡	縄文土器1点
23	11月20日	笛吹市教育委員会	文化財パンフレットに掲載のため	一の沢遺跡	縄文土器1点
24	12月1日	富士見市立水子貝塚資料館	企画展「縄文土器と動物装飾」関係印刷物に掲載のため	原町農業高校前遺跡	縄文土器2点
				御所前遺跡	縄文土器1点
				酒呑場遺跡	縄文土器1点
				甲ッ原遺跡	縄文土器1点
25	12月9日	株式会社フレンド・エル	「ハイウェイやまなし冬号」に掲載のため	考古博物館	外観1点
				宮の前遺跡	館内展示1点
				甲斐銚子塚古墳	航空写真1点
				殿林遺跡	縄文土器1点
26	12月15日	NPO法人国際縄文学協会	協会誌『縄文』20号に掲載のため	殿林遺跡	縄文土器1点
27	平22年1月5日	十日町市博物館	『笹山遺跡出土品国宝指定10周年記念・土肥孝氏講演記録集』に掲載のため	殿林遺跡	縄文土器1点
28	平22年1月5日	初村武寛	『洛北史学』・『重装騎兵研究会』資料集に掲載のため	かんかん塚（茶塚）古墳	甲冑・小札一式
29	平22年1月１6日	埋蔵文化財発掘調査支援共同組合	『山梨県南巨摩郡鰍沢町　鰍沢河岸跡（明神町地区』報告書に掲載のため	鰍沢河岸跡	絵図2点
30	平22年1月20日	株式会社ぎょうせい	『日本の美術』「土偶とその周辺Ｉ」に掲載のため	桂野遺跡	土偶1点
				獅子之前遺跡	土偶1点
31	平22年1月22日	株式会社シーズ	NEXCO中日本ウェブサイトに掲載のため	考古博物館	外観1点
					館内展示1点
32	平22年1月25日	昭和測量株式会社	町屋口遺跡報告書に掲載のため	鰍沢河岸跡	絵図1点
33	平22年2月18日	株式会社同成社	『世界遺産　縄文遺跡』掲載のため	安道寺遺跡	縄文土器1点
34	平22年3月15日	（株）日本ネットワークサービス　甲府CATV	「やまなし歴史紀行」使用のため	鰍沢河岸跡	泥面子集合1点
					ガラス瓶集合1点
					御米蔵跡1点
				駒橋遺跡	遺跡近景1点
35	平22年3月17日	甲府市	『甲府暮らしの便利帖』掲載のため	甲斐銚子塚古墳	航空写真1点

5　第22回市町村埋蔵文化財専門職員研修会

開催日時　2010年2月17日（水）13:30～16:00
会　　場　風土記の丘研修センター　講堂
講　　師　明治大学名誉教授　大塚初重

本研修は、県内の埋蔵文化財発掘担当者の資質向上と技術習得を目的として開催しているもので、今回で22回目となる。また、数年前より一般の方々にも広報を行い、より多くの方々が埋蔵文化財への理解を深める機会としている。
研修のテーマは、「遺跡を再度掘る意義と成果について」で、桜井茶臼山古墳・登呂遺跡の発掘事情と再度、発掘されるに至った経緯などについて、先生の実体験を交えてわかりやすく講義がおこなわれた。参加者は90名ほどとなり、過去に発掘された遺跡を再度掘るという実績の重要性とその注目度の高さを反映したものとなった。講演のなかでは、登呂遺跡の発掘調査を移した当時の珍しいスライドを使い、考古学の学史ともいえる貴重な話を聞くことができた。

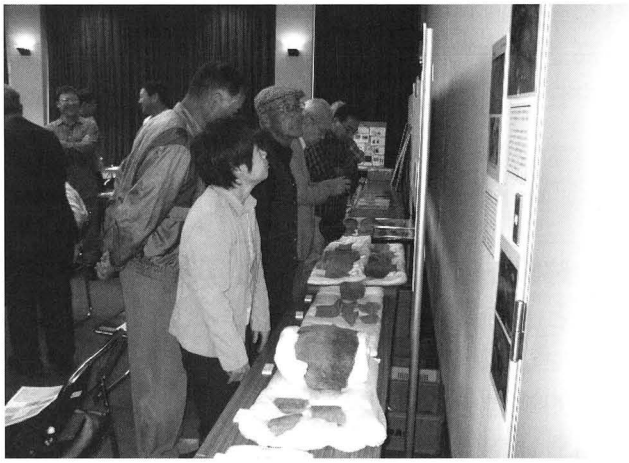
6　遺跡調査発表会

遺跡調査発表会は、県内で当該年度に発掘調査された遺跡について、調査内容や成果を広く公表する場として上半期と下半期の年に２回開催している。開催は、山梨県考古学協会と共催で実施し、出土品や写真パネルのミニ展示も併設している。

○2009年度上半期遺跡調査発表会【参加人数約80名】
開催日時：2009年10月24日（土）　午後1時30分～4時30分
開催会場：風土記の丘研修センター　講堂
発 表 1　笛吹市・甲州市 物見塚遺跡（発表者 帝京大学山梨文化財研究所 平野　修）
後期旧石器時代の石器と縄文時代早期末から前期末の集落が発見された。
発 表 2　北杜市 山崎第４遺跡（発表者 北杜市教育委員会 佐野　隆）
縄文時代前期から中期の竪穴住居と食料等の貯蔵穴やお墓などが発見された。
発 表 3　笛吹市 国分寺跡（発表者 笛吹市教育委員会 伊藤修二）
金堂の規模が解明され、創建期の瓦などが発見された。
発 表 4　富士河口湖町滝沢遺跡（発表者 山梨県埋蔵文化財センター 小林健二）
弥生時代の方形周溝墓をはじめ平安時代の竪穴住居と刀子、鉄鏃、土錘、墨書・刻書土器などが発見された。
発 表 5　南アルプス市 後田堰取水口堤防跡（発表者 南アルプス市教育委員会 斎藤秀樹）
木工沈床や蛇篭が発見され、明治終わりから大正時代にかけて修築されたことが明らかとなった。

○2009年度下半期遺跡調査発表会【参加人数約95名】
開催日時：2010年3月14日（日）　午前10時30分～午後4時30分
開催会場：帝京大学山梨文化財研究所　大ホール
紙上報告　平成21年度の県内埋蔵文化財の調査と保護
（報告者 山梨県教育庁学術文化財課 正木季洋）
特別講演「縄文時代社会の変質－中期から後期へ－」
（講演者 昭和女子大学人間文化学部歴史文化学科 山本暉久）

発 表 1　都留市 美通遺跡（発表者 山梨県埋蔵文化財センター 依田幸治）
縄文時代前期の竪穴住居や短刀を副葬した江戸時代の墓などが発見された。
発 表 2　北杜市 板橋遺跡 （発表者 北杜市教育委員会 千葉　毅）
長野県に分布圏がある縄文時代前期の方形柱穴列群が発見された。
発 表 3　南アルプス市 曽根遺跡（発表者 帝京大学山梨文化財研究所 櫛原功一）
縄文時代中期の六角形住居や古墳時代初頭の火災住居などが発見された。
発 表 4　南部町 原間遺跡 （発表者 山梨県埋蔵文化財センター　稲垣自由）
縄文時代後期の土器や石棒の他、平安時代の竪穴住居が発見された。
発 表 5　韮崎市 隠岐殿遺跡①（発表者 帝京大学山梨文化財研究所 宮澤公雄）
弥生時代や古墳時代の竪穴住居から土製勾玉や石包丁、銅鏃・鉄鏃などが発見された。
発 表 6　韮崎市 隠岐殿遺跡②（発表者 韮崎市教育委員会 閏間俊明）
戦国時代末期の礎石建物跡や輸入・国産陶磁器が多数発見された。



7　埋蔵文化財シンポジウム

埋蔵文化財シンポジウムは、発掘調査で得られた資料を調査研究し、その成果を広く県民に発表するものである。シンポジウムでは発掘調査担当者だけではなく関連分野の専門家を交えて多角的に検討を加え、課題のテーマをより深く掘り下げていくものである。当埋蔵文化財センターが開催する「遺跡発表会」や「山梨の遺跡展」は最新の発掘調査成果を速報的に発表するものであるのに対して、この埋蔵文化財シンポジウムでは、テーマ設定をし、過去に得られた資料を研究した成果を深く掘り下げ発信するという位置付けにある。

平成21年度は、昨年度に引き続き財団法人やまなし文化学習協会山梨県生涯学習推進センターの「やまなし再発見講座」と連携して「社会を支えた石の技術－成立と展開を考える－」と題して実施した。近年、県内各地で様々な開発などにより発掘調査が進み、それらの中には「石組み・石積み・石垣」といった石を利用した構築物の発見も多い。古墳時代後期では、甲府盆地という狭い範囲に異なる技法で造られた横穴式石室を持つ状況なども明らかになってきた。また、最近では国指定史跡武田氏館跡、県指定史跡甲府城跡などの石垣整備や全国でも希な治水遺構である堤防関連の遺跡などの発掘調査や史跡整備、活用などを通して石を使用した構築物への関心が深まってきている。

シンポジウム開催前に４回のサテライト講座を４名の講師が調査で得られたり、日頃の研究によって判明した成果について以下の内容の講演を行った。

日　時　平成22年１月７日(水)　「古代の石積み～県内の古墳発掘調査成果を中心に～」
山梨県埋蔵文化財センター　吉岡弘樹
平成22年１月14日(水)　「城郭の石積み・石垣～武田氏館跡から甲府城跡へ～」
甲府市教育委員会　佐々木満氏
平成22年１月21日(水)　「治水工事における石積みの姿」
南アルプス市教育委員会　斎藤秀樹氏
平成22年１月28日(水)　「石工をめぐる伝統技術の保存と活用」
山梨県埋蔵文化財センター　野代幸和

これらの講演は、山梨県生涯学習推進センターで午後２時から４時までの間に行われると同時に県内の各サテライトスクール（中北合同庁舎・東山梨合同庁舎・南巨摩合同庁舎・北都留合同庁舎）へも配信された。

その後、上記の講演を受け、そのまとめとして特別講演とパネルディスカッションを実施した。その内容は次のとおりである。

日　時　平成22年２月７日（日）午後１時～４時30分
会　場　甲府市中央公民館（甲府市中央部市民センター内）２階大ホール
日　程　午後１時00分～１時15分　開会挨拶
午後１時15分～２時45分　特別講演　「社会を支えた石の技術－成立と展開を考える－」
帝京大学山梨文化財研究所所長　萩原三雄氏
午後２時45分～３時00分　休憩・展示物見学
午後３時00分～４時25分　パネルディスカッション
「構築技法の展開そして今に残るその技術」
コーディネイター　山梨県埋蔵文化財センター所長　小野正文
パネラー　萩原三雄・佐々木満・斎藤秀樹各氏　吉岡弘樹・野代幸和
午後４時25分～４時30分　閉会

８　山梨の遺跡展２０１０

「山梨の遺跡展2010」は、平成21年度中に県内で実施された発掘調査の成果などを、広くいち早く県民の方々へ公開するという趣旨で、平成22年３月13日～４月12日まで県立考古博物館の多目的室で開催した。今回で22回目の開催であり、例年通り観覧無料とした。

展示内容は、（１）当センターで発掘調査を行った12件の遺跡の紹介、（２）県内の各教育委員会で発掘調査を行った遺跡の紹介、（３）当センターの資料普及活動、埋蔵文化財学習活用事業の紹介である。次に詳細を述べる。

（１）各事業に伴う調査として、中部横断自動車道建設に伴う原間遺跡の調査では縄文時代の石棒、石鏃などの石製品を中心に展示。吉田河口湖バイパス建設に伴う滝沢遺跡の調査では、平安時代の多数の墨書・刻書土器などを展示した。都留バイパス建設に伴う美通遺跡の調査では、縄文早期～平安時代、中世～近代と幅広い時代にわたっての遺物を紹介し、県内では珍しい猿形土製品なども展示し

た。山梨リニア実験線に伴う調査では、御所山遺跡を始めとする笛吹市内の4つの遺跡の調査成果を紹介した。今年度で5ヵ年目の甲府城跡石垣維持管理事業では稲荷曲輪石垣補修の様子を紹介、そして、平成21年度から実施の山岳信仰遺跡分布調査では今回は富士山信仰に関わる3箇所の調査成果を紹介した。

（2）今回は５つの遺跡の調査成果を展示した。笛吹市教育委員会の甲斐国分寺跡では明らかになった金堂規模を紹介。富士河口湖町教育委員会の西川遺跡では「川」の墨書が注目される奈良時代の須恵器などを展示。北杜市教育委員会では県内では珍しい「方形柱穴列」を紹介し、同市の山崎第4遺跡では縄文時代の非常に大きな土器やヒスイ大珠を展示した。南アルプス市教育委員会の後田堰取水口堤防跡では、明治･大正時代の木工沈床修復跡を紹介した。

（3）土器作りなどの体験学習を支援する出前支援、発掘体験セミナー、各シンポジウム、発表会などの資料普及事業を写真、パンフレットなどで紹介し、埋蔵文化財学習活用事業の一環として木製品の復元品（竪杵・又鍬）を展示した。

これらの展示を通して、県民の皆様に埋蔵文化財への理解、郷土への歴史認識を深めていただけたと考える。

９　埋文やまなし

◆３３号

本号は「山の神々と考古学」と題し、山々に囲まれた山梨県における山岳信仰遺跡の調査成果を紹介する特集号とした。巻頭で五丈岩から見つかった山の信仰に関わる品々を紹介し、その他にも、大規模な配石遺構が見つかっている金生遺跡、金峰山信仰で中心的な存在である金桜神社の奥社地一帯に広がる遺跡、富士山二合目で、富士山開山の祖である役行者像が祀られていたといわれる行者堂跡の調査成果や吉田口登山道の関連遺跡を紹介した。また、江戸時代の登山風景を描いた永青文庫所蔵の『富士登山図巻』についても紹介した。

◆３４号

本号では、平成21年度に発掘調査を行なった遺跡の中から、主要なものを紹介する発掘成果速報号とした。巻頭では、国の指定史跡となって80周年を迎える銚子塚古墳附丸山塚古墳について、地元の人々から大切に守られて現在に受け継がれている経過を紹介した。発掘速報としては、古墳時代前期の住居跡が発見された御所山遺跡、笛吹市御坂町に所在する太鼓畑遺跡、墨書や線刻が入った土器が見つかっている滝沢遺跡、旧石器時代～平安時代の遺物が確認された原間遺跡の調査成果について紹介した。

◆３５号

本号は、前号に続き平成21年の発掘成果速報号とした。巻頭では市町村埋蔵文化財発掘担当者研修会「遺跡を再度掘る意義と成果について」を紹介した。発掘速報としては、縄文時代前期末や奈良・平安時代の住居跡が見つかった美通遺跡について詳しく紹介し、前号で紹介した滝沢遺跡・原間遺跡・太鼓畑遺跡について整理作業の結果明らかになったことを合わせて紹介した。また、平成21年度に学校向けに実施した出前支援事業（土器作り・火起こし・勾玉作り・土器と石器の話）についても紹介した。

10　県指定史跡甲府城跡活用事業

県指定史跡甲府城跡は、都市公園舞鶴城公園としても憩いの場として親しまれてきた。1990(平成2)年より県土木部により舞鶴城公園整備事業が着手され、また2004(平成16)年には稲荷櫓が完成し、史跡公園としての整備が一段落下した。平成17年度からは石垣の維持管理工事を継続的に実施し、利用者への安全対策、史跡の維持に努めている。近年の城・武将ブームにより訪れる県内外からの訪問者も多く、利活用にむけた検討の必要性も増している。そのような状況の中、出土資料の公開や甲府城のインフォメーションセンター的な要素を付け加えた内容で、稲荷櫓を活用して常設展示コーナーを設置し、「信玄公まつり」に合わせた企画展示も行っている。それでも現地に専門職員が常駐していないこともあり、所管する学術文化財課や調査を実施した当センター、資料を保管する考古博物館、観光ボランティアの「甲府城御案内仕隊」を所管する観光振興課、公園の管理を所管する都市計画課と中北建設事務所には多くの質問や依頼がよせられており、一元的に対応できる機関の必要性も課題となっている。当センターでは甲府城に関わる様々な調査等を継続的に行ない、1590年代の築城以来400年以上の歴史を育んできた甲府城の正確な歴史や姿を知り、親しみを持ちながら次世代に伝えるように努めている。

講演会等

観光振興課より依頼があり、観光ボランティアガイド「甲府城御案内仕隊」養成講座として、平成21年5月10日(日)に「史跡としての甲府城・文化財保護と活用・城下町遺跡等」、6月21日(日)「新規県指定文化財「金箔鯱瓦」の意味と課題、候補資料と共に観光資源への活用を探る」に係るテーマで県民情報プラザ３Ｆ会議室において講演を行った。周辺の文化財、城内踏査や常設展示等の紹介も合わせて実施し、情報の共有化を図ることに一役買った。

甲府城下町を語る会より依頼があり、会員以外にも門戸を開いた「甲府城の石垣のみどころ」と題する講演を平成22年1月24日（日）に行った。現存する築城初期の野面積石垣に残されたメッセージを紹介しながら解説を行った。参加者の興味関心も深く有意義な時間を提供できた。

生涯学習推進センターと当センター主催によるやまなし再発見講座＆埋蔵文化財シンポ「社会を支えた石の技術」と題する講座を行い、石工技術の時代的な変遷から石積技術の保存・継承などについて講演を行った、平成22年1月28日(木)に「石工をめぐる伝統技術の保存と継承」を生涯学習推進センター・セミナー室、2月7日（日）に特別講演＆シンポジウムを甲府市中央公民館・大ホールにおいて実施した。参加者の興味関心も深く、石積み石工技術の最新の情報を提供すると共に、問題点を共有することから、現在の危機的な状況について警鐘を促すことができた。残された課題は山積である。

第７回全国城跡等石垣調査研究会

平成22年1月21日(木)～23日(土)に甲府市社会教育センター・大ホールにおいて開催された。これに併せて当センターでは、一階ロビー付近の展示コーナーを利用して、甲府城においてこれまでに行われてきた石垣解体改修工事の様子や、現在実施している維持管理のための補修・修繕工事に関係する写真展示を実施した。主宰する学術文化財課では最終日に現地視察を、また伝統文化研究会による割石実演や石工道具類が公開された。

啓蒙普及活動等

甲府城稲荷櫓において「昔覚ゆる甲府城展－城と城下町－」と題して、平成21年4月10日から19日に特別展示を実施。甲府城跡保存活用等調査検討委員会の成果を基に紹介する展示を行った。築城期における主郭部の建物の存在や分布を裏付ける素材と共に新規に発見された京都大学所蔵「甲府城並

びに近辺絵図」パネルを提供。信玄公祭り会期中に併せて開館時間を午後8時まで延長して対応を行なった。

また、埋蔵文化財としての甲府城跡や石垣補修工事について、その目的や意義、歴史や伝統的な石工技術に対する理解を深めてもらうために、観光ボランティアを対象とした施工現場の見学会、一般を対象にした石割・詰石体験や見所ツアーを開催した。また石割・詰石体験事業については、公共事業のイメージアップの一環として県土整備部・施工業者と協力して実施したもので、見所ツアーと同様に埋蔵文化財センター発掘体験セミナーの一事業として実施した。内容は以下のとおりである。写真については整備報告書に掲載した。

平成21年8月10・11日(月・火)の両日、観光ボランティア向けに、整備工事の現況と意義について現場見学会を実施し、45名の参加があった。高所の石垣を観察する機会としては貴重な経験であった。

平成21年8月23日（日）9:00～12:00第9回発掘体験セミナー「甲府城下町の痕跡を探そう」と題して、今も残る甲府城周辺の遺構を巡りながら、江戸の姿を探求した。当日は47名の参加があった。

平成21年10月25日（日）9:00～12:15第10回発掘体験セミナー「甲府城で石垣構築技術を体験！－石を引き上げる・引く・割る－」と題して、神楽桟と二又、木製滑車による石垣石材の吊上げと積み上げ実験、ソリとコロを使って石を曳く実験、石工道具を使った「割石」や、石肌の面を調整する「ハツリ」といった技術的な体験学習を行った。準備段階から当日の体験まで、熟練した石工職人や工事関係者の協力を得ながら、現代の石割技術のデモンストレーションをはじめ、実技指導など幅広くご指導いただいた。当日は44名が参加し、実体験をとおして楽しく学ぶ機会を提供した。

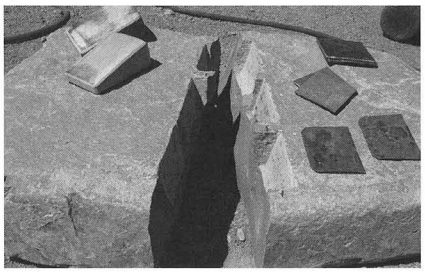
平成21年11月20日（金）県民の日9:30～12:00「探検！甲斐府中城」と題して、城内の見所探検ツアーを行った。今年度の調査で発見された瓦や鉄製品などを実際に手で触れて実感するところから入り、遺構の分布や往時の痕跡など、絵図史料や発掘成果を基に現地を訪れながら解説を行った。参加した子供たちが矢穴の大きさや門跡の実測を行うことにより、往時の規模など実感してもらう体験を実施した。当日参加者を含め25名の参加があった。インフルエンザの流行に伴い参加者が例年より大幅に減少した。

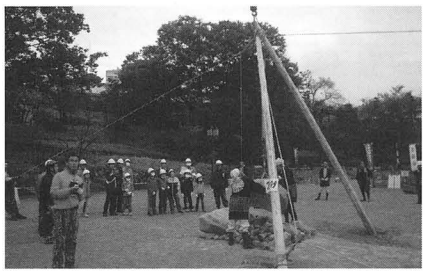
各種関連調査

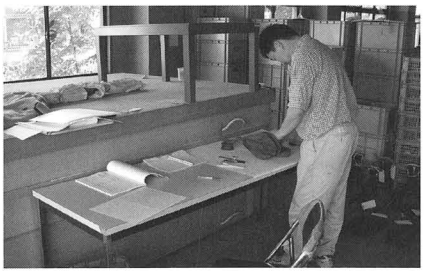
石工技術関連等の伝統技術調査を実施した。廃業した職人宅に保管されている道具類の実態調査を行い、道具組成や使用方法、採石地点などの聞き取りを行った。６月に山梨市内、７月に鰍沢町内、２月に身延町と韮崎市内で実施した。石工技術の検証作業を補修工事施工期間に実施している。

稲荷櫓特別展：開催状況

伝統技術検証：木製矢による割石


伝統技術検証：割り断面

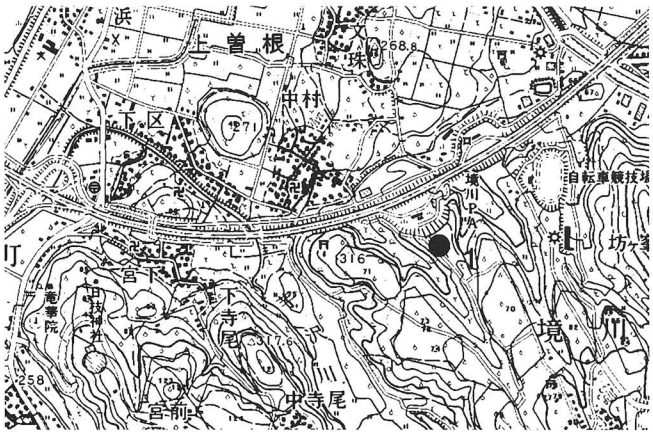

石垣構築技術：二又で積石


伝統技術調査：道具類の記録

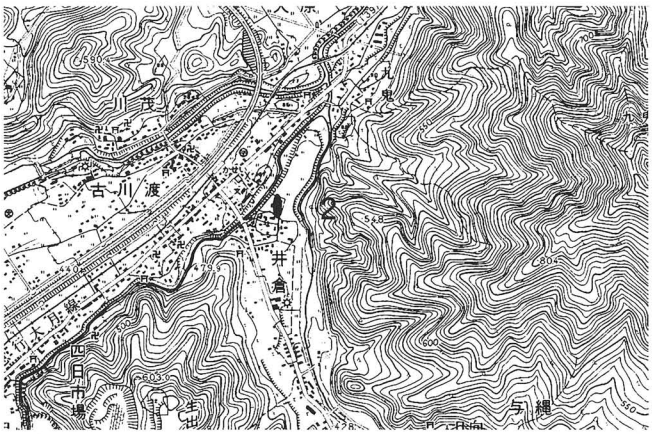
伝統技術調査：道具組成の記録

11　遺跡データ管理(GIS)

今年度の遺跡管理システム(Geographic Inf0rmaion System)に登録した遺跡の発見や範囲の変更等については、５件であった。その内訳は、遺跡の発見(笛吹市：１. 御所山遺跡)１件と、遺跡範囲の変更修正(都留市：２. 美通遺跡、上野原市：３. 松留遺跡、身延町：４. 穴山氏館跡・５. 元本国寺跡)の４件である。

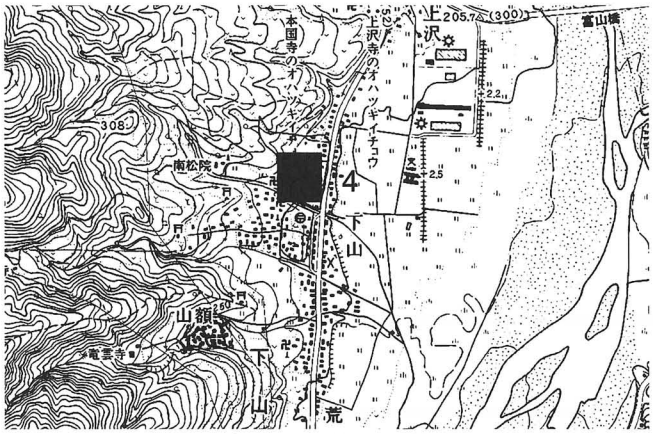


１笛吹市　御所山遺跡

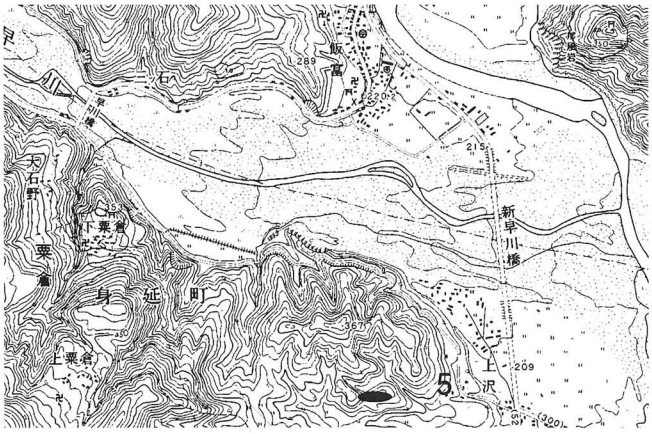


２都留市　美通遺跡

３上野原市　松留遺跡



４身延町　穴山氏館跡



５身延町　元本国寺跡

12　発掘調査・整理作業の標準化に関する検討

平成21年度はほぼ完成した調査標準に対して、センター職員が自分の担当した業務において個々に検討を加えた。それを基に成文化を行った。記録保存としての写真もデジタル化が急速に進んでおり、さらにはデジタルカメラを使った測量など調査機器・調査方法の変化が著しく、常に標準化の検討・改定が要求されている。

13　寄贈・購入図書

図書は毎年度約3,000～4,000冊が寄贈・購入されている。寄贈図書の内容は、全国の都道府県・市町村教育委員会から送付される発掘調査報告書、年報、研究紀要、博物館・資料館等の企画展図録などである。そのほかにも業務に関する考古学や歴史学の専門書、学術雑誌を購入している。

平成21年度(2009年度)は、約4,000冊の図書を登録した。また、業務に関する考古学や歴史学の専門書、学術雑誌の購入は77冊である。総登録数約89,000冊に大塚文庫約11,000冊を加えると約100,000冊が収蔵されていることになる。

登録された図書データは、図書データベース(マイクロソフト社データベースアクセス)で管理し、蔵書の検索もできるようにしている。

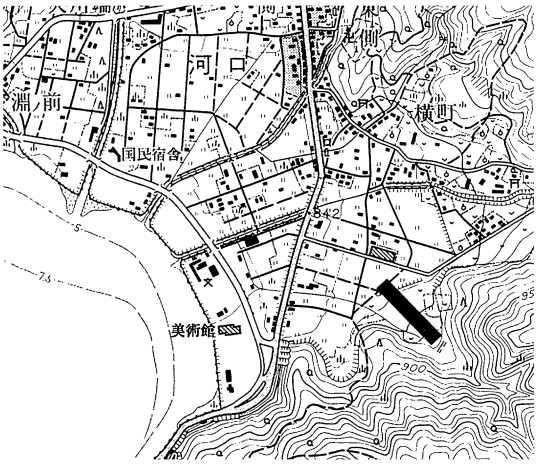
年々、増加していく図書を収蔵スペースが不足し、平成20年度(2008年度)に書棚設置場所を設けて書棚６棚を増設したものの現況では限界に達している。今後、新たな収蔵スペースの確保が大きな課題となっており、閲覧スペースを含めた保管場所の整備新設等も強く望まれるところである。

第Ⅱ章　各遺跡の発掘調査等概要

1　記録保存のための発掘調査

1－1　滝沢遺跡（たきざわいせき）

所　在　地　南都留郡富士河口湖町河口字滝沢534外
事　業　名　吉田河口湖バイパス建設事業
調査期間　2009年5月28日～10月28日
調査面積　3,020㎡
調査担当者　小林健二・古川明日香



滝沢遺跡　位置図

滝沢遺跡の立地する富士河口湖町の河口地区は、駿河国（静岡県）を通過する東海道と甲斐国を結ぶ古代の官道「甲斐路」または「御坂路」が通っていたといわれ、『延喜式』に記載された甲斐国三駅の１つ「河口駅」があったといわれている。

2005（平成17）年度に国道137号河口2期バイパス建設工事に先立ち調査が行われ、弥生時代から平安時代にかけての遺跡であることが確認された。中でも平安時代中期（9世紀～10世紀頃）の竪穴住居跡が15軒発見されており、この遺跡一帯が官道に沿って広がっていた集落であったことが考えられている。第２次となる今回の調査は、前回の調査区域Ⅰ区～Ⅲ区の東側に隣接することから、続けてⅣ区・Ⅴ区と設定した。この区域は、御坂山・三ツ峠山の南麓で、河口湖の北東部の標高840mから850mにかけての緩やかな斜面上に立地している。

中心となるⅤ区では、東側から中央にかけて地表下90cm前後に古墳時代から平安時代にかけての遺物包含層が30cmほど堆積しており、さらに地表下1.2m前後の層から平安時代中期（9世紀末～10世紀代）の竪穴住居跡15軒、集石遺構１基などが発見された。住居跡は数軒が切り合いながら南北に帯状に広がっており、確認面から床面まで深い住居で60cmほどあり、良好な状態で発見された。カマドの遺存状況も良く、焼土が厚く堆積していた。

これらの住居跡からは、この時代の甲斐国の特徴的な土師器「甲斐型土器」が大量に出土した。坏や皿には墨書・刻書が多数確認され、「川」という文字やまじない・魔よけの記号と考えられる格子状の記号がつけられた刻書土器の多さは特筆すべきものがある。「川」の刻書は「河口」の地名を表している可能性も考えられ、これらは本遺跡の性格の一端を現しているものであろう。須恵器や灰釉陶器などは少なく、土器の他には刀子や釘・鏃などの鉄製品や、網につける長さ4cmほどの土錘もあり、付近の川や河口湖で漁をしていたことがうかがえる。また、中世以降とみられる掘立柱建物跡1棟、土坑44基、溝状遺構3条なども発見されたが、土坑はいずれも直径1m前後の正円形のプランを呈し、出土遺物もほとんどなく、溝状遺構とともに性格は不明である。

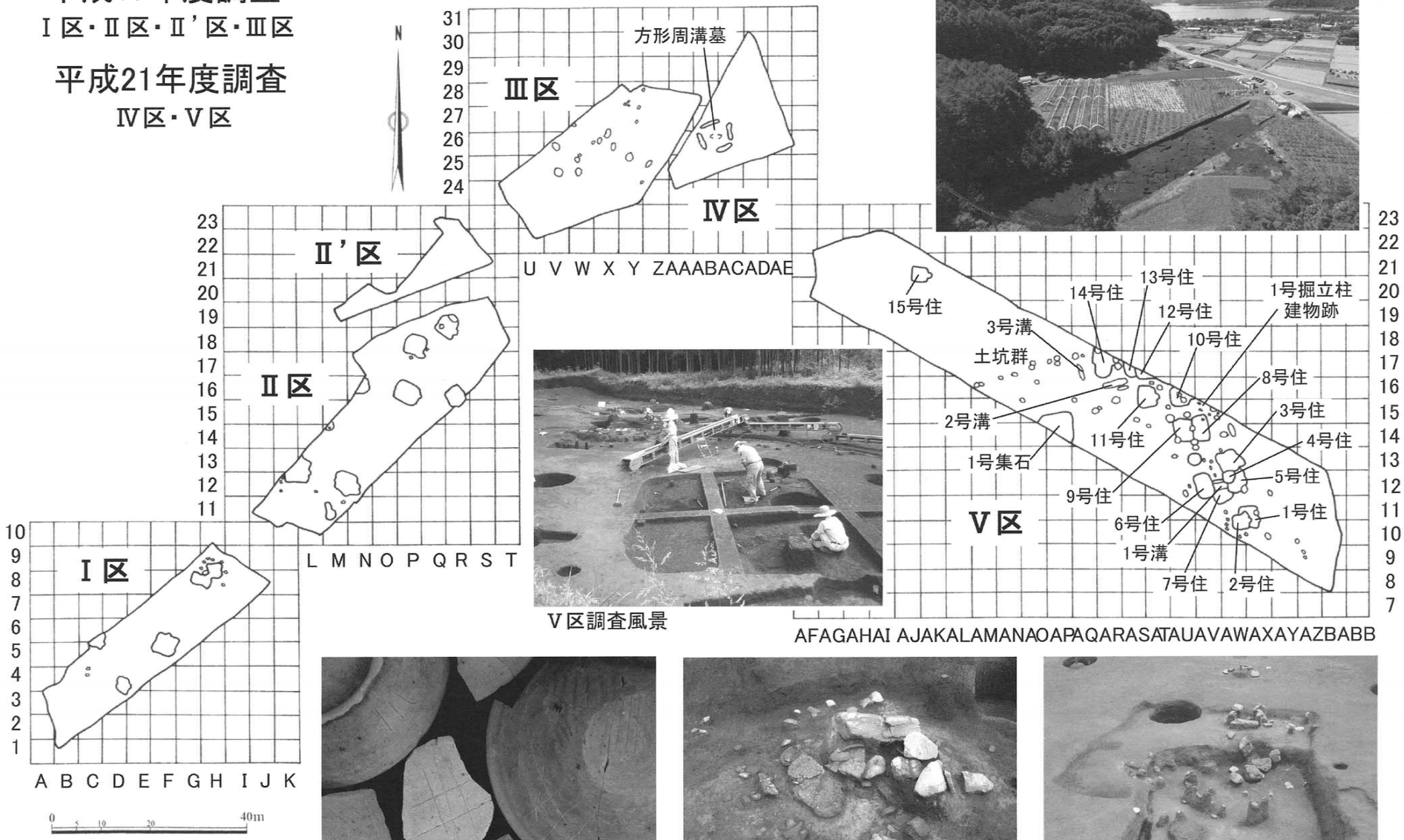
この他、古墳時代・平安時代の土器が出土した焼土遺構が4基確認され、Ⅴ区東側のさらに山側では弥生時代中期、縄文時代後期の土器や石器も出土しているが、これに対し西側は河川の氾濫による砂礫で覆われ、平安時代の住居跡1軒以外遺構はなく、火山灰層の下から古墳時代の土器が出土しているのみであった。

一方、先行して行われたⅣ区の調査では、一辺7mほどの方形周溝墓と見られる遺構が１基発見された。周溝の四隅が切れる、東海道沿いの地域で多く見られるタイプのもので、方形周溝墓の甲府盆地への波及ルートを考える上で重要である。しかし、周辺から弥生時代中期の土器片がわずかに出土しているのみで、周溝から全く遺物が出土していないこと、集団墓として群集するという特徴があるにもかかわらず、隣接する前回の調査区において方形周溝墓が１基も確認されていないことなど、いくつかの問題があり、郡内地域で初めての、しかも県内最古の方形周溝墓とすべきか、今後さらに検討が必要である。

滝沢遺跡は次年度以降も調査が計画されている。前回・今回の調査を含め、「河口駅」に関わるような遺構・遺物は発見されなかったが、文献に記載のある「河口駅」が今後発掘調査により発見される可能性は大きく、いずれにしてもこの地域一帯が、古代の駿河と甲府盆地を結ぶ交通の要衝であったことに違いはない。

平成17年度調査
Ⅰ区・Ⅱ区・Ⅱ’区・Ⅲ区

平成21年度調査
Ⅳ区・Ⅴ区



滝沢遺跡全景

Ⅴ区調査風景

滝沢遺跡構配置図

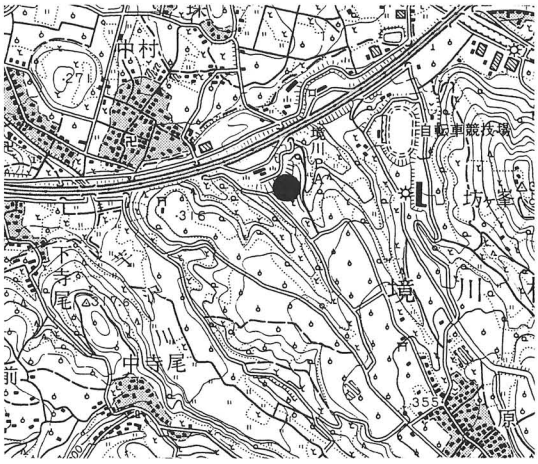
Ⅴ区出土刻書土器

Ⅴ区5号住居跡カマド

Ⅴ区1号・2号住居跡

１－２　御所山遺跡

所 在 地　笛吹市境川町藤垈字御所山1902 - 2外
事 業 名　山梨リニア実験線（境川土捨場造成）事業
調査期間　2009年10月1日～ 11月10日
調査面積　500㎡
調査担当　高野玄明・小林万里子



御所山遺跡　位置図

御所山遺跡の所在する笛吹市境川町は、甲府盆地の南東部、僅かな北西部の沖積地を除いて大部分が曽根丘陵上にある。曽根丘陵は盆地に向けて大小多数の支丘を突き出しており、御所山遺跡は間門川と境川とに挟まれた中央付近の一支丘の先端、中央自動車道下り境川パーキングエリアの背後、標高約317mに位置する。

山梨リニア実験線に伴う境川土捨場に関しては、1991（平成３）年に試掘調査を実施し、埋蔵文化財が確認された部分については本調査が行われている。

今回の御所山遺跡周辺は、1991（平成３）年の試掘調査により遺構が確認されてはいたが、不明瞭な部分が多いため、本年６月に土捨場造成工事により削平される箇所に範囲確認のための試掘調査を行ったところ、住居跡等が確認されたため今回の調査に至った。

本調査は、重機により表土剥ぎを行ったあと、人力による精査をおこない遺構や遺物を確認し、図面や写真等の記録作業を行った。

調査により確認された遺構は、住居跡1軒、溝3条、土坑2基、焼土跡1基、ピット7基が検出されている。

１号住居跡は弥生時代後期～古墳時代前期に位置づけられる。形状は隅丸長方形を呈し、長辺6.1m、短辺3.9m、深さ0.2mを測り、壁際には幅0.1～0.4m、深さ0.1～0.2mの周溝が見られる。ピットは住居内に４本検出され、直径0.25m～0.4m、深さ0.1m～0.4mを測る。住居内に土坑が２基検出されているが、本住居跡に伴うものかは不明である。また、住居に伴う炉の確認はできなかった。

出土遺物は、住居跡からは破片資料ではあるが台付甕、甕等の破片が出土している。

1号溝は、調査区北側で確認され、現状の規模は長さ19.4m、幅0.6～1.3m、深さ0.2～0.8mを測る。覆土中には中・近世の土器片や陶磁器、中には縄文時代の磨り石等も混在している。2号溝は、長さ13.8m、幅1.8～2.6m、深さ0.5～0.7mを測り、断面はＶ字状を呈し、覆土中には近世の陶磁器片や、黒曜石等が出土している。

3号溝は、長さ4.3m、幅0.15～0.3m、深さ0.1～0.3mを測る。溝状遺構としているが、１号住居跡の外側南西コーナーと同心円状に見られる。このため、１号住居跡の周溝の可能性もあり、１号住居跡が移設もしくは、拡張された可能性も考えられる。

また、ピットや土坑は、ほとんど覆土中等には遺物は見られず、時代・時期の特定は難しい。ピットは、合計7基が確認されており、その規模は長径0.35～0.67m、短径0.25～0.6m、深さ0.1～0.45mを測る。

本遺跡が所在する曽根丘陵の中位段丘上には、旧石器時代～平安時代に渡る数多くの遺跡が丘陵の至る所に確認されており、この曽根丘陵一帯が古くから極めて良好な生活空間を提供している。

今回の御所山遺跡の調査の結果、本丘陵上にも縄文時代、古墳時代、中近世の遺構や遺物が確認されている。この中で、狭小な調査区でありながら古墳時代前期の住居跡１軒が確認された。

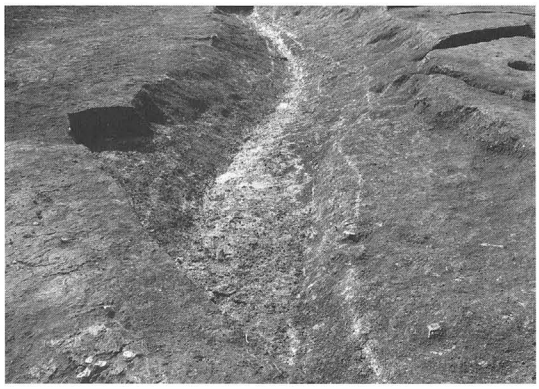
これは、本遺跡に近接する諏訪尻遺跡でも該期の集落が確認されており、この集落については、前期古墳が集中する旧中道町域が県内における政治的、経済的中心を担っていたころの一集団、集落であるとされ、御所山遺跡もその集落の一部を担うものとして考えられ、曽根丘陵における該期の歴史を解明する上でも、貴重な資料となる。

御所山遺跡空中写真（左上隅：中央自動車道下り境川PA）

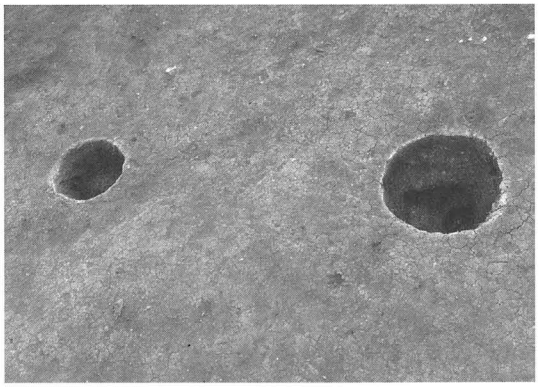
1号住居跡遺物出土状況

1号住居跡

1号溝状遺構



2号溝状遺構

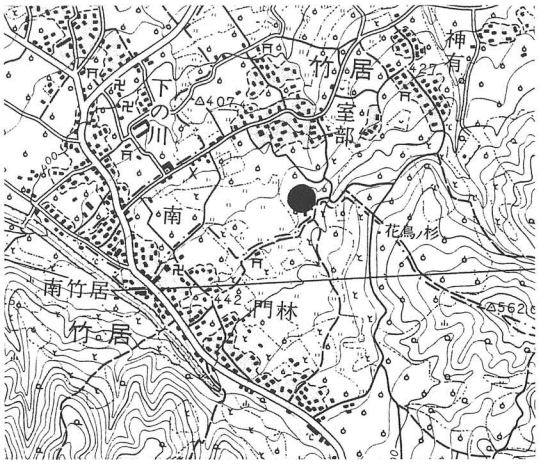


ピット6・焼土跡

作　業　風　景

1－3　太鼓畑（たいこばた）遺跡

所 在 地　笛吹市御坂町竹居字3237－2外
事 業 名　山梨リニア実験線建設事業
調査期間　2009年8月28日～11月4日
調査面積　140㎡
調査担当　三田村美彦・小澤美和子



太鼓畑遺跡　位置図

太鼓畑遺跡は笛吹市御坂町竹居字太鼓畑に所在し、御坂山塊から北流する浅川など河川の浸食によって形成された小丘上に位置し、標高は425m前後を測る。

調査区は東から西へ向かい傾斜しており、その比高差は4m近くにも及び、最も低い調査区西端では、表土（耕作土）を約10cm掘り下げると水が湧き出す黒褐色泥土層となり、遺物・遺構は確認されていない。また、調査区東端の南北方向に伸びる調査区でも表土（耕作土）を約50cm掘り下げると、60cmを超える大型の礫を混入する明黄褐色の粘性の極めて強い地山が確認され、遺物・遺構は検出されていない。恐らく、緩斜面であった地形を果樹畑とするため平坦に削平した結果と思われる。

遺物包含層や遺構が確認されたのは、調査区のほぼ中央付近から東西約10mの範囲内にかけてである。包含層は、上記した範囲で最大約1mの堆積が認められた。この厚い遺物包含層内からは、縄文時代中期に比定される土器片や磨石・石鏃などの石器類、9世紀後半を中心とする平安時代の土師器、須恵器など、多くの遺物の出土があった。そのため、多くの人力を要した詳細な調査となり、予想以上の時間を費やした。

包含層下から確認された遺構は平安時代住居跡1軒、時期不明の集石遺構1基、ピット5基である。このうち、住居跡は調査区中央よりやや東側で検出され、その北側は水路掘削のため消失しているが、全体の約2/3は残存していた。完存する南壁から類推すると一辺約4mを測る方形を呈する形態となろう。東壁ではカマドが検出されたが、黄白色の粘土を主体に構築された大型のカマドで、袖部の芯材や支脚については、ピットが検出されたのみで、既に人為的に取り外されたものと思われ、カマド廃棄の儀礼が執り行われていた可能性が有る。

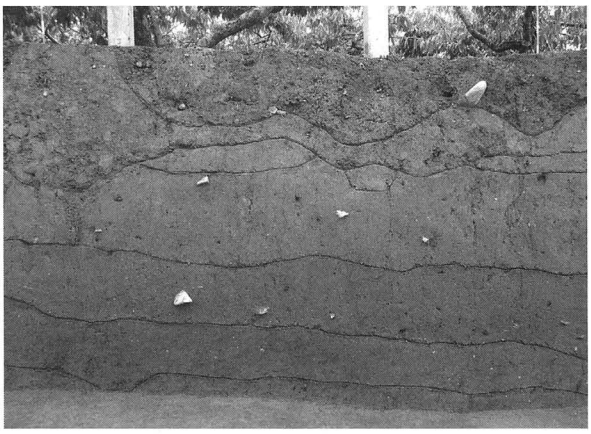
住居跡からはカマド南側袖部付近で、灯明皿に転用した可能性のある完形の坏が出土したほか、平安時代の土師器、須恵器、小刀と考えられる鉄製品、炭化種子などが出土している。このうち、最も多く出土した土師器の坏はその形態から、9世紀後半代に比定されるものが主体となり、本住居跡の時期も当該期に帰属するものと考えられる。

集石遺構は調査区西側で検出されており、掘り込みは確認できず南北75cm、東西50cmの範囲に5～20cm大の礫が面的に集中して検出されたものである。ピット5基は直径15～30cmの円形を呈し、深さは10～20cmを測る。これらの遺構のうち、住居跡やピットなどはその覆土が遺構確認面である地山とその色調が近似していることから、遺構確認に多くの時間を費やすこととなった。さらに、遺構覆土の掘り下げも覆土と地山の違いを確認しながら慎重に行った。

以上、太鼓畑遺跡の調査面積は140㎡と狭いが、厚い遺物包含層とその下の良好な平安時代住居跡の調査で、その調査面積と比べ、その2倍以上のボリュームをもつ調査となった。特に、住居跡は一部が失われていたにもかかわらず保存状態が良好で、1軒ではあるが注目されるもので、今後この地域の同時期の集落研究に寄与するものは多い。

いずれにしても、太鼓畑遺跡は今回が初の本格的調査となり、縄文時代と平安時代の遺物・遺構が検出され、本遺跡の性格の一端が解明されたことは意義深い。なお、本遺跡の中心は今回調査された箇所より南側になると思われる。

太鼓畑遺跡全景



遺物包含層（調査区南側断面）

包含層遺物出土状況

１号住居跡（西から）

１号住居跡完形土師器出土状況

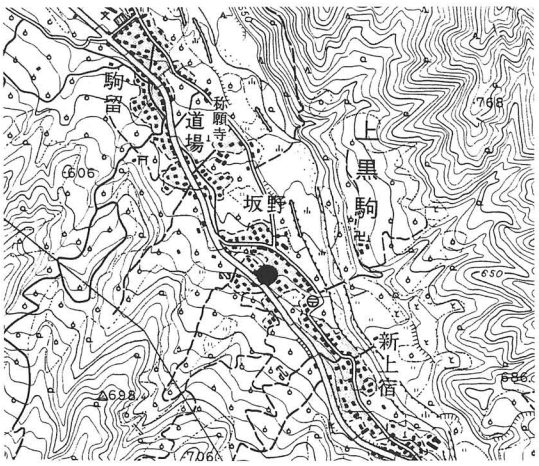
１号住居跡鉄製品出土状況

１号住居跡掘り方（西から）

１号集石遺構（西から）

1－4　六ッ長（むつおさ）遺跡

所 在 地　笛吹市御坂町上黒駒字六ッ長3423 - 2外
事 業 名　山梨リニア実験線建設事業
調査期間　2009年6月11日～7月16日
調査面積　260㎡
調査担当　三田村美彦・小澤美和子



六ッ長遺跡　位置図

六ッ長遺跡は笛吹市御坂町上黒駒字六ッ長に所在し、御坂山塊から甲府盆地南東部へ南流する金川左岸の、標高558m前後を測る河岸段丘上に位置する。調査区はその西側が撹乱を受け、遺構は確認されなかった。調査区中央から東側にかけての遺構確認には、遺構確認面である地山と遺構覆土の色調が大変近似していることから、人力による遺構確認に予想以上の時間を要した。その結果、調査区のほぼ中央から東側にかけては溝状遺構2条、土坑19基が検出された。

溝状遺構は南北方向に併走するように検出され、いずれも調査区南側で立ち上がっている。調査区東側で検出されたものを1号溝状遺構、西側から検出されたものを２号溝状遺構とした。1号溝状遺構は断面がすり鉢型を呈し、確認面からの深さは60～100cmを測る。覆土には地山とその色調が近似する黒褐色土が堆積していたことから、覆土と遺構の掘り方を確認するのが困難なため慎重な調査となり、人力と時間のかかるものとなった。1号溝状遺構からは、古墳時代前期に比定される土器片が出土している。

２号溝状遺構は、確認面からの深さは60～80cmを測る。覆土には主として砂礫や10～50cm近い礫が堆積し、それらを人力で発掘する多くの労力を必要とし、予想以上の時間を費やした。また、大型の礫を除去すると溝の断面形態が凹凸の激しいものとなった。遺物は摩耗した縄文、古墳、平安時代の土器片や、黒曜石の剥片などが出土している。

上記のことから、1号溝状遺構は、古墳時代前期に比定されよう。その性格は、調査区南側で立ち上がっていることを考慮すれば、四隅が切れるタイプの方形周溝墓が想定できるが、対応する溝が確認できず判然としない。2号溝状遺構は、その不定型な形態や砂礫が堆積し、出土遺物も摩耗するものが多いことから、人為的に掘削した溝が廃棄された後、自然の流路となったものか、自然の流路と思われる。時期は出土遺物の時期に幅があり、特定するのは難しい。

土坑は、直径30～70cm、深さ20～70cmを測り、円形を呈するもが主体となる。土坑からの出土遺物は、10号土坑から縄文時代の黒曜石製の石器破片（石匙あるいは掻器の可能性を有す）が出土したのみで、他からの出土は皆無であった。土坑のなかには、溝状遺構と重複するものがあるが、覆土の観察からは、溝状遺構を切って構築された土坑もみられる。以上のことから、検出された19基の土坑の性格として掘立柱建物跡や柵列、溝状遺構に付属する柱穴などが想定されるが、現状では、その時期を含め判然としない。今後、整理作業を進めていく中で、検討すべき課題となる。

いずれにしても六ッ長遺跡の本格的調査は今回が初となると同時に、周辺に周知の埋蔵文化財包蔵地が少ない金川左岸河岸段丘上での調査となり、注目される。特に１号溝状遺構については、周辺に同時期（古墳時代期）の遺構がみられず、方形周溝墓の可能性も有すことから、その重要性が注目される。こうした遺跡の性格の一端が明らかにされたことは意義深いものである。

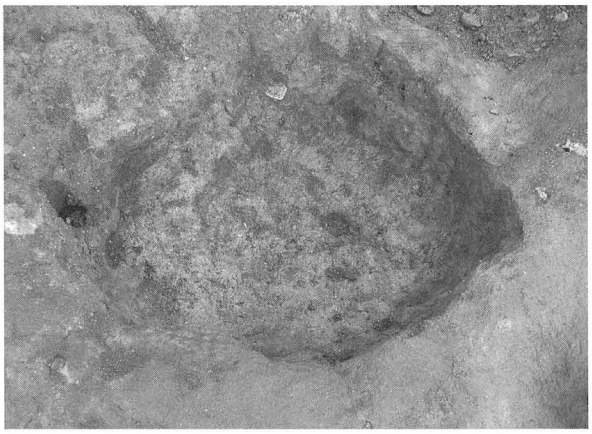
調査着手前

重機による表土除去

調査風景

１７号土坑

右から１号・２号溝状遺構完掘（南から）



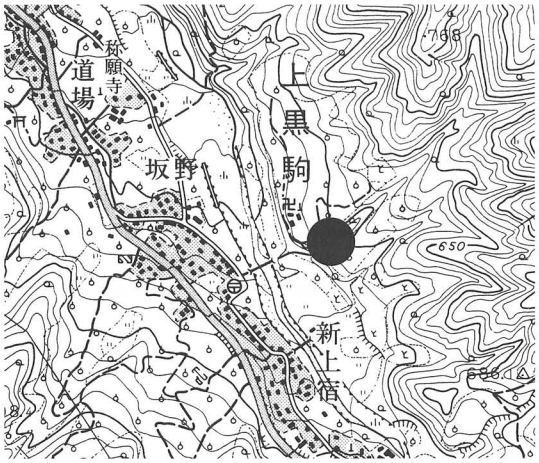
１０号土坑

空撮作業風景

空撮による調査区全景

１－５　御坂中丸（みさかなかまる）遺跡

所 在 地　笛吹市御坂町上黒駒6209 - 1外
事 業 名　山梨リニア実験線建設事業
調査期間　2009年6月10日～9月7日
調査面積　2,000㎡
調査担当　吉岡弘樹・皆川賢司



御坂中丸遺跡　位置図

御坂中丸遺跡は、御坂山地に源流を持ち急峻に笛吹川に下る金川の右岸にある山腹のなだらかな西向きの緩傾斜地(遺跡西端部標高約590m)に位置しており、金川を挟んで大栃山が遺跡地を凝視している。当遺跡は「黒駒土偶」の名称で知られる奇異な表情を持つ３本指の土偶が大正６年に発見された遺跡として古くから全国的に周知されている。また、やや甲府盆地に下った地域では桂野遺跡などの縄文時代の遺跡などが点在している。

調査方法は、対象地が笛吹市道と猪侵入防御用電気柵により分断されていたことや、隣接する果樹畑の収穫期と調査日程が重なるなどの制約があったため、対象地を分割して調査をすることとし、東側より、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区、北側にⅣ区を設定した。

まず、Ⅰ区・Ⅱ区南側・Ⅲ区・Ⅳ区を、重機により表土を除去し、世界測地系座標による基準杭の設置を行った。その後、人力による遺物包含層の掘削を行いながら、遺物の記録、取り上げ、また遺構及び、土層の堆積を確認し記録した。また、残りのⅡ区北側は、果樹の収穫後の調査後半に前者と同様に重機による表土剥ぎを行った後に調査を実施した。

【Ⅰ区】

現地表から約50cmの耕作土・盛土層がある。その下が遺物包含層となり、縄文時代中期を中心とした時期の土器片が出土している。

遺構は土坑が約20基確認されている。中でも、第14号土坑は朝顔状に開口した後、ほぼ垂直に壁面を作って下降しており、深度も深く坑底までは確認できなかった。なお、その形状から井戸の可能性も捨てきれない。

【Ⅱ区】

現地表から約30cmの耕作土があり、その下方に遺構確認面が存在する。遺構は土坑のみで約50基が確認されている。それらは、直径40～80㎝、深度30～60cmを測り円形または楕円形を呈するものが主体となっている。なお、土坑内に遺物が含まれているものもあるがそのほとんどが縄文時代中期の土器である。

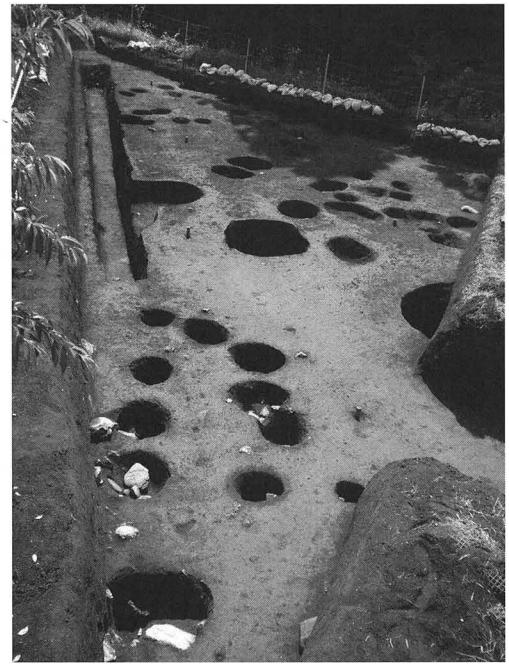
【Ⅲ・Ⅳ区】

現地表から約30～50cmの耕作土があり、その下に薄く遺物包含層が存在する。発見された遺構は無く、遺物も僅かに縄文時代中期と推される土器片が検出されたのみであった。

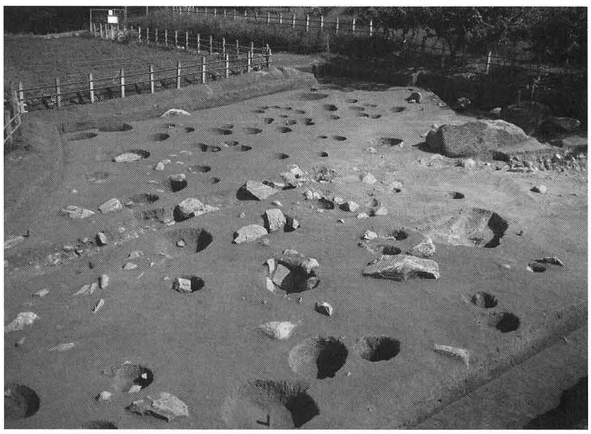
上記のことから、今回は遺跡の西端部のみの調査であったため遺構は土坑の検出にとどまった。しかしながら、出土遺物については、基礎的整理作業において県内では出土例の少ない縄文時代早期（古屋敷遺跡早期第Ⅳ群土器）の深鉢型土器片が含まれていることが判明した。このことは、周知の埋蔵文化財包蔵地が少ない当地域での歴史的資料を埋める発見となったと言って間違いないであろう。

調査前の様子(Ⅱ区からⅠ区を見る)

遺跡より御坂峠を望む



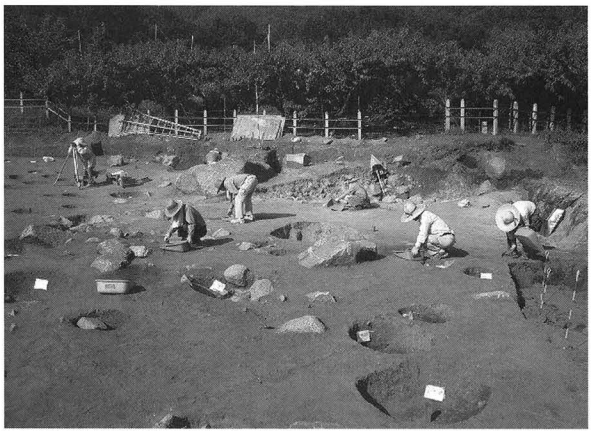
Ⅰ区完掘状況



Ⅱ区完掘状況(北側)

第35・36号土坑

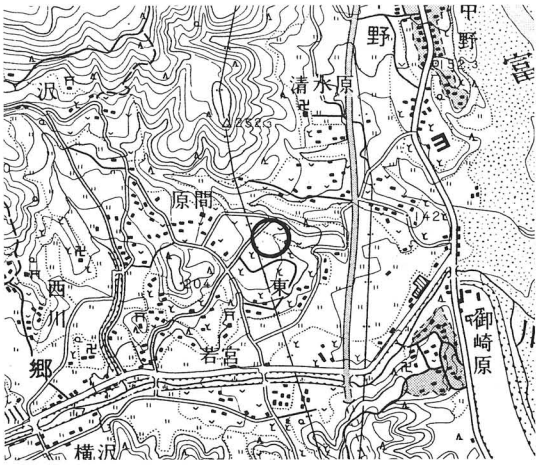
第５・６号土坑



調査風景

1－6　原間（はらま）遺跡

所 在 地　南巨摩郡南部町本郷字原間309番地外
事 業 名　中部横断自動車道建設事業
調査期間　2009年6月8日～11月25日
調査面積　6,000㎡
調査担当　山本茂樹・稲垣自由



原間遺跡　位置図

原間遺跡は南部町本郷字原間に所在し、船山川の支流である矢沢川と小川に挟まれた緩傾斜地に位置し、標高は170m前後を測る。発掘調査は6月8日から6月29日まで重機による掘削を行い、6月22日からは作業員を動員し人力による掘削及び遺構確認を行った。また、調査区が農道によって分断されているため、調査区を北側からA区、B区、C区の3地区に分け、A区、B区、C区の順に調査を行った。

調査の結果、A区からは縄文時代後期と考えられる焼土遺構1基、土坑42基、弥生時代後期末から古墳時代初頭のものと考えられる掘立柱建物1棟が発見された。出土遺物は、旧石器時代のスクレイパー、縄文時代中期後半から後期前半を主体とした土器片、打製石斧、磨製石斧、石棒、石錘、土器片錘、弥生時代後期末から古墳時代初頭の土器片、奈良・平安時代の土器片である。

B区からは土坑が1基発見された。出土遺物は縄文時代中期後半から後期前半を主体とした土器片である。

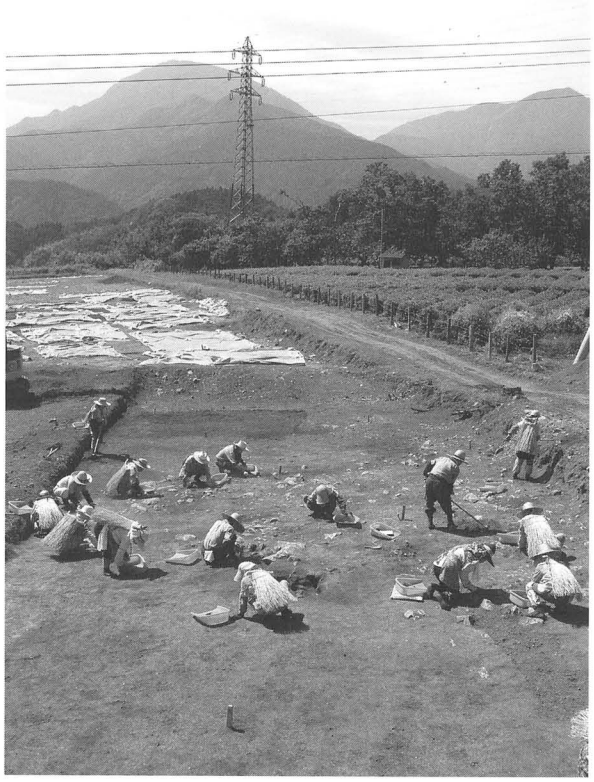
C区からは縄文時代のものと考えられる貯蔵穴2基、平安時代の住居1軒、土坑77基が発見された。出土遺物は縄文時代中期後半から後期前半を主体とした土器片、打製石斧、磨製石斧、石棒、石錘、弥生時代前期後葉の土器片、平安時代の土器片、鉄製品である。

各区とも西側から東側へ向かって緩やかに傾斜しており、もっとも浅い地点では、表土下30cm～40cmで基盤層（黄褐色土）、もっとも深い地点では表土下120cmで基盤層（黄褐色土）に達する。基盤層（黄褐色土）下は拳大から人頭大の礫層になっており、一部が基盤層（黄褐色土）中に含まれ、筋状に露呈している。遺構はこの礫層を避けるようにつくられているが、中には礫を取り除いて土坑をつくっている例なども確認された。

調査地点では、お茶畑が広がり現地表面から50cm～100cmの耕作を受けていたことや、台地の縁辺ということとも関係し、発見できた住居跡は平安時代の1軒であった。また、掘立柱建物については、1間×1間で梁行約180cm×桁行約360cmと桁行がやや長いため、間にもう一つ柱穴が存在することを想定し精査を行ったが柱穴らしき遺構は発見できなかった。掘立柱建物の時期については、柱穴内から弥生時代末から古墳時代初頭のものと考えられる高坏脚部が出土したことと、該期の土器が周辺から出土していないということから判断したものである。この建物は、調査区内でも谷部に近いA区に1棟のみが単独で発見されたという状況から、その性格についても注目される。

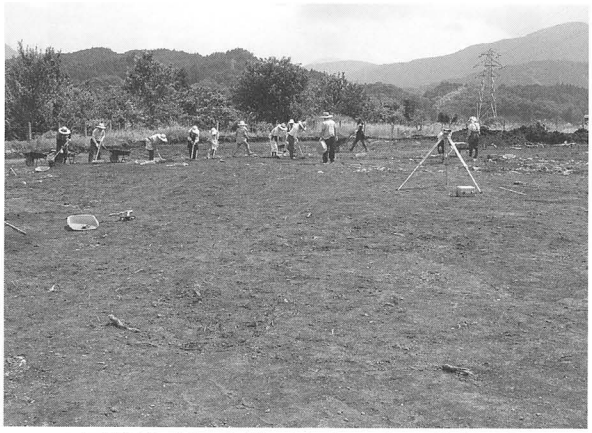
縄文時代の住居跡は確認されなかったものの、破壊された状態の石棒が多数発見されたことや、注口土器の注口部のみ多数出土するなど、祭祀的色彩を含むという、本遺跡の性格の一端を解明することができたことは評価できる。

なお、本遺跡の中心は、調査区の西側の台地中心部に広がるものと推測される。



B区遺構確認作業（左奥の山は篠井山）

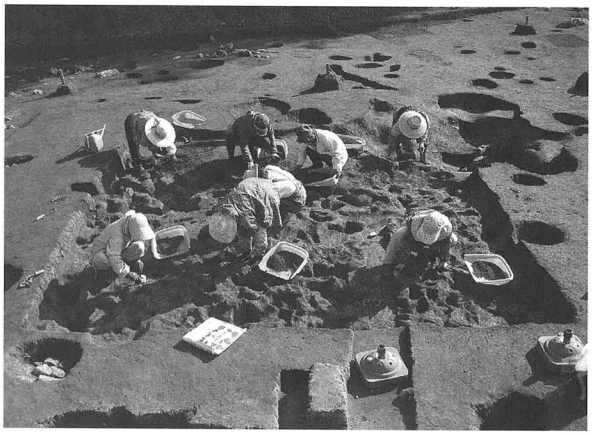
A区遺構確認作業（奥の山は思親山）



C区遺構確認作業（右奥の山は篠井山）

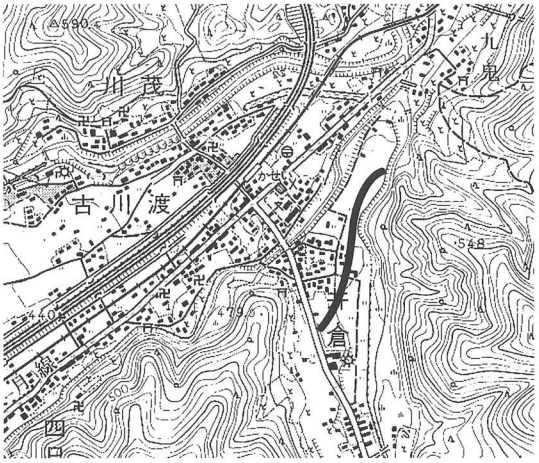
C区平安時代竪穴住居跡掘削作業（平安時代の竪穴住居跡の中に埋まった土を掘り下げ）

C区土坑掘削作業



C区平安時代竪穴住居跡掘り方確認作業（平安時代の竪穴住居跡の床面をはがして住居の構築方法などを確認）

１－７　美通（みとおし）遺跡（Ａ２区・Ｂ３区）



美通遺跡　位置図

所 在 地　都留市井倉地内
事 業 名　国道139号都留バイパス建設
調査期間　2009年６月29日～2009年12月25日
調査面積　3,100㎡（Ａ２区：1,900㎡　Ｂ３区：1,200㎡）
調査担当　石井　明・依田幸浩

美通遺跡は、富士五湖のひとつである山中湖を水源とする桂川の支流朝日川の左岸にあり、標高413～418mほどの北に緩やかに傾斜する河岸段丘面に立地する。発掘調査は昨年度から実施されており（Ｂ１・２区）、今年度はＡ区（Ａ１・２区）、Ｂ３区、Ｃ区の調査を行った。

Ａ２－１区

Ａ２－１区では、土坑２基、溝状遺構12条、石列２条を発見した。いずれの遺構も時期を特定できる遺物を伴わないため、時期は不明である。遺物は、県内で４例目の発見となる猿形土製人形１点（古代～中世か）、人骨とともに出土した短剣１口（ふり）（近世）、古銭３枚（寛永通宝 他）（近世）、キセルや釘などの金属製品十数点（近世～近代）、土器や陶磁器の破片（古代～近代）などが出土した。

Ａ２－２区

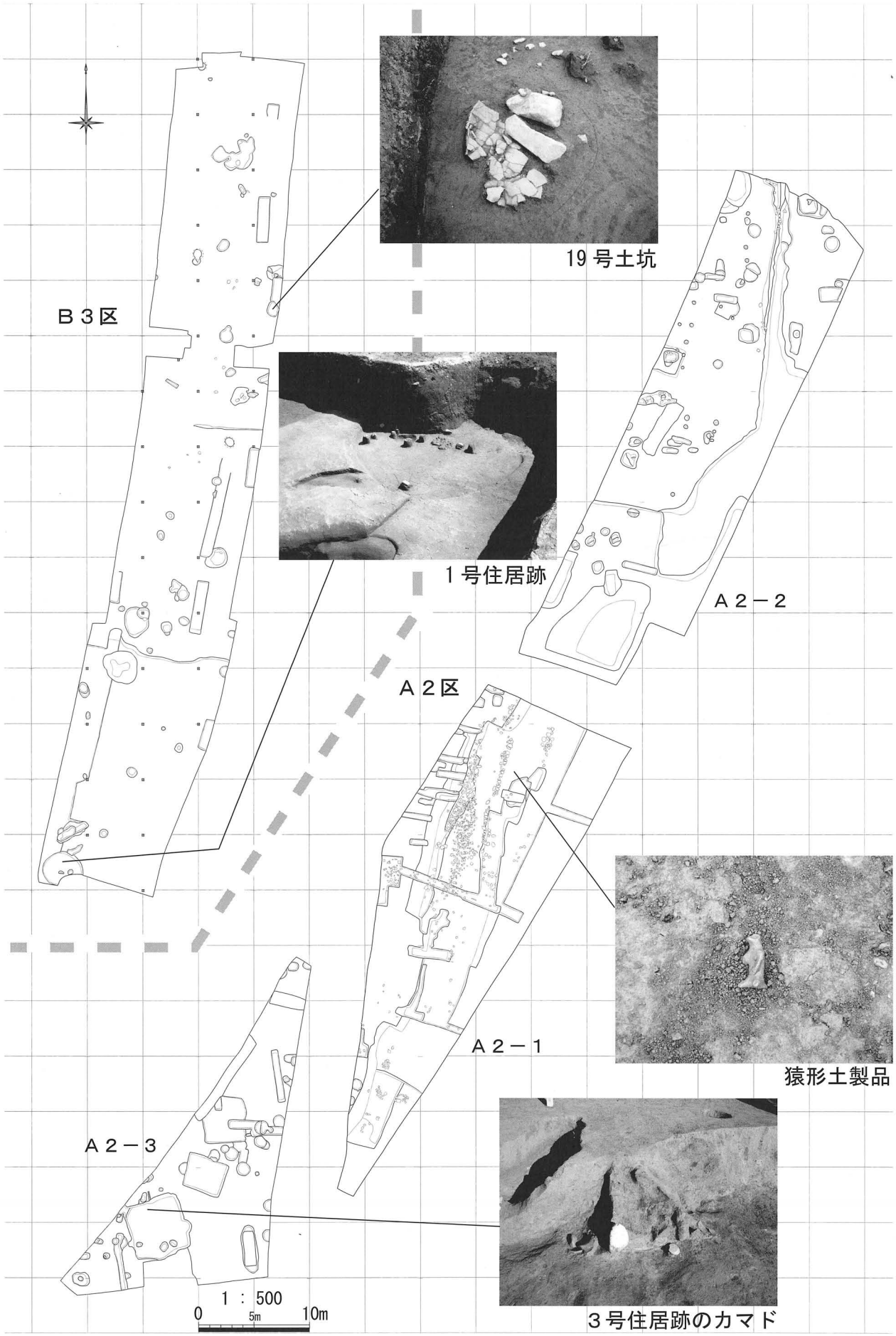
Ａ２－２区では、近世～近代の土坑21基、溜池状遺構１基、時期不明の溝状遺構11条、ピット７基、近代の竪穴状の土坑４基を発見した。１号土坑は、長径約１ｍ、厚さ50cmほどの大きな石が入れられ、その上面や周囲は10～30cmほどの石で覆われていた。１号土坑からは、近世の磁器や土師質土器の破片、用途不明の金属製品が出土した。また、12号土坑は直径約1.5m、深さ約1.5mと大型で、古銭（北宋銭「元豊通寶」初鋳年1078年）１枚、リング状の金属製品１点などが出土した。

Ａ２－３区

Ａ２－３区では、奈良～平安時代の竪穴住居跡４軒、時期不明の土坑32基、溝状遺構７条、ピット４基を発見した。１号住居跡は、平安時代前半の住居跡である。カマド付近の住居床面から甲斐型土器の坏（つき）（お椀形の土器）の破片が出土した。２号住居跡と３号住居跡は、奈良時代の住居跡である。２号住居跡と３号住居跡からは、土師器の甕や丸底の坏の破片、須恵器の坏や蓋（ふた）、刀子（とうす）（小刀）と思われる金属製品などが出土した。また、３号住居跡のカマドの両側には須恵器の蓋が１枚ずつ裏返しに置かれていた。カマドを持つ住居跡では、住居跡を使用しなくなった時に、カマドをわざと壊したり、坏や皿を伏せて置いたりする儀式（カマド祭祀）がよく行われるが、３号住居跡の事例もカマド祭祀の一例ではないかと考えられる。４号住居跡は、３号住居跡が使用されなくなった後に、３号住居跡と同じ位置に作られた住居跡で、時期（平安時代か）などは不明である。

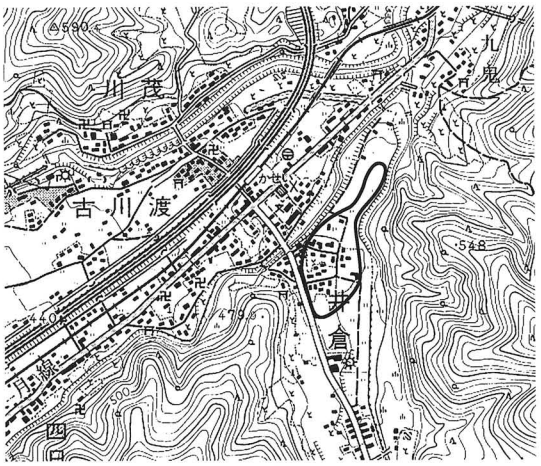
Ｂ３区

昨年度調査を実施した美通遺跡Ｂ２区の南側にあたる。遺構確認面が２面あり、第１面からは、時期不明の土坑３基、ピット２基、第２面からは、縄文時代前期末（十三菩提式期）の竪穴住居跡１軒、土坑１基、縄文時代前期中葉（黒浜式平行期）の土坑３基、時期不明の土坑22基、縄文時代早期の屋外炉と思われる石の入ったピット１基、時期不明のピット３基、さらに、１面と２面の中間にあたる黒褐色土中から集石土坑１基、集石遺構５基（縄文時代前期中葉～末）を発見した。縄文時代前期末の竪穴住居跡は一部が調査区外となる。住居跡内の遺物の量は少ないものの、十三菩提式土器の破片や磨石、黒曜石の破片などが出土した。土坑には、深鉢形の土器が出土したものがいくつかあり、これらは土坑墓としての使用が想定される。また、袋状に土坑内部を掘り広げた袋状土坑も数基発見された。袋状土坑は、クリやドングリなどの食料を貯蔵した土坑ではないかとされている。


19号土坑
B３区
1号住居跡
A２－２
A２区
A２－１
猿形土製品
A２－３
1 : 500
0
5m
10m
3号住居跡のカマド

１－８　美通（みとおし）遺跡（C区＋A1区）

所 在 地　都留市井倉285外
事 業 名　国道139号都留バイパス建設
調査期間　2009年6月29日～12月25日
調査面積　4,280㎡（C区約2,900㎡　Ａ１区約1,380㎡）
調査担当　笠原みゆき・堀込紀行



美通遺跡　位置図

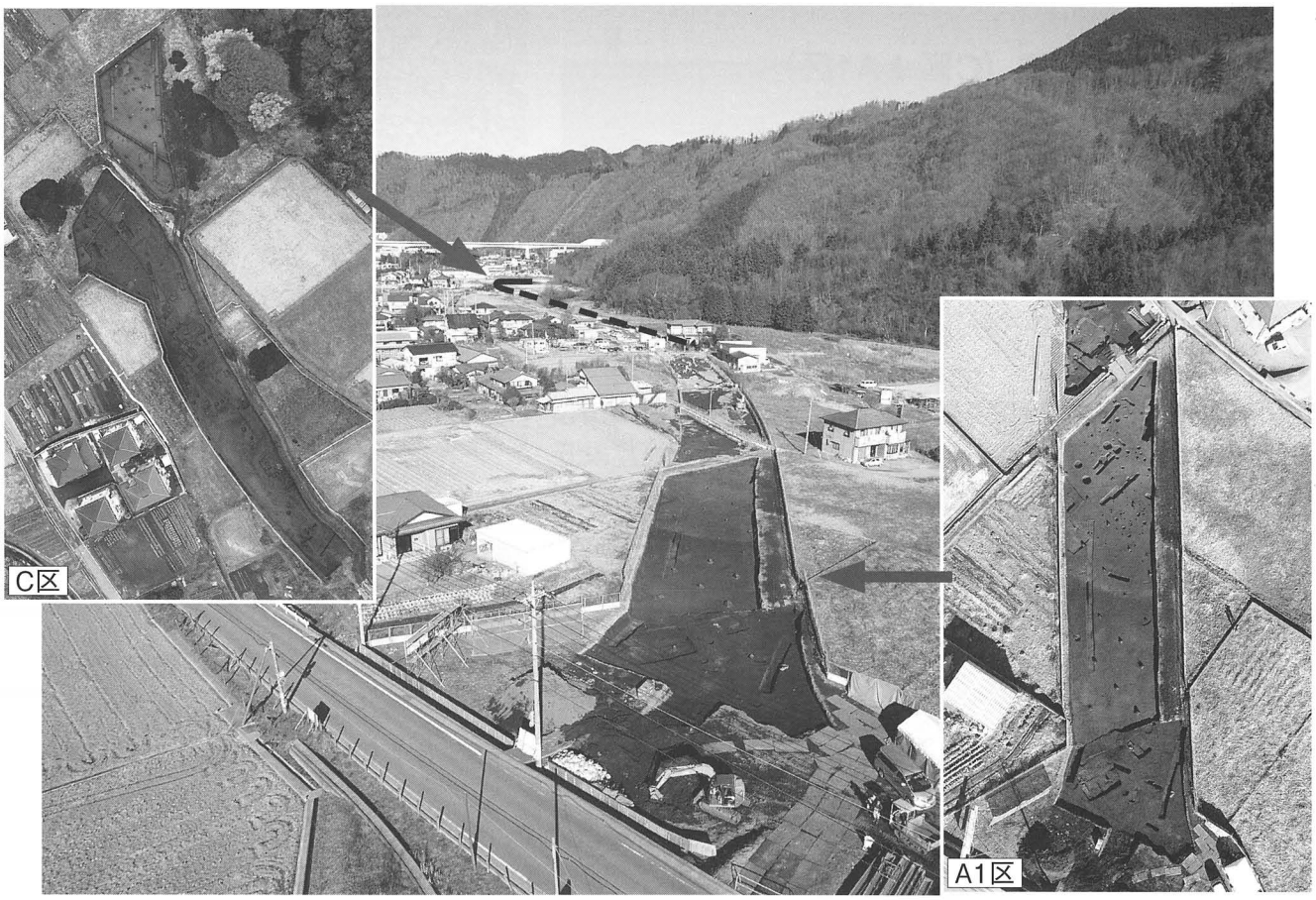
美通遺跡は、弥生時代の遺跡として知られる生出山山頂遺跡の北側に位置し、菅野川と朝日川に挟まれた河岸段丘状に位置している。発掘調査は、全長約650ｍの工事区間で行われ、県道35号線側からＡ区、Ｂ区、Ｃ区とわけて行った。A1区の標高は約420m、Ｃ区では約413mと南から北にかけて緩やかに傾斜する地形である。ここでの報告は、工事区間の最南端Ａ1区と最北端Ｃ区についてのものである。

調査の方法は、重機による表土剥ぎを行った後、人力による精査を行い、遺構・遺物の確認と測量・図化を行った。遺物の取り上げ等には光波測量器を使い、作業の迅速化に努めた。各区には、国土座標に基づく５ｍ間隔の基準杭とベンチマークの設置を行い、それぞれの区の調査終了時には、ラジコンヘリコプターによる空中撮影を行った。

調査の結果、C区では調査区の中を流れる用水路を挟んで、南北にわけて調査をおこなった。北側で発見された遺構は、住居跡1軒、集石土坑6基、土坑30基、配石遺構3基、溝状遺構7条、焼土2箇所、ピット75基ほどの遺構と、縄文時代早期から後期、弥生時代前期、平安時代の遺物である。住居跡は、焼土や炭化材が楕円形に広がる範囲であり、遺物は伴わないものの中心部付近に焼土が少し厚く広がる部分がみられた。集石土坑は、拳大から掌大の石を使用し、平成20年度に調査された集石土坑と比べると、規模が小さいわりに、一つ一つの石が大きめである。土坑は、直径1mほどの円形で鍋底の底面をもつものが14基、大きさは統一性がなく、すり鉢状の底面をもつものが16基確認された。前者が平安時代以降のもので、後者が縄文時代のものである。

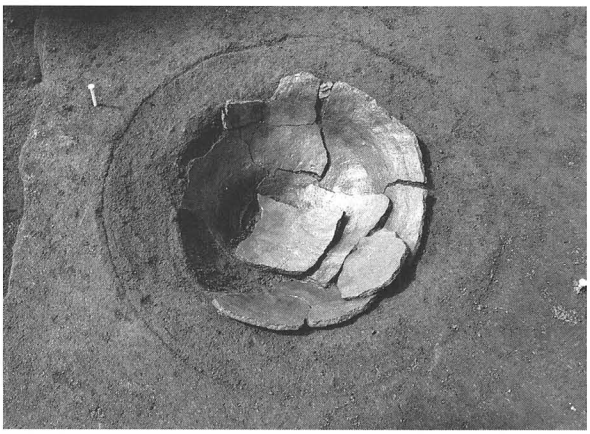
南側では、住居跡3軒、土坑88基、溝状遺構44条、焼土19箇所、ピット20数基の遺構と弥生時代・中世の遺物が発見された。発見された3軒の住居跡からは、遺物がほとんど出土せず、数点見つかった遺物は平安時代末頃のものである。土坑は、直径1mほどの円形で鍋底状の底面をもつものが多いが、37号土坑・65号土坑は中世の遺物が出土し、31号土坑では人骨と短刀が発見された。土坑の周辺には溝状の遺構も多く、土坑との切り合い関係から、土坑より溝状遺構の方がやや古いようである。調査区全体から遺物は出土したが量は少なく、多くが弥生土器片と陶磁器片であり、縄文土器は数片しか出土しなかった。

Ａ１区では、奈良時代前後の遺構・遺物が中心で、その他に、数は少ないが縄文時代の遺構・遺物が確認されている。遺構は、住居跡5軒、土坑37基、ピット72基、溝状遺構17条、配石遺構2基である。2号住居跡は、一辺が約7mと大きなもので、カマドの依存状態は悪いが、その周辺から土師器・須恵器片が多く出土した。特に、胴部が丸い県内東部地域の特徴を示す土師器甕が主体をなしている。他の住居跡から出土している遺物も、これらに類似していることから、5軒とも同じ時期のものと考えている。3・4号住居跡周辺で掘立柱状建物跡が２棟確認出来た。土坑と土坑の間隔は1.2mほどで、8本柱の正方形に近いものと、6本柱の長方形のものが確認できた。また、東西に掘られた溝状遺構に沿って、直径15cmほどの小穴の列が確認できた。この小穴数基と、その周辺で確認された小穴内及び直上には、穴にすっぽり収まる大きさの平石が確認された。

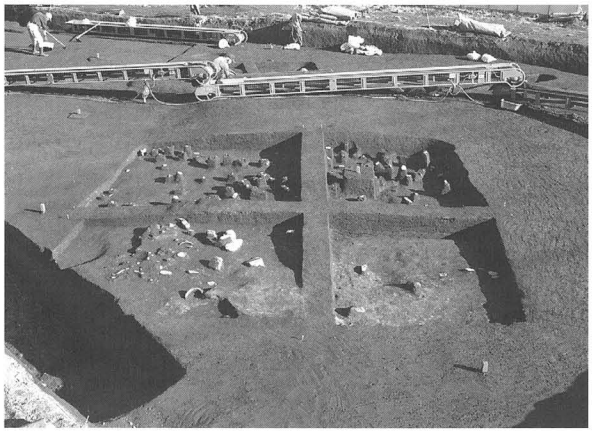


美通遺跡（A1区＋C区）調査区全景

C区北側２号集石検出状況



C区南側37号土坑検出状況



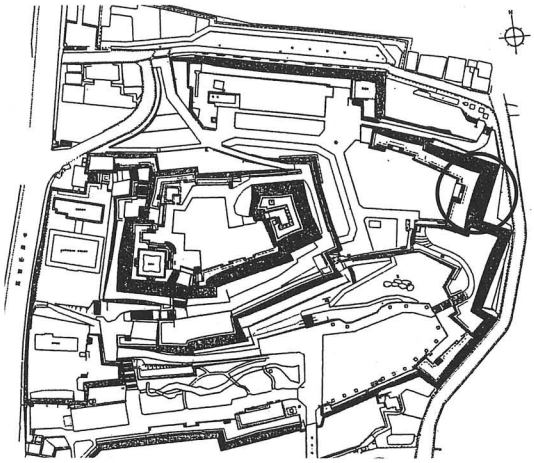
A１区２号住居跡検出状況

A１区２号住居跡出土遺物

2　整備事業に伴う調査

2－1　県指定史跡甲府城跡

所 在 地　甲府市丸の内1－6－1
事 業 名　舞鶴城公園整備事業
調査期間　2009年7月27日～11月27日
調査面積　約751㎡
担 当 者　野代幸和・長田隆志


甲府城跡　位置図

県指定史跡甲府城跡では、「舞鶴城公園整備事業」として平成17年度より詰石や裏栗石の補充、破損した石材の補強、風化して脆くなった部分の除去など石垣の維持と安全確保を目的に石垣補修工事を実施している。

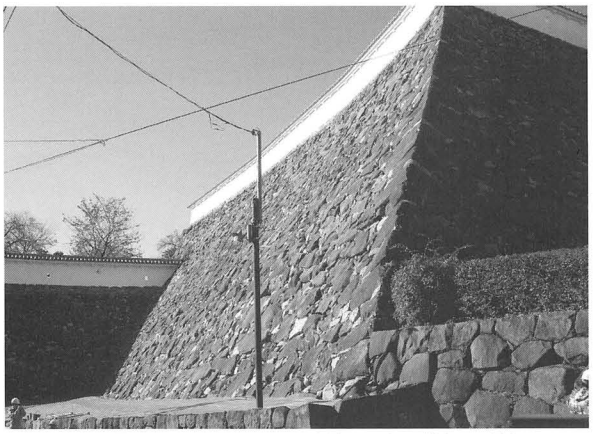
本年度は、稲荷曲輪東面石垣および天守曲輪南面石垣で石垣補修工事を実施した。本石垣は、築城期の野面積み石垣が残る場所で、現在は市道に面している。当該石垣は、築城以後の大きな改修はないが、土塀の補修に伴い天端石を中心に、積み直しと詰石の落下防止の補強工事が一部行われている。また、戦後の市街地化のなか、石垣に面して店舗が立ち並んでいた時期もあったことから、石垣にコンクリートの付着や生活雑器の混入が確認された。これまでに補修工事を実施した天守台東面や二の丸西面石垣と同様、明治以降の維持管理がなされていないため、詰石の欠落・石材の破損・孕みといった傷みが生じていた。この石垣は道路に面しているため、工事では、文化財の保存と安全性の確保を目的として、県土整備部と県教育委員会が協力して行った。工事は、詰石や裏栗石の補充を中心とした作業を実施し、石垣の補強と保存に努めた。

石垣部分の工事期間は、7月末から11月末までの4ヶ月で、対象となった石垣の面積はおよそ751㎡である。現場では、工事に先行する形で事前調査を実施し、傷みの状態とその原因や施工方法等をカードに記入し、写真撮影と併せて現状の記録とした。調査の結果、施工対象地点は3336ヶ所にも上り、施工面積751㎡に対する面積比から0.23㎡につき１ヶ所であった。今回の施工面積比率を最も傷みの激しかった昨年度と比較すると1.0倍であるが、１㎡あたりの施工数はこれまでの石垣補修工事の中で最も多く、予想以上に傷みが激しかったことが窺える。今年度は、工業製品を使用した補強や割れ部分の除去作業を過去に比べ多く実施しており、これまでの施工地点に比べて石材自体の傷みが激しかったことが、施工数・施工面積の増加につながったと考えられる。

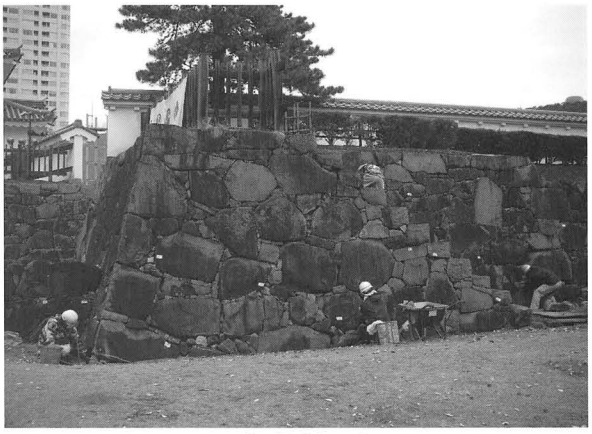
10月末からは石垣維持管理工事の一環として、平成8年度に改修もしくは園路整備を実施した天守曲輪および稲荷曲輪周辺の石垣について修繕工事を実施した。基本作業については、詰石の叩き締めが主たるものであるが、今回の施工確認調査段階で、石材の風化に伴う剥離が認められたため、危険回避を目的に除去を行った。また、詰石の不具合による交換ならびに補充作業を併せて実施した。

石垣補修工事期間中に、鉄門下木柵復旧工事と稲荷曲輪門破損瓦葺き替え工事を実施した。鉄門下木柵復旧工事では、腐っていた木柵の根元が台風の影響で折れて倒壊したため、公園の安全管理上の観点から早急に復旧が必要となり、石垣隣接部の基礎掘削時に立会を実施した。また、平成11年に復元された稲荷曲輪門の鳥衾瓦が数年前に人為的に破壊され、周辺の丸瓦も破損していたことから、中北建設事務所と協議を行い、石垣補修工事の維持管理の一環として対応した。稲荷曲輪ならびに数寄屋曲輪における塀の漆喰についても剥落やヒビが多数認められ落下の危険性もあったため、同じく維持管理の一環として補修を行った。

また、石垣補修工事に係わる委託業務を行った。昨年同様に、石垣定点測量・施工後の石垣立面図作成等を実施し、さらに施工前の石垣立面図作成を行うことで作業の効率化を図った。なお、この定点観測測量は、石垣の変位変形を観察する目的で実施している委託業務である。



稲荷曲輪周辺の石垣補修工事（施工後）

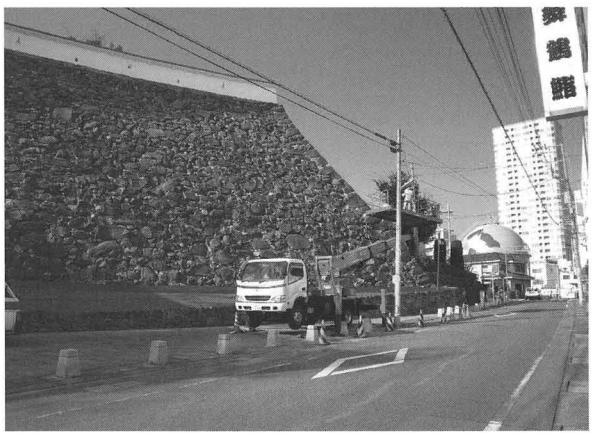


石垣修繕工事

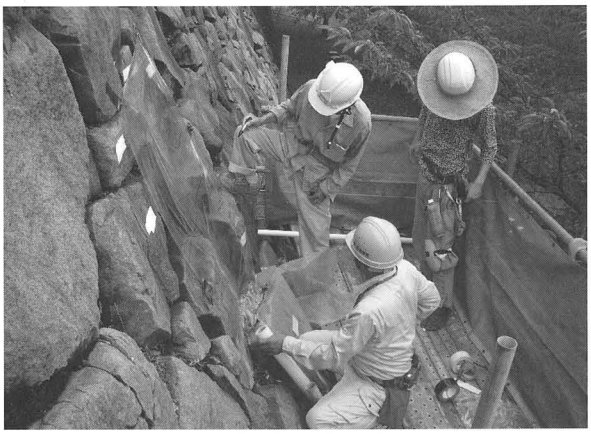
補修工事の実施事例（施工前）

補修工事の実施事例（施工後）

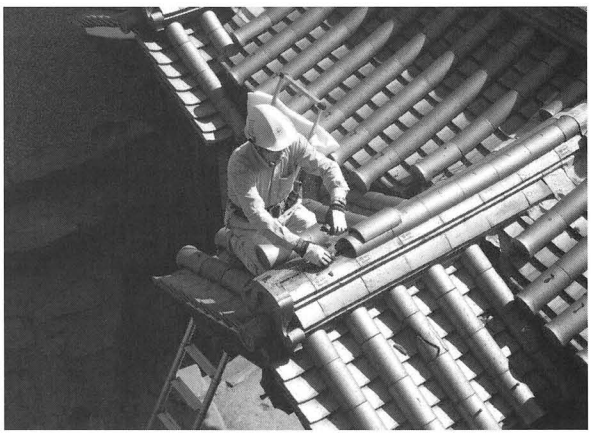
石垣補修工事作業の様子



石垣測量作業の様子



Ｔｎ－５石垣補修工事



稲荷櫓門破損瓦葺き替え工事

3　分布調査

山梨県内山岳信仰遺跡分布調査

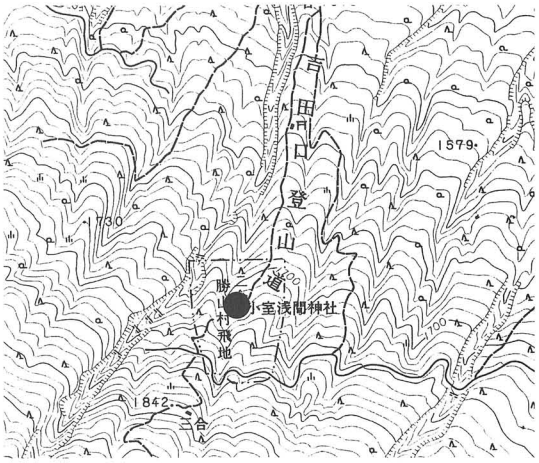
3－1　冨士御室浅間神社 二合目本宮社有地（富士山二合目）

所 在 地　南都留郡富士河口湖町勝山3953-1、2、3番地
事 業 名　山梨県内山岳信仰遺跡分布調査
調査期間　2009年10月5日～10月30日
調査面積　165㎡

遺跡は、富士山登山道のうち富士吉田市に起点を発する吉田口登山道二合目の、冨士御室浅間神社二合目本宮社有地内に所在する。二合目本宮は、大同2年(807)に坂上田村麻呂が社殿を創建したという由緒をもつ富士山中で最古の神社であると言われている。中世以降、様々な文献に登場する神社であるが、拝殿のあるテラスに関しては埋蔵文化財の調査が行われたことはないことから、第１の目的としては古くからの信仰拠点であったこの場所と人々との関わりの起源を探ること、第２としては拝殿のあるテラス裏の山林に見られる複数の小テラスの性格や使用時期について解明する中で、これに付属する旧道が使われた時期についても探る目的で調査を行なった。なお、平成19年には神社に近接する行者堂跡の発掘調査が行なわれ、多くの成果が得られている。

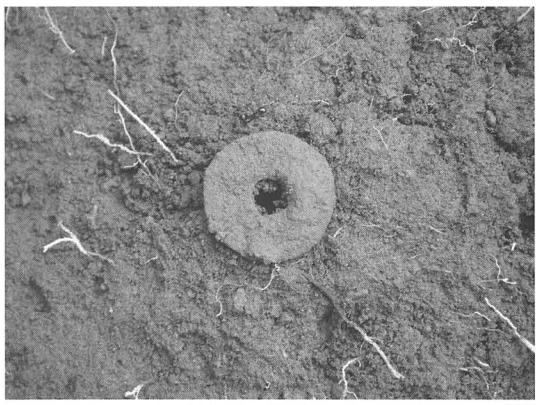
発掘調査では、社有地内に９箇所のトレンチを設定し確認面まで人力による掘削を行なった（第１図）。その結果、山林側の小テラスでも遺物の出土が見られ、これらテラスがある段階で機能していたことが明らかとなった。特に第１トレンチからは40枚あまりの銭貨が集中して出土しており、このテラスに信仰に関わる何らかの施設があった可能性もある。また第３トレンチからは礎石が発見され、ここに建物があったことが明らかとなった。これらのテラスについては、山林の傾斜が切られて人為的に造り出されていることが土層の状況から明らかとなっている。また拝殿があるテラスでは石祠が祀られているフェンスの脇から、建物に伴う版築が確認されている（第９トレンチ）。かつてこの地にあり、昭和49年に河口湖畔に鎮座する里宮に移築された本殿は、このフェンスよりも拝殿側にあったともいわれており、今回発見された版築が何の建物に伴うものであるのかを考えていくのが今後の課題である。ちなみに同じくフェンスに近接する第６トレンチの土層では、土が大きく動かされている状況が見られ、これは本殿整備に伴うものであった可能性もある。

さらに全体的な傾向としては、山側では渡来銭のみが出土するのに対して、拝殿があるテラスでは寛永通宝など江戸期の銭貨も混在する状況が見られることから、中世段階では山林側の道やテラスも機能しており、現境内地が慶長



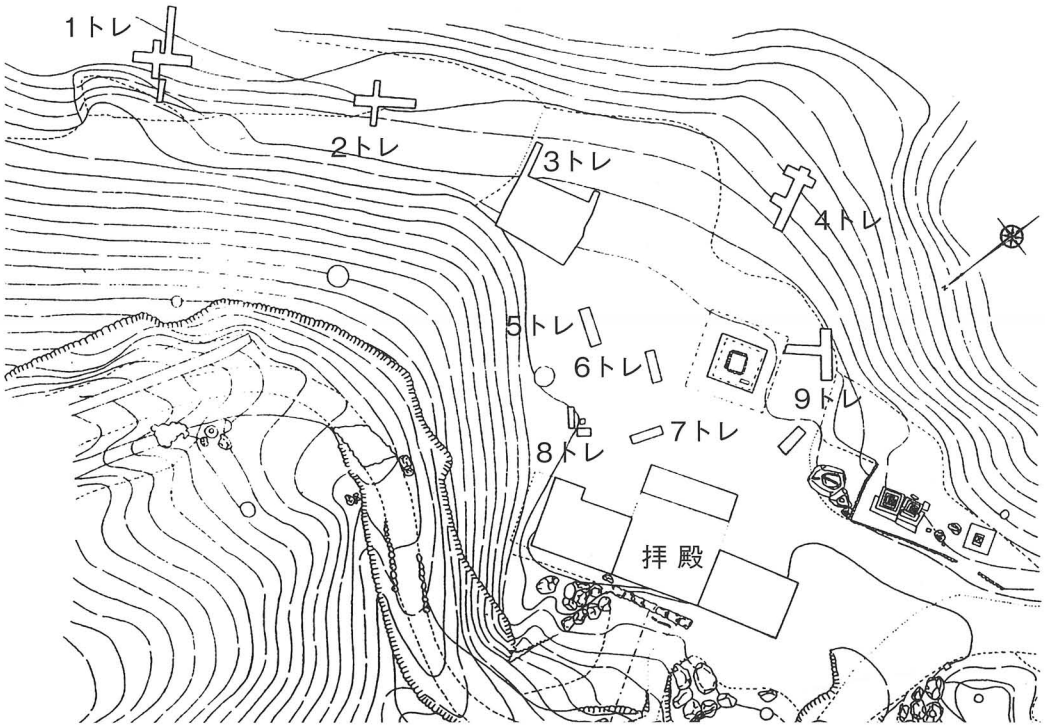
分布調査　位置図

二合目本宮 第３トレンチ


二合目本宮 銭貨出土状況

二合目本宮 第９トレンチ

年間に整備されていることと考え合わせると、この整備以前には現在とは異なった神社の景観が広がっていた可能性もある。

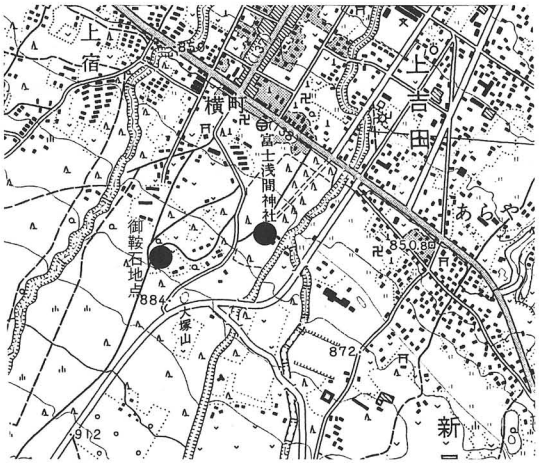


第１図　冨士御室浅間神社 二合目本宮トレンチ配置図

３－２　北口本宮冨士浅間神社社有地

所 在 地　富士吉田市上吉田5558番地、5363番地
事 業 名　山梨県内山岳信仰遺跡分布調査
調査期間　2009年11月9日～11月30日
調査面積　150㎡

北口本宮冨士浅間神社は、富士山登山道のうち吉田口登山道の起点となる神社である。神社の鎮座する諏訪森には、浅間神社の勧請以前から諏訪神社が祀られ、富士山を遙拝する神域であった。現在の本殿は元和元年(1615)に造立された歴史をもち、この地が古くから現在に至るまで、重要な信仰拠点として継続的に使われてきた信仰の場であることは明らかである。今回の調査では、この富士山信仰上重要な信仰拠点のひとつである北口本宮冨士浅間神社の社有地を発掘調査することにより、この場所における富士山信仰の起源について明らかにすることを目的とする。



分布調査　位置図

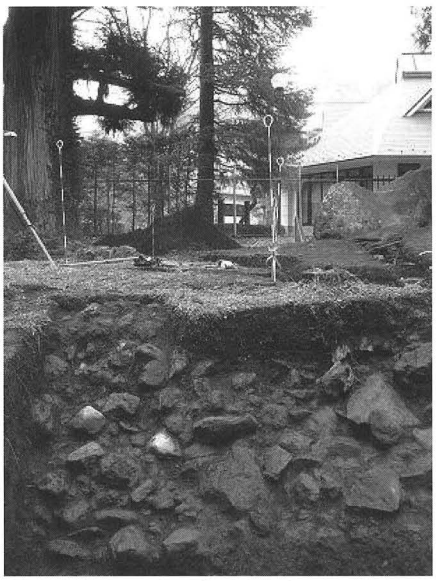
発掘調査は、本殿裏側のＡ地区、東宮東側のＢ地区、御鞍石周辺のＣ地区の３箇所について行なった（第２図）。本殿周辺については、一段低くなった、現在社殿が建ち並ぶ箇所は江戸時代中期の大改修で、大規模に削平されていることが考えられたため、その周辺のあまり手が加えられていないと考えられる場所について調査を行なった。まずＡ地区で設定したトレンチ内はすでに撹乱を受けており、遺物・遺構ともに認められなかった。Ｂ地区では３箇所にトレンチを設定した。江戸期～近代の陶磁器類や銭貨など

北口本宮　Ａ地区

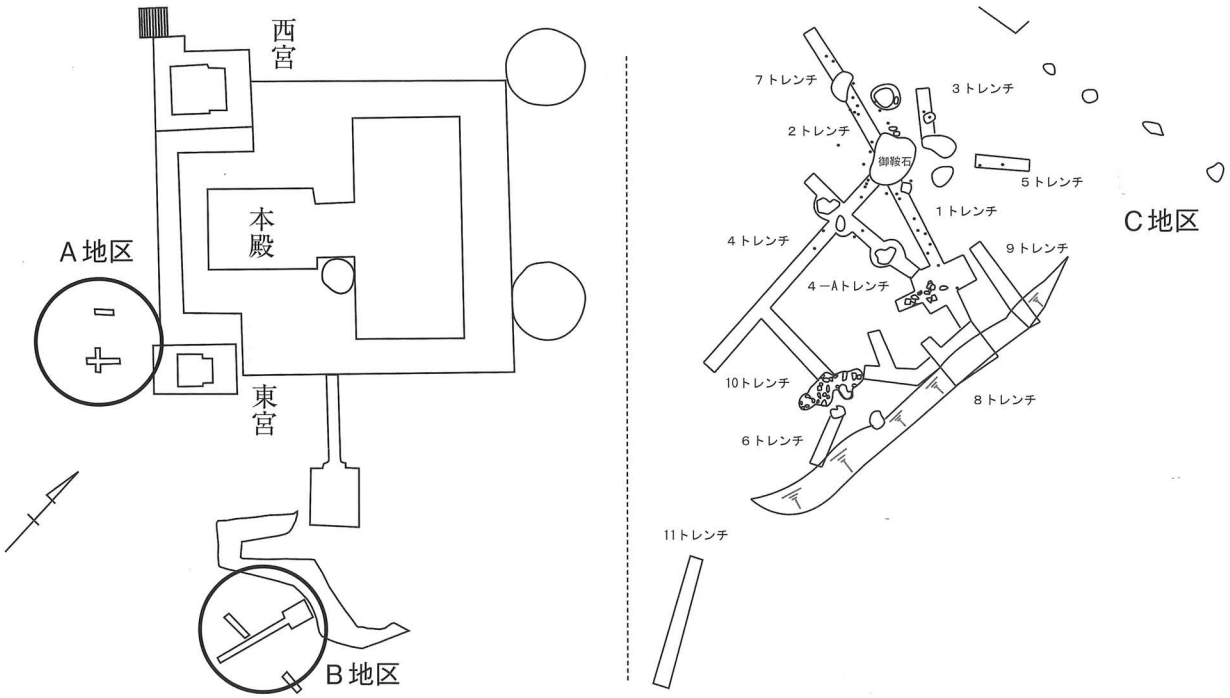
がごく少量出土した。中には浅間神社の社紋が入った坏なども含まれていた。C地区は‘御鞍石’と呼ばれる、吉田の火祭りにおいて神事が行なわれる巨石がある地点である。発掘調査はこの巨石を中心に11本のトレンチを設定して行なった。その結果、銭貨など遺物の出土が見られたのは、この御鞍石周辺に限られており、この巨石こそが信仰の対象となっていたことが改めて確認された。また、御鞍石には人為的に設置された痕跡は認められず、土層の状況から土石流とともに流されてきたものと考えられる。御鞍石がのるマウンドについては、上に粘土が貼られた石積が確認されており、現在よりもひとまわり小さいマウンドがつくられた時期があることが明らかとなった。

この場所には、もとの諏訪神社があったという言い伝えもあり、下吉田に所在する正福寺蔵の版木『八葉九尊図』（延宝８年(1680)）にはこの御鞍石地点とも想定できる位置に「すわ大明神」と記され、その周辺には３棟の建物が描かれている。このことから、建物跡の検出も念頭に置いて調査を進めたが、結果、礎石や版築などは確認されず、御鞍石がのるマウンド上には常設的な建物はなかったものと考えられる。ここは吉田の火祭りの際に御鞍石の神事が行なわれる重要な場所である。祭りは、様々なポイントで神事を行ないながら御輿が神社に帰還するという内容であり、この祭りの内容からすると、御鞍石は臨時に神が依る場所であり、常設の社殿はなかったと考えるべきなのかも知れない。以上の成果から、御鞍石地点については臨時に神が降りる神籠としての性格がふさわしいものと考えられる。

北口本宮　Ｂ地区



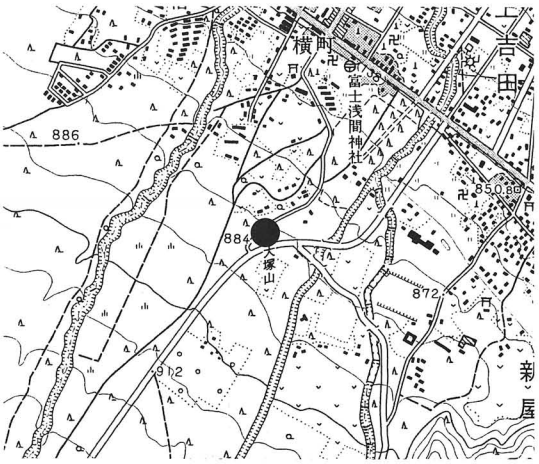
北口本宮　Ｃ地区



第２図　北口本宮冨士浅間神社 トレンチ配置図

３－３　大塚丘 地中レーダー探査

所 在 地　富士吉田市上吉田5619番地
事 業 名　山梨県内山岳信仰遺跡分布調査
調査期間　2010年1月20日・22日（測量）、
　　1月25日（地中レーダー探査）
対象面積　400㎡



分布調査　位置図

北口本宮冨士浅間神社の裏から延びる登山道をしばらく行くと、その東側に「大塚」と呼ばれる小丘がある。規模は南北約24m、東西約18m、高さ約４ｍの方形台状をしており、上部は約４ｍ×４ｍ四方の平坦地で、四隅にヒノキが植樹されているが、南東隅のものは現在残っていない。この塚は‘大塚丘’と通称されており、古来より富士山を遙拝する場所で、富士山信仰上重要な場所であったと考えられているが、塚の築造年代や具体的な性格についてはよくわかっていない。このように大塚丘については富士山信仰上重要視されてきたにも関わらず、具体的な情報がないため、塚の構造について確認する目的で、地中レーダー探査を行なった。

大塚丘　作業風景

その結果、くぼ地状の地形に塚が構築されており、塚の上面中央から掘り込みを示すと考えられる波形が確認された。これらのことから、この塚はいわゆる富士塚のように、自然地形を利用したり、簡単に盛土したような構造ではなく、人為的に造り込まれたものである可能性が示唆される。また塚南側の平坦地からは、何らかの遺構が存在する可能性があるというデータを得ることができた。

３－４　分布調査

所 在 地　富士吉田市上吉田ほか
事 業 名　山梨県内山岳信仰遺跡分布調査
調査期間　2010年2月22日～25日、3月4日～19日

山岳信仰遺跡に関連する信仰拠点等の分布調査として、主に富士吉田市・南都留郡富士河口湖町周辺に所在する寺社仏閣やその前地、石像物、伝承地などに関する踏査を行なった。引き続き同様の分布調査を行ない、郡内および東部富士五湖地域における山岳信仰遺跡に関わるデータの蓄積を行ないたいと考えている。

分布調査　作業風景

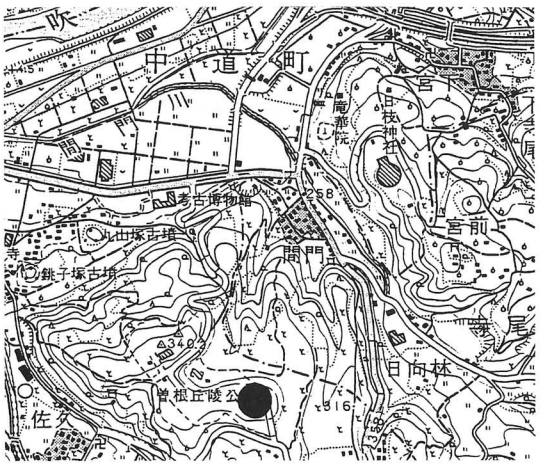
３－５　吉田口登山道測量業務

対 象 地　富士吉田市上吉田ほか
事 業 名　山梨県内山岳信仰遺跡分布調査
作業期間　2009年6月1日～2010年2月26日

吉田口登山道のうち、中ノ茶屋から六合目までの現登山道および旧道、さらに道中に所在する信仰拠点についての測量を(株)昭和測量に委託して行なった。

4　県内分布調査

4－1　風土記の丘・曽根丘陵公園整備（方形周溝墓広場展望台建替）事業に伴う試掘調査



試掘調査　位置図

所 在 地　甲府市下向山地内
（風土記の丘・曽根丘陵公園内）
遺 跡 名　上の平遺跡
調査期間　2009年6月1日
調査面積　約5㎡（調査対象面積約31㎡）
担 当 者　高野玄明・小林万里子

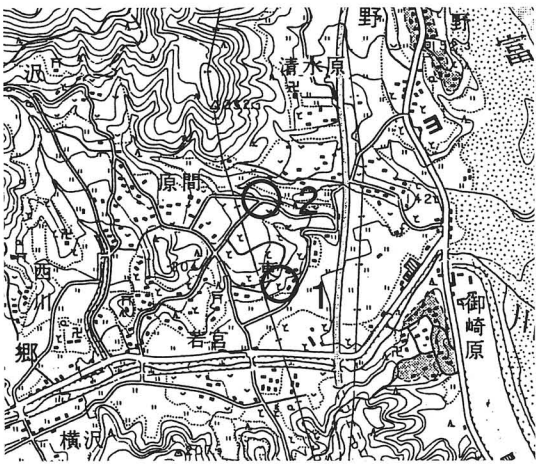
風土記の丘・曽根丘陵公園整備に伴って、上の平遺跡方形周溝墓広場に建てられている展望台の老朽化のため、新たに建設されることとなった。このため、新設する展望台基礎の深さ等、設計に必要なデータを得るため、試掘確認調査を行うこととなった。

試掘調査は、現存する展望台の基礎部分のコーナー付近の３カ所に、人力によりトレンチを設定し実施した。

その結果、現状の基礎の深さは最深部で1.1ｍまで及んでいることがわかり、その直下には黄褐色土（地山）が確認できた。このような状況から、新たに建設する展望台についての深さは、「地表から深さ80㎝まで（保護層30㎝）の基礎掘削」とし、さらに掘削範囲については「旧展望台の既掘の範囲内での掘削」を行うことなど、埋蔵文化財の保護については同規模の展望台を建設することで事業者側と同意が得られ施工することとなった。このことから、掘削範囲や深度など新たに広がらないことから、埋蔵文化財の取り扱いに関し、問題ないものと判断した。

また、展望台新設に伴う旧展望台基礎撤去作業時には、立会調査も実施することとした。

4－2　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査



試掘調査　位置図

所 在 地　南巨摩郡南部町本郷字上大神366地先
遺 跡 名　大神遺跡ほか
調査期間　2009年6月3日
調査面積　1. 大神遺跡　60.0㎡（調査対象面積約600㎡）
2. 6.4㎡（試掘対象面積約 48㎡）
担 当 者　山本茂樹、稲垣自由

国土交通省と山梨県による新直轄方式区間約28ｋｍ（南部町から市川三郷町まで）の中部横断自動車道建設事業に先立ち、試掘調査が実施された。

周知の埋蔵文化財包蔵地である大神遺跡は、2008（平成20）年度に取得された用地内において試掘調査が実施された。その結果、遺構は確認されなかったが、土器片数点が確認された。このことにより、未取得地に遺跡の存在が想定されるため、今回取得された約600㎡を対象として試掘調査を実施した。

試掘溝は、傾斜に沿って南北方向に4本を設定した。長さは6ｍ～10ｍ、幅は1.5ｍ前後である。深さは0.5ｍで、礫が確認された。この礫は、昨年度の試掘調査においても確認されており、この周辺

で認められている礫である。

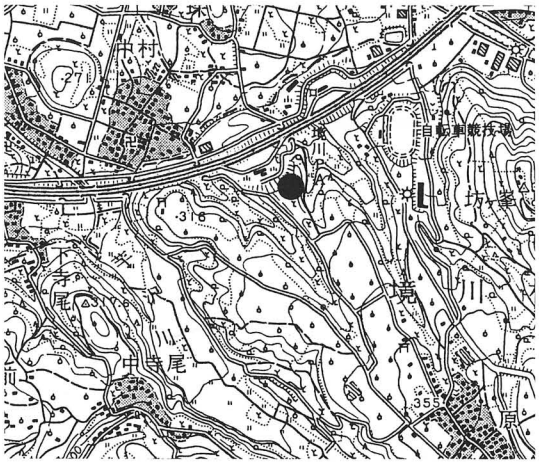
各試掘溝を設定し掘削した結果、現地表下0.3m前後は耕作土で、その下は礫層であった。試掘溝の底面を精査し遺構確認を行ったが、遺構および遺物は確認されなかった。

２の原間遺跡隣接地は、原間遺跡の北側、谷部分の試掘調査である。ここでは原間遺跡に関連する水辺の遺構が想定されたため斜面から平地にかけて掘削を行った。斜面では、現地表から約0.2mで礫層が確認され、平地まで続いており、遺構、遺物は確認されなかった。平地では、現地表から約0.2mで粘性の強い青灰色の土と礫の混入が認められ、遺構および遺物は確認されなかった。

以上の結果から、両地点には文化財保護法上、特段の措置を必要とする遺構等はなく、工事を着手しても支障はない旨を報告した。

４－３　山梨リニア実験線境川土捨場造成事業に伴う試掘調査

所 在 地　笛吹市境川町藤垈字御所山4073外
調査期間　2009年6月8日、9日
調査面積　約265㎡（調査対象面積約600㎡）
担 当 者　高野玄明・小林万里子



試掘調査　位置図

境川土捨場造成工事に伴い、新たに掘削を伴う箇所周辺に、重機により試掘トレンチ6本を設定し、調査を実施した。

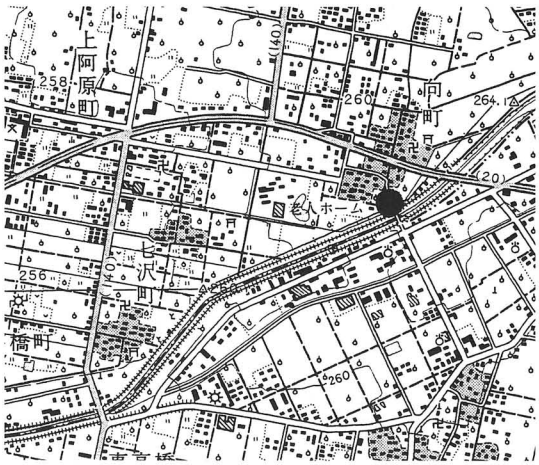
トレンチは、長さ19.0～25.0m、幅2.0～3.0m、深さ0.4～0.6mを測る。確認された土層は、1層＝暗褐色土（腐植土）、２層＝褐色粘質土（小礫含む）、３層＝黄褐色粘質土（小礫含む）が確認され、このうちの３層の黄褐色粘質土が遺構確認面となる。

試掘調査の結果、希薄ではあるが各トレンチから遺構や遺物が確認されている。確認された遺構は、1・4・5号トレンチから溝状遺構、1～3号トレンチからピット、6号トレンチから住居跡（古墳時代前期）や焼土が確認され、遺物は縄文時代、古墳時代、近世の遺物が確認された。

このため、試掘調査の結果を踏まえ、「遺跡の発見届け」等文化財保護法の手続きを終えた後、鉄道・運輸機構等と協議を行い、「御所山遺跡」（第Ⅱ章1－2）として2009年10月から一ヶ月の予定で、本調査を行うこととなった。

４－４　平等川基幹河川改修事業に伴う試掘調査

所 在 地　甲府市向町655 - 4番地外
遺 跡 名　堤防推定地・七沢の渡し場
調査期間　2009年6月12日
調査面積　約19.8㎡（調査対象面積約176㎡）
担 当 者　高野玄明・小林万里子



試掘調査　位置図

平等川基幹河川改修事業については、平成19年度より笛吹市春日居町を始めとし、「堤防遺跡」や「七沢の渡し場」等が想定されることから、事業の進捗状況と合わせて試掘調査や立会調査を実施している。今回の試掘調査は、

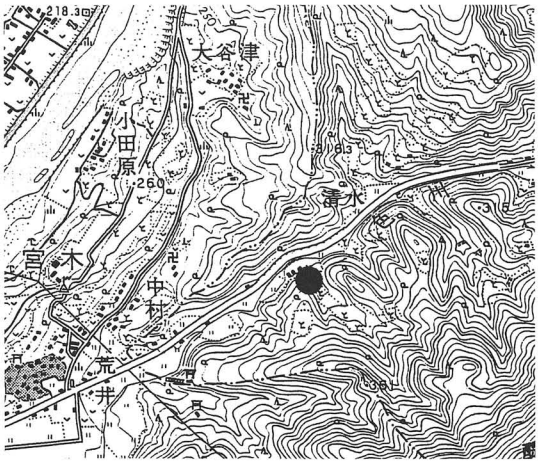
甲府市と笛吹市の境に位置する向橋付近の事業予定地内に、重機により試掘調査を実施した。長さ2.9～3.8m、幅1.6～1.9m、深さ1.2～1.5mのトレンチを４本設定して調査を実施した。調査の結果、対象地の土層断面は河川の自然堆積による砂質土が堆積し、１層＝黒褐色砂層、2層＝暗褐色砂層、3層＝赤褐色砂層、4層＝灰褐色砂層が見られ、4層より下深さ1.5m以降は青褐色砂層に礫が混入しており、地下水も非常に高い状況であった。

今回の調査の結果、地表下約1.5m程度掘り下げ調査を行ったが、調査対象地における堤防施設に関する遺構や遺物の検出はできなかった。

このため、今回の調査対象地における埋蔵文化財の保護の対応は必要ない。しかし、河川改修はこれから下流域（西側）に及ぶため、今後、協議を行なう中で、立会調査等の対応をしていく。

４－５　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所 在 地　南巨摩郡身延町大字一色字和田5324番地外
調査期間　2009年7月1日・3日
調査面積　約91.8㎡（調査対象面積約9,324㎡）
担 当 者　高野玄明・小林万里子



試掘調査　位置図

中部横断自動車道建設事業に伴って、2006（平成18）年度には現地踏査を行い、試掘調査等の必要箇所を国交省に提示している。

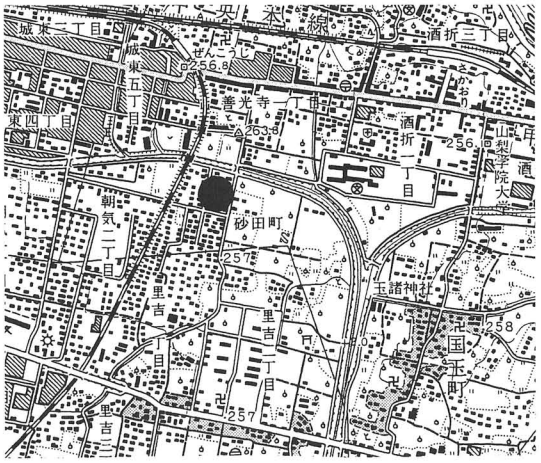
この踏査結果を踏まえ、2009（平成21）年5月には南部町や身延町地内にかかる事業地内の用地取得状況を踏まえながら試掘調査計画の協議を行なった。この中で、身延町一色地内の建設予定地内の平坦部において試掘調査を実施することとなった。

試掘調査対象地に、重機により長さ10.5～27.0m、幅1.2m、深さ1.3～2.3mのトレンチを4本設定し、試掘調査を実施した。１号トレンチは、１層：暗褐色粘質土、2層：暗黄褐色粘質土（5cm～20cm大の礫を多く含む）２号トレンチでは、１層：暗黒褐色粘質土、2層：黄褐色粘質土がみられ、３号トレンチでは、表土が10cm程度みられた外は、その直下に岩盤が確認された。４号トレンチでは、１層：黄褐色粘質土、２層：青灰色粘土、３層：明青淡色粘土、４層：暗青灰色粘土がみられるなど、今回の試掘調査対象地には安定した生活面は確認されず、遺構や遺物の検出はできなかった。

このため、今回の試掘調査箇所における工事着手については、問題ないものと判断できる。

４－６　城東Ⅱ期バイパス建設事業に伴う試掘調査

所 在 地　甲府市砂田町5 - 3外
調査期間　2009年7月7日・8日
調査面積　129.6㎡（調査対象面積約3,000㎡）
担 当 者　高野玄明・小林万里子



試掘調査　位置図

城東バイパス建設については、現在供用開始されている甲府市国玉町地内についても、1991（平成3）年度に試掘調査を実施している。

今回の調査は、バイパスが西側に伸びる計画があり、用

地がまとまって取得できた箇所について、試掘調査を実施することになった。

試掘調査は、長さ7.0～15.0m、幅1.2m、深さ1.1～1.9mのトレンチを重機により、9本設定し実施した。

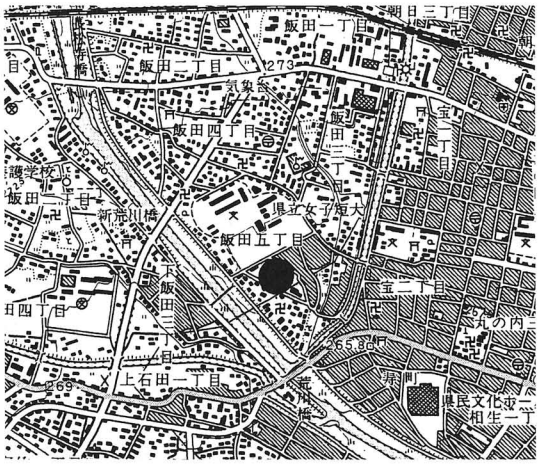
調査の結果、トレンチ全体からは、粘土層や砂層が堆積し、砂層からは地下水がみられるなど、遺構や遺物の存在は確認できなかった。平成3年度の試掘調査結果でも、同様な堆積状況を示しており、遺構や遺物は確認できていない。

しかし、一部のトレンチから地表下0.4～0.6mに黒色の粘土層が確認されており、恐らく遺構が存在するとすれば黒色粘土の上面が考えられるが、住宅建設や宅地造成などで削平されている状況が伺えた。

今後、更に甲府中心部に延びていくことから、順次、試掘調査を実施し、埋蔵文化財の保護に努める必要がある。

４－７　県立中央高等学校改築事業に伴う試掘調査

所 在 地　甲府市飯田5丁目6 - 2
調査期間　2009年8月3日
調査面積　24.0㎡（調査対象面積13,245㎡）
担 当 者　高野玄明・小林万里子



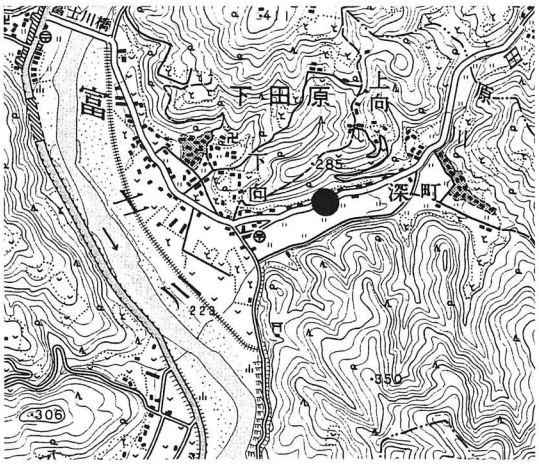
試掘調査　位置図

試掘調査時点において、詳細な改築計画はできていない状況であったが、事前に埋蔵文化財の有無について把握する必要があることから、校舎敷地内の地下埋設物やグラウンド使用状況を勘案し、夏休みの期間中に試掘調査を実施することとなった。

試掘トレンチは、いずれもグラウンド脇の地下埋設物の影響の無い箇所に、重機により長さ5.0m～11.0m、幅1.5m、深さ1.7～2.1mのトレンチを2本設定し、調査を行った。その結果、いずれのトレンチからも砂層が検出されるなど、遺構や遺物が存在する生活面等は確認されなかった。このため、県立中央高等学校の改築にあたっては、埋蔵文化財の保護については問題ないものと判断した。

４－８　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所 在 地　南巨摩郡身延町大字下田原字広反歩1539 - 1外
調査期間　2009年8月6日
調査面積　37.0㎡（調査対象面積1,008㎡）
担 当 者　高野玄明・小林万里子



試掘調査　位置図

中部横断自動車道建設事業に伴って、平成18年度には現地踏査を行い、試掘調査など必要箇所を国交省に明示している。

この踏査結果を踏まえ、2009（平成21）年5月には南部町や身延町地内にかかる事業地内の用地取得を踏まえながら試掘調査を実施することになった。この中で、身延町田原地内における事業地内の試掘調査を行なうことになった。

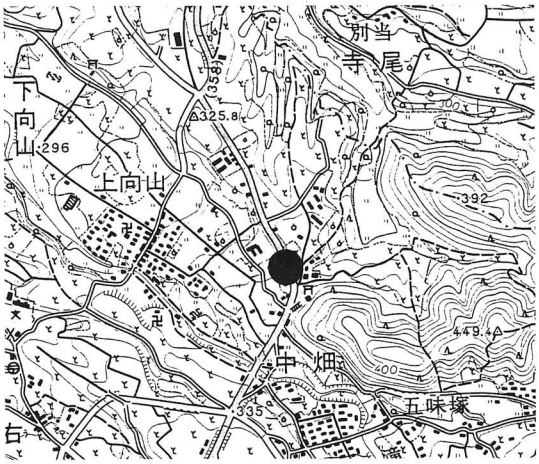
試掘調査は、県道割子・切石線を挟む事業予定地の用地が取得されている北側の山の緩斜面と南側の平坦部の湿地帯について重機により、長さ6.0～9.0m、幅1.5m、深さ0.9～1.3mのトレンチ4本を設定し行った。

山側の緩斜面については、腐植土が数cmみられたほかは、黄褐色を主体とした地山の粘土層が堆積するなど、遺構や遺物の確認はできなかった。

対象地南側の湿地帯については、沼地のような状況であり明青灰色や暗青灰色の粘土の堆積がみられ、遺構や遺物は皆無である。このため、今回の対象地について埋蔵文化財の保護については問題ないものと思われる。

４－９　国道358号拡幅事業に伴う試掘調査

所 在 地　甲府市中畑町字中町253 - 1外
遺 跡 名　諏訪前南遺跡
調査期間　2009年9月14日～16日
調査面積　58.0㎡（調査対象面積990㎡）
担 当 者　高野玄明・小林万里子



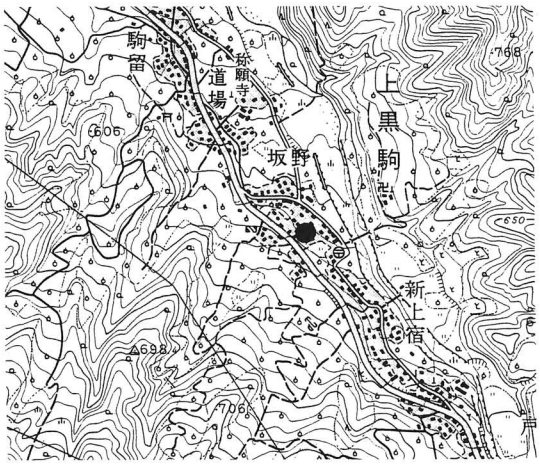
試掘調査　位置図

交通対策事業として国道358号（甲府精進湖線）の拡幅工事が計画され、事業予定地内に周知の埋蔵文化財包蔵地「諏訪前南遺跡」が存在していることから、現地協議を行った結果、試掘調査を実施することとなった。

調査は、現状の道路の拡幅工事であり、狭小な部分が大部分を占めるため、人力による掘削を中心に行い、遺構や遺物の確認を行った。試掘トレンチは幅1.5～2.0m、長さ2.0～13.0m、深さ0.55～1.55mのトレンチ7本を設定し、調査を行った。1～3号トレンチは重機を使用して行い、1層＝（表土）暗褐色粘質土が30cm程みられ、2層以下は、黄褐色粘質土（地山）が確認され、生活面等の確認はできなかった。また、4～7号トレンチは、狭小のため人力で掘削をおこなったが、土層の堆積状況は、1～3号トレンチ同様、遺構・遺物が存在する文化層はみられず、今回の拡幅工事に関しては、問題ないものと判断した。

４－10　山梨リニア実験線建設事業に伴う試掘調査（御坂工区）

所 在 地　笛吹市御坂町上黒駒字六ッ長3422－1外
調査期間　2009年9月17日
調査面積　約18㎡（調査対象面積約562㎡）
担 当 者　三田村美彦



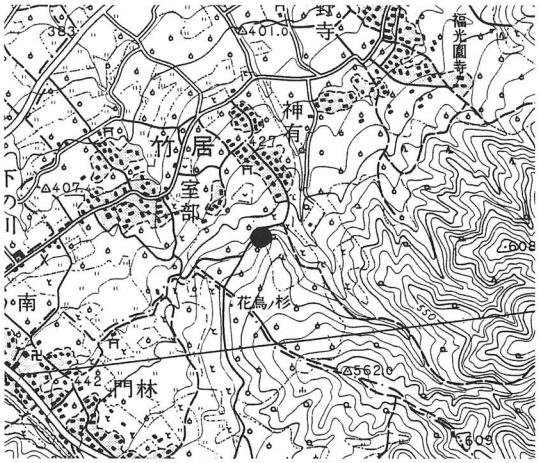
試掘調査　位置図

山梨リニア実験線建設に伴い、2009（平成21）年9月3日に実験線建設用資材置き場建設予定地の現地踏査を行った。この地点は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、今年度本調査を行った六ッ長遺跡に近接するため、鉄道建設・運輸施設整備支援機構、施工業者、学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センターの4者による協議の結果、試掘調査を行うこととなった。

試掘対象地に幅1.5m、長さ5.0mの第1トレンチと、幅1.5m、長さ7.0mの第2トレンチを設定し、調査を行った。調査の結果、第１トレンチでは、表土下に砂礫層、砂層など河川堆積層が認められた。第2トレンチでは、表土下に暗褐色土層、褐色土層が堆積していたが、宅地造成やその後の果樹畑への転用などで、削平されている状況が伺えた。両トレンチとも遺物や遺構は検出されず、工事を実施するにあたり支障はないものと判断される。

４－11　山梨リニア実験線建設事業に伴う試掘調査（御坂工区）

所 在 地　笛吹市御坂町竹居字太鼓畑3185－1外
調査期間　2009年10月13日～14日
調査面積　約10㎡（調査対象面積約217.9㎡）
担 当 者　三田村美彦



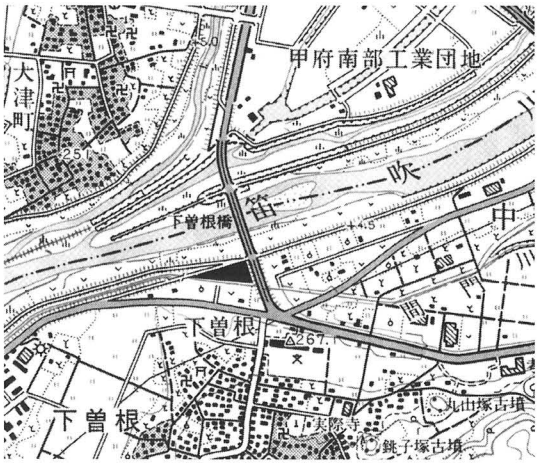
試掘調査　位置図

山梨リニア実験線建設に伴い、2009（平成21）年9月3日に工事用道路となる上記の箇所の現地踏査を行った。この地点は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、その立地などから鉄道建設・運輸施設整備支援機構、施工業者、学術文化財課、埋蔵文化財センターの4者による協議の結果、試掘調査を行うこととなった。

試掘対象地のほぼ中央に、幅2.0m、長さ5.0mのトレンチを設定し調査を行った。調査の結果、トレンチ北側では果樹園となる前に行っていたゴボウなどの根菜類による削平が、遺構確認面である黄褐色土層まで及んでいる状況が伺え、遺物や遺構は検出されなかった。トレンチ南側では、前述した耕作によって形成された表土層下に約5.0mの黒褐色土層が確認されたが、トレンチ北側と同様に削平された状況が伺え、遺物、遺構は確認されず、工事を実施するにあたり支障はないものと判断される。

４－12　間門川改修事業に伴う試掘調査

所　在　地　甲府市下曽根町字一丁田1526-1外地内
遺　跡　名　下曽根橋下遺跡
調 査 期 間　2009年11月10日～12日
調 査 面 積　約277㎡（調査対象面積4,556.94㎡）
調査担当者　小林健二



試掘調査　位置図

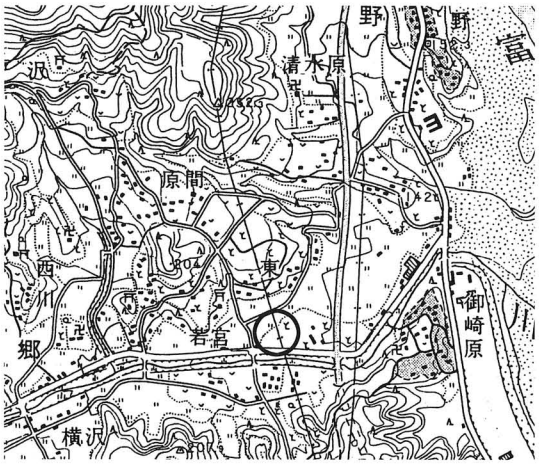
治水対策として行われる事業予定地内は、下曽根橋の橋脚工事の際、古墳時代初頭の土器片が出土した周知の埋蔵文化財包蔵地である下曽根橋下遺跡に隣接する地域であることから、遺跡の広がりや遺構・遺物の有無を把握するため、長さ20～50m、幅約1.5mのトレンチを5本設定し、試掘調査を実施した。

調査地は、笛吹川と間門川に挟まれた区域であり、基本土層はいずれのトレンチにおいても、地表下約2m前後までは笛吹川及び間門川の氾濫による砂層や小礫や樹枝などの自然遺物を含んだシルト層が厚く堆積している。これらの層の下に青灰色の粘土層が確認された。安定した堆積とみられるものの、この層から遺構・遺物は全く確認されなかった。さらに、下層の堆積状況を確認するため、一

部トレンチを拡張し、地表下3m以下まで掘削を行ったところ、青灰色の粘土層は約1m堆積しており、その下層に厚さ約50cmの砂層を挟んで暗黒褐色の粘土層が確認された。この層が包含層・文化層である可能性は否定できないものの、上層からの湧水もあり、遺構・遺物の確認はできなかった。かつて、下曽根橋の橋脚工事の際に土器片が出土した包含層は、さらに深い地点にあるとみられるが、いずれにしても今回確認された層は地表下3.5m前後に堆積していることから、工事に支障はないものと考えられる。

4－13　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（南部町本郷地内）

所 在 地　南巨摩郡南部町本郷字東429地先
調査期間　2009年12月21日・22日
調査面積　301.6㎡（調査対象面積約8,000㎡）
担 当 者　山本茂樹



試掘調査　位置図

試掘調査溝は、№1～№8まで設定し、重機による掘削を行い、その後人力による遺構確認を実施した。

№1では、幅2.0m、長さ27.6mで掘削を行った。溝の北側で約1.20m掘削したところ湧水した。1層：耕作土、2層：砂利層、3層：砂層、4層：砂質粘土層、5層：砂礫層で遺構・遺物は確認されなかった。№2では、幅2.0m、長さ26.70mで掘削を行った。この地点では、耕作土が0.7mでその下2層目は砂礫層が2.30m堆積しており、旧河道ではなかったかと思われる。深さは、北で1.80m、ほぼ中央付近で1.15mである。№3では、幅2.0m、長さ27.10m、深さ約1.10mで掘削を行った。この試掘溝では、深さ0.46m、5層目で畦が確認された。全体の土層堆積は1層：耕作土、2層：床土、3層：小砂利層、4層：砂層、5層：灰茶褐色砂質粘土層、6層：砂礫層である。遺物は確認されなかった。畦が確認されたことによりこの層で調査を行い、時期を決めていくこととした。最大掘削深度は2.10mである。

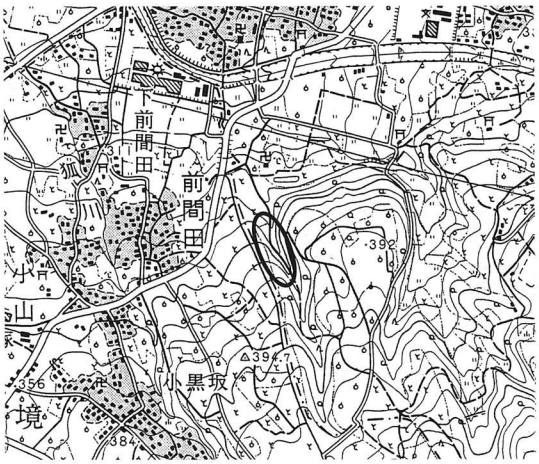
№4では、幅1.90m、長さ14.0mで掘削を行った。最大掘削深度は北側で2.40m、平均1.20mである。1層：耕作土、2層：砂礫層で、旧河道と思われる。№5では、幅2.1m、長さ16.0mで掘削を行った。最大掘削深度は北側で2.40m、平均1.0mである。1層：耕作土、2層：砂礫層、3層：赤褐色砂質粘土層、4層：砂礫層である。ここでは、深さ0.8m、長さ6.0mで赤褐色砂質粘土層が広がっており、南側では約0.2mの段差が認められた。この段差の箇所に礫を据えた状態で確認された。この一段低くなった粘土層の直上で磁器片が１点ではあるが出土した。時代は、江戸末から明治時代のものである。磁器片からこの粘土層の時期は、明治時代の面と確定することができた。№6では、№5の続きを明らかにするために、幅1.9m、長さ10.3mで掘削を行った。最大掘削深度は北側で1.3m、平均1.0mである。1層：耕作土、2層：砂礫層、3層：赤褐色砂質粘土層、4層：砂礫層である。№5の粘土層は6mの幅で続いており、粘土層の上面は柔らかく堅くなかったことから水田面だったと思われる。粘土層の北側と南側は砂利層だったことから、洪水により粘土層が削られた結果ではないかと想像される。№7では、幅1.9m、長さ14.1mで掘削を行った。最大掘削深度は南側で2.5m、平均1.0mである。この箇所も粘土層は認められるが、砂礫層の上に薄くのっている程度のものであった。洪水により、粘土層が削り取られたものと思われる。№8では、幅4.0m、長さ4.0mと幅2.0m、長さ8.1mで掘削を行った。最大掘削深度は東側で2.50m、平均1.0mである。特に西側では石列が南北方向で確認され、礫の一部が廃土内へ取り去られその礫を確認したところ凹みが存在し、その中に陶磁器（片口茶碗）が入っていた。この陶磁器は、どんなに古くとも江戸時代を下るものではない。

また、土層堆積では、丁度この石列から東へ落ち込むように砂層と砂礫層が堆積していたことから、上物がなくなった後、洪水が出たものと思われる。

以上の結果から、遺構としては明治時代の水田面と石列、遺物としては江戸時代から明治時代の陶磁器片２点である。遺物の年代幅を広くしてあるが文化財保護法上（山梨県教育委員会埋蔵文化財事務取扱要項　第３条）、特段の措置を必要とする遺構等はなく、工事を着手しても支障はない旨を報告した。

４－14　山梨リニア実験線（リニア変電所）建設事業に伴う試掘調査

所 在 地　笛吹市八代町米倉2085地内
遺 跡 名　竜安寺川西遺跡
調査期間　2009年7月9日～10日、13日～15日
調査面積　約345㎡（調査対象面積6,146㎡）
担 当 者　保坂和博



試掘調査　位置図

本地点は、笛吹市八代町米倉地内の山梨リニア実験線の変電所建設予定地であり、周知の埋蔵文化財包蔵地である竜安寺川西遺跡が所在することからこれまでに本事業に伴う試掘調査および発掘調査が実施されている。

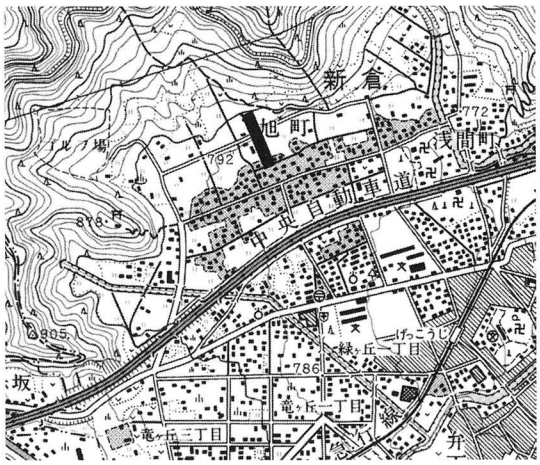
今回は2009（平成21）年6月4日に行われた鉄道・運輸機構と当センターとの現地協議に基づき、竜安寺川から40m内の砂防区域を対象として、長さ約17～42m、幅約１m、深さ約0.5～1.5mのトレンチを10本設定し、実施することとなった。

第１号～第3号トレンチは北向斜面上に設定し、土層の堆積状況は表土の下層（にぶい黄褐色土）に暗褐色土、黒褐色土、極暗褐色粘質土、褐色粘質土の順で自然堆積層が検出され、遺構・遺物ともに確認されなかった。第4号～第10号トレンチは竜安寺川に面する東向急傾斜地に設定し、土層の堆積状況は、表土の下層（黒褐色土）に黒褐色土、暗褐色土、黒褐色土粘質土、極暗褐色土の順で客土が検出され、それ以下は地山（褐色土）が確認された。遺物は黒褐色土と黒褐色粘質土から縄文時代および奈良・平安時代の磨滅した土器片がごく少量出土し、遺構は確認されなかった。

試掘調査の結果、遺構は全く検出されず、遺物は第8号～第9号トレンチの客土層からの出土であるため、遺跡は存在しないものと考えられる。よって、工事を実施するのに当たり、支障はないものと判断される。

４－15　吉田河口湖バイパス建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　富士吉田市旭３丁目1805外地内
調 査 期 間　2010年1月25日～27日
調 査 面 積　約205㎡（調査対象面積4,084㎡）
調査担当者　小林健二



試掘調査　位置図

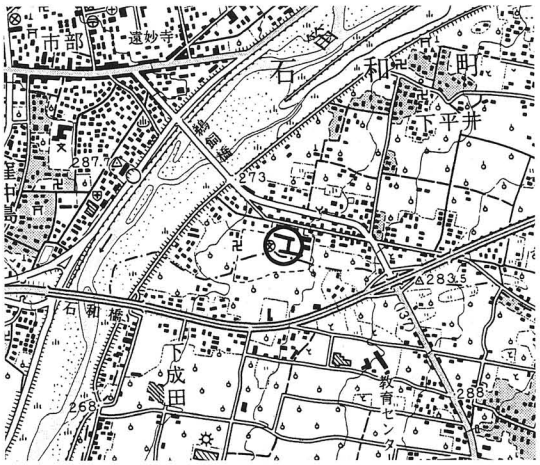
事業予定地一帯は、御坂山地の東南麓に広がり、縄文時代早期から平安時代にかけての遺構・遺物が発掘された周知の埋蔵文化財包蔵地「池之元遺跡」の約150m東に隣接

する地域であることから、遺跡の広がりや遺構・遺物の有無を把握するため、長さ2.0～30m、幅1.5～2mのトレンチを７本設定し、重機及び人力により掘削し、平面及び断面観察を行った。

東西に走る市道を挟んで、南側では南北方向に３本のトレンチを設定したが、山側の１号トレンチでは地表下２ｍまで黒褐色・暗褐色・灰褐色の小礫を含んだ砂質の粘土層が10～20cmほどの厚さで何層も堆積しており、わずかに砂礫層も見られた。部分的に地表下３ｍまで掘り下げると、厚さ10cmほどの火山灰層が一部で確認できたが、ほぼ同じ堆積状況が続いており、遺構・遺物を確認することはできなかった。２号トレンチでは、地表下1.2mほどで溶岩層が見られ、南側へ行くほど厚くなることが確認され、さらに３号トレンチでは地表下40cmほどで溶岩層となった。トレンチ内で確認できた厚さは２ｍほどあり、その下まで掘削することはできなかったが、１号トレンチの状況からも溶岩下から遺構・遺物が確認される可能性はないものと思われる。市道の北側でも、４本いずれのトレンチにおいても表土下50cm前後で堅くしまったローム層となり、遺構・遺物は全く確認されなかったことから、池之元遺跡の範囲は当該区域にまでは及んでおらず、工事に支障はないものと判断される。

４－16　県立笛吹高等学校建設事業に伴う試掘調査

所 在 地　笛吹市石和町市部3地内
遺 跡 名　石和高校周辺遺跡
調査期間　2010年1月13日～14日
調査面積　約70.3㎡（調査対象面積3,700㎡）
担 当 者　保坂和博



試掘調査　位置図

本地点は、県立笛吹高等学校建設事業予定地であり、周知の埋蔵文化財包蔵地である石和高校周辺遺跡が所在することから試掘調査を実施した。これまでに旧県立石和高等学校特別教室棟及び北側駐輪場下部の解体撤去に伴い立会調査を実施した。

調査の対象地は、2009年12月24日に行われた総務部営繕課、教育委員会学校施設課、学術文化財課と当センターとの協議に基づき、既存建物（旧県立石和高等学校）建設時に削平されず、今回建設される本館、中館、屋内運動場の中で新たに掘削が及ぶ範囲となり、長さ約11～15m、幅約１ｍ、深さ約0.5～1.8mのトレンチを5本設定し、実施することとなった。

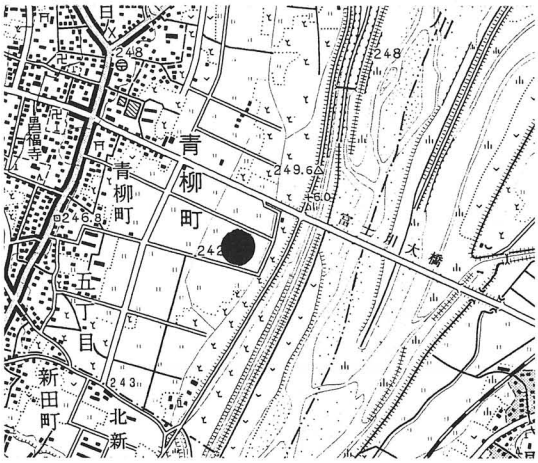
各トレンチにおける土層の堆積状況は、基本的に同様であり、表土（埋土：最厚部約150cm）下に笛吹川の氾濫原堆積物となる砂礫層、砂層、シルト層、粘質土層が検出され、150～180cmの深さから湧水が見られた。特に粘質土層は、鉄分や植物繊維を含み黒色を呈しており、湿地帯を形成する状況が確認された。

遺構・遺物の検出状況は、いずれのトレンチからも確認されなかった。

試掘調査の結果、遺構・遺物ともに全く検出されず、また笛吹川の氾濫原となる地形的環境から遺跡は存在しないものと考えられる。よって、今回の試掘地点では、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

４－17　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所 在 地　南巨摩郡富士川町（旧増穂町）青柳
　　字整理地1678 - 1外
遺 跡 名　町屋口遺跡・青柳河岸跡
調査期間　2010年1月25日～27日・29日
調査面積　491.7㎡（調査対象面積11,435.98㎡）
担 当 者　高野玄明・小林万里子



試掘調査　位置図

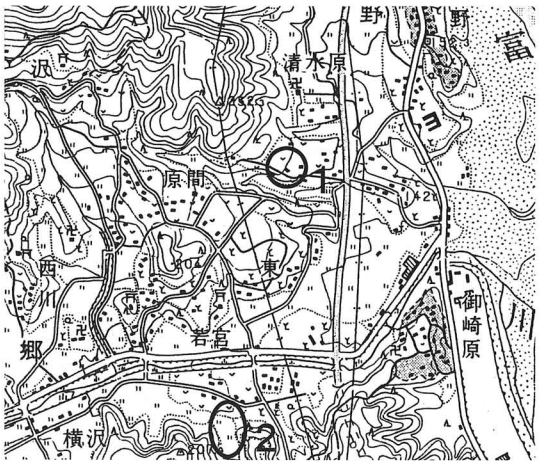
今回の調査点周辺は、中部横断道増穂ICや、防災ステーション、甲西道路等の大規模開発により詳細な試掘調査が実施され、河岸跡に伴う遺構等、中・近世の遺構や遺物が確認され、本調査が行なわれる等、注目される地域である。昨年度も、今回の調査区の隣接地において試掘調査を実施し埋蔵文化財の保護に努めているが、今年度、用地が集中して取得できたことから、今回、新たに試掘調査を実施することになった。

調査は重機によりトレンチ掘削を行い、人力によりトレンチ内を精査し遺構・遺物の確認を行った。試掘トレンチは、長さ9.0～27.0m、幅1.5～2.5m、深さ1.25～2.1mの合計21本を設定し調査を行った。

その結果、1～4号・8号トレンチにおいて青灰色シルト層直上から杭列や磁器が確認されたが、掘り込み等の明確な遺構は確認できなかった。これについて、昨年度の試掘調査の結果でも同様の杭列等が確認されており、近世・近代の水田に関するものとしていることから、今回確認された杭列なども、県の埋蔵文化財取り扱い要項により、発掘調査の対象とせず、事業地内における道路建設については、問題ないものと思われる。

４－18　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所 在 地　①南巨摩郡南部町中野字清水原地内
　　②南巨摩郡南部町字古城山地内
遺 跡 名　①清水原遺跡
調査期間　2010年2月15日～2月17日
調査面積　①約 60㎡（調査対象面積約1,600㎡）
　　②約185㎡（調査対象面積約15,000㎡）
担 当 者　山本茂樹



試掘調査　位置図

①清水原地内

試掘調査箇所は、原間遺跡の北側に所在する「清水原遺跡」である。2008（平成20）年度に試掘調査が実施されたが、遺跡の存在は確認されなかった。今回は、未取得地の約1,600㎡について遺跡の有無について調査を行うこととなった。

試掘調査溝は、合計で10本設定した。各試掘溝は、1号では10.6m×1m、深さ0.5m、２号は5.7m×0.9m、深さ0.4m、３号は4.7m×0.8m、深さ0.3m、４号は4.2m×0.7m、深さ0.3m、５号は9.0m×0.7m、深さ0.4m、６号は8.1m×0.8m、深さ0.3m、７号は5.0m×0.7m、深さ0.3m、８号は10.6m×0.7m、深さ0.35m、９号は5.5m×0.7m、深さ0.3m、10号は11.4m×0.7m、深さ0.3mで、総掘削面積は約60㎡である。

調査区はお茶畑がほとんどであり、緩やかに東傾斜した場所であるが、山をなだらかに掘削がなされたところでもある。そのため、畑では深さが0.3m前後で地山が確認される。

その結果、各試掘溝を精査したが、遺構・遺物は確認されなかった。

よって、文化財保護法上（山梨県教育委員会埋蔵文化財事務取扱要項　第３条）、特段の措置を必要とする遺構等はなく、工事を着手しても支障はない旨を報告した。

②古城山地内

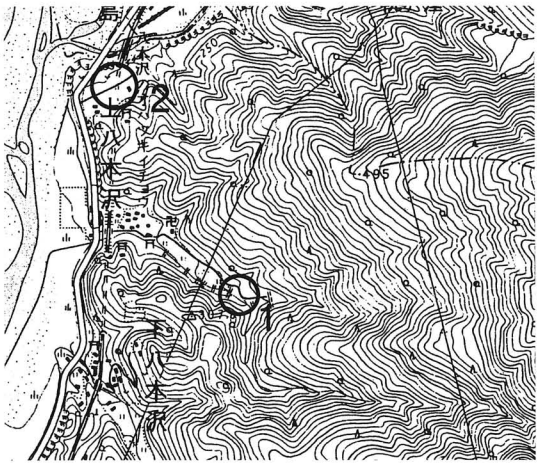
旧田んぼと宅地および畑地が試掘調査対象で、試掘調査溝を９本設定した。各試掘溝について、１号は山の傾斜地で数年前まで田んぼとして使用しており、そのため水が多くぬかるみのある場所である。現地表から5.0mまで掘削したが、青灰色の粘土層が堆積していた。２号は畑地であり、現地表から3.0mまで河原のよどみと思われる茶色の砂が堆積していた。３号は現地表から0.5mまでが盛土で、その下約1.50mまでが河原の礫層および砂層の互層であった。４号も３号と同様な状況であった。また地表下約60cmで礫の直上に厚さ5cmほどの赤茶色の土層が認められたため、５号では平面で確認するために幅3m×長さ18.6mと広めに掘削を行ったが、遺構・遺物の発見はなかった。６号では、旧宅地であったため掘削や盛土がなされ、撹乱土を取り除くと河原の礫が認められた。７号では長さ19.7m×幅2.4m、最大深度2.20mまで掘削したが、河原の礫層および砂層の堆積が認められるだけであった。８号では、最大深度2.7mまで掘削したが旧河道であったことを確認しただけである。９号では、最大深度2.5mまで掘削したが礫層および砂層の堆積だけであった。

調査の結果、遺構および遺物は確認されなかった。

よって、文化財保護法上（山梨県教育委員会埋蔵文化財事務取扱要項　第３条）、特段の措置を必要とする遺構等はなく、工事を着手しても支障はない旨を報告した。

４－19　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所 在 地　①南巨摩郡身延町上八木沢字清水地内
　　②南巨摩郡身延町上八木沢字鰍原地内
遺 跡 名　上の山遺跡
調査期間　2010年2月18日、3月1日、2日
調査面積　①21.6㎡（調査対象面積約1,000㎡）
　　②87.9㎡（調査対象面積約2,378㎡）
担 当 者　山本茂樹



試掘調査　位置図

①清水地内

試掘調査箇所は、現在耕作は行われていないが、元々田んぼとして使われていた場所である。

試掘調査溝は４本設定した。１本は、山が削られていたことから地山を確認するために法面を重機で掘削した。長さ9.5mで青灰色粘土層が確認され、旧田んぼであったことが明らかにされた。２本目の試掘溝は、幅1.6m、長さ4.3mを設定した。３本目は、幅1.4m、長さ2.5mを設定した。掘削した結果、山を削って田んぼがつくられていたことが明らかとなった。

次の地点であるが、ここも田んぼであり、水が流れでている場所である。幅2m、長さ5.6mの試掘溝を設定し、深さ2.7mまで掘削した。表土直下で青灰色粘土層が確認されたが、その下では土層に乱れが認められ、すぐ上流に堰堤があるため工事の際の掘削土が入れられたのではないかと思われる。

各地点での調査結果から、地山は既に削られており遺構・遺物は確認されなかった。

よって、文化財保護法上（山梨県教育委員会埋蔵文化財事務取扱要項　第３条）、特段の措置を必要とする遺構等はなく、工事を着手しても支障はない旨を報告した。

②鰍原地内

（仮称）身延インターへのアクセス道路建設に伴う試掘調査の実施である。試掘箇所のほとんどは畑として利用されていた場所で、北へ緩やかに傾斜し、江戸時代頃の石塔がいくつか存在するところである。南に連なる山には神社もあり、立地条件などから遺跡が存在している可能性が認められる場所でもある。

今回は、このような場所に試掘調査坑を８本設定した。991㎡の箇所では１～３坑まで、281㎡の箇所では４坑を、155㎡の箇所では５坑、233㎡の箇所では６、７坑、371㎡の箇所では８坑をそれぞれ設定し人力による掘削を行った。

１坑は、長さ5.2m×幅2.9m、深さ0.3mで掘削したところ、現地表から約0.3mまでは耕作土、その下には地山の黄褐色土（粘性、しまりあり）であった。一カ所を更に0.3m深掘を行ったが、土層に変化は認められなかった。２坑は、長さ4.3m×幅2.5m、深さ0.3mで掘削したところ、１坑と同じ約0.3mで地山の黄褐色土が認められた。３坑は、長さ4.8m×幅4.75m、深さ0.25mで掘削したところ、１、２坑と同様の地山が認められた。４坑は、長さ8.1m×幅1.0m、深さ0.3mで掘削したところ、１、２、３坑と同様の地山が認められた。

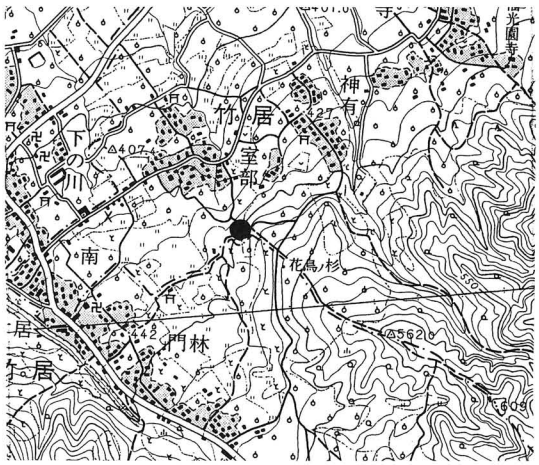
５坑は、長さ5.6m×幅2.5m、深さ0.3mで掘削し、地山の黄褐色土が認められた。一カ所を更に0.45m深掘を行ったが、土層に変化は認められなかった。６坑は、長さ1.7m×幅1.5m、深さ0.35mで掘削したところ、５坑と同様の地山が認められた。７坑は、長さ3.25m×幅0.9m、深さ0.25mで掘削したところ、６坑と同様の地山が認められた。８坑は用地取得地のほぼ中央で、長さ8.3m×幅1.4m、深さ0.25mで掘削したところ、両側で確認された地山が堆積していた。なお、152㎡と195㎡の箇所については傾斜がきつく、河川の脇であることから地形を考慮し試掘坑は設定しなかった。

各地点での調査結果から、粘性のあるしまりの強い黄褐色土がこの地区に広がっていると考えられること、深さが現地表から0.3m前後であることなどからこの層が遺構確認面と思われるが、遺構・遺物の発見はなかった。

よって、文化財保護法上（山梨県教育委員会埋蔵文化財事務取扱要項　第３条）、特段の措置を必要とする遺構等はなく、工事を着手しても支障はない旨を報告した。

４－20　山梨リニア実験線建設に伴う試掘調査（御坂工区）

所 在 地　（Ⅰ区）　笛吹市御坂町竹居字横堰4679
　　（50－2区）　笛吹市御坂町竹居字横堰4670
調査期間　2010年2月23日
調査面積　（Ⅰ区）　調査面積22㎡
　　（調査対象面積:295㎡）
　　（50－2区）　調査面積12㎡
　　（調査対象面積:271㎡）
担 当 者　三田村美彦



試掘調査　位置図

山梨リニア実験線建設に伴い、2009（平成21）年9月3日に山梨リニア実験線本線となるⅠ区と、山

梨リニア実験線建設に伴う工事用道路となる50 - 2区の現地踏査を行った。この地点は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、その立地などから鉄道建設・運輸施設整備支援機構、施工業者、学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センターの4者による協議の結果、試掘調査を行うこととなった。

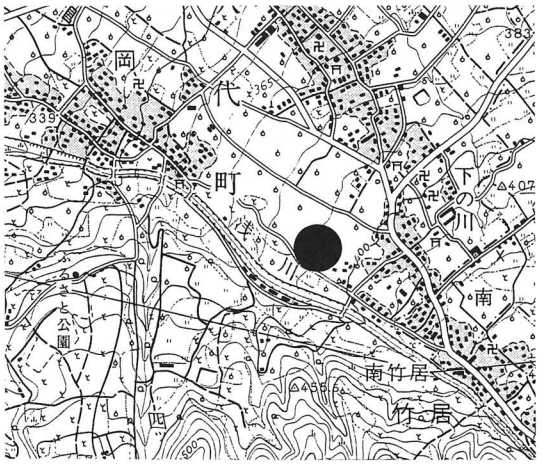
Ⅰ区には、2m近い段差があるためそれを境界にし、2本のトレンチを設定した。段差の北側には東西方向に幅1m、長さ7mのトレンチを設定、第1トレンチとする。段差の南側には、幅1m、長さ15mのトレンチを設定、第2トレンチとする。調査の結果、第1、2トレンチとも遺構確認面である粘性の強い褐色土層まで耕作が及んでいる状況が伺え、遺構・遺物は確認されなかった。50 - 2区には、幅1m、長さ12mのトレンチを設定した。

調査の結果、地山と考えられる黄褐色粘土層まで耕作が及んでいる状況が伺えⅠ区同様、遺構・遺物は確認されなかった。両区とも、当初緩斜面であった地形を果樹園にするため平坦に削平したものと思われ、遺構があったとしても削平されてしまった可能性がある。

上記のことから、試掘対象地内で工事を実施するにあたり支障はないものと判断される。

4－21　山梨リニア実験線建設事業に伴う試掘調査（御坂工区）

所 在 地　笛吹市八代町竹居字南原1593（D）・1497（E）
調査期間　2010年2月24日
調査面積　D＝32㎡（約480㎡）　E＝26㎡（約300㎡）
担 当 者　田口明子



試掘調査　位置図

試掘調査は、D地点・E地点の2箇所について実施した。幅約1mのトレンチをD地点に2箇所、E地点に1箇所掘削した。

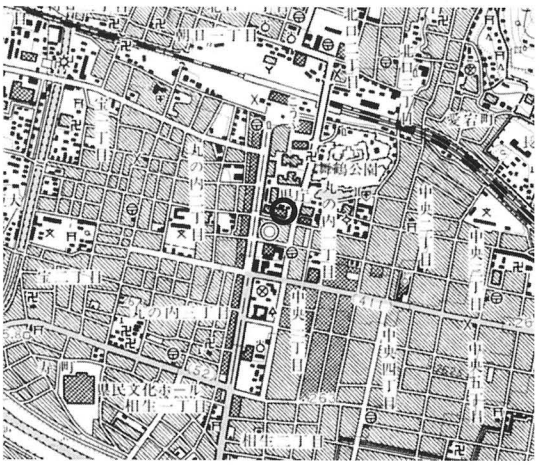
D-1は、長さ約15m。深さ約0.8mまで、東・西端は約1.5mまで掘り下げた。遺物・遺構等は認められなかった。D-2は、長さ約17m。深さ約0.7mまで、南端を約1.4mまで掘り下げた。南端の耕作土下である2層中から、古墳時代後期の須恵器片5点がまとまって出土した。また、2層の下面に幅約0.4m、深さ約0.2mの落ち込みを確認したが、人為的なものかは不明である。表採で縄文時代中期の土器底部1点発見したが、他からの混入も考えられる。

E-1は、長さ約26m。深さは、東端で約0.8m、西端が約1.5mまで掘り下げた。遺構・遺物は認められなかった。

D-2出土の須恵器片は試掘対象地の南端からの出土であり、包含層となっている2層からは、他に遺物の出土も認められないので、概期の遺跡が存在するとすれば、対象地の南側にあると考えられる。Eでは遺構・遺物は全く認められなかった。以上により今回の試掘地点においては、埋蔵文化財の本調査は必要ないと判断されるが、念のためDの南側は工事着手時には立会い調査が必要であると思われる。

４－22　県庁舎耐震化等整備事業に伴う試掘調査

所 在 地　甲府市丸の内1 - 6 - 1
遺 跡 名　甲府城跡
調査期間　2010年3月8日～12日、15日
調査面積　約83㎡（調査対象面積900㎡）
調査担当　石井　明・依田幸浩


試掘調査　位置図

第一南別館跡地はかつて甲府城の楽屋曲輪および堀跡とその内側の土手状遺構が存在した地点にあたることから、これら埋蔵文化財の深さ、残存状況、発掘調査の必要性を確認するための試掘調査を実施した。

調査は、長さ約8.7～10.8m、幅1.5～2.0m、深さ約2.1～2.7m（最深部）のトレンチ（試掘溝）を5本設定し、重機による掘削後、人力による平面・断面の精査・観察・記録を行った。また、第一南別館跡地全域にわたり、基礎抜き取り後の攪乱層に大量の瓦片が混入している状況が認められたため、地表面およびトレンチ掘削土中を精査し、瓦片を採取した。

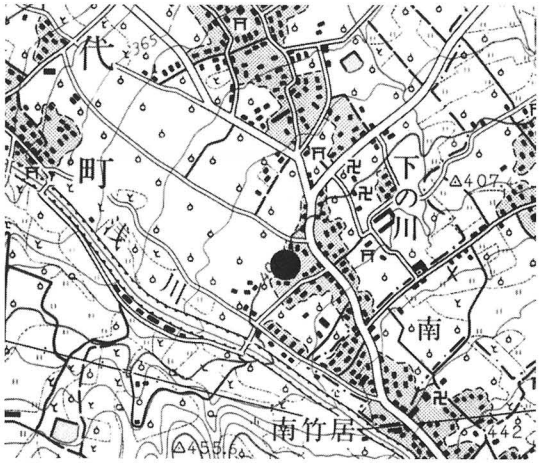
１号トレンチと5号トレンチでは、南から北および南西から北東にかけて傾斜して堆積する地層が確認され、これらは甲府城跡の堀の内側を巡っていた土手状遺構の下部にあたる可能性が考えられる。また、２号トレンチの南端部では、第一南別館建設当時のものと思われる側溝を検出した。

３号トレンチの北側と４号トレンチの中央部～北側では瓦片が出土した。３号トレンチで出土した瓦片は、焼成具合から江戸期のものと比定される。４号トレンチで出土した瓦片は、軒瓦の形状から築城期（1590年代）と江戸期のものが混在する状況にある。３号トレンチでは厚さ20cmほどの地層に点々と混入している状況から、江戸期の地盤造成に関係する遺物包含層の可能性が考えられる。４号トレンチでは瓦の混入範囲が厚く（最大約70cm）、量も多いことから、瓦溜の一部である可能性も考えられる。

試掘調査の結果、今回の調査対象地において甲府城跡関連の遺構が存在することが確認された。建物基礎による攪乱層の深度が地点によって異なり、断面観察や限定的な平面の調査では遺構の性格を捉えきれないため、工事着手前に試掘調査対象地全体の発掘調査が必要となる。

４－23　山梨リニア実験線建設事業に伴う試掘調査

所 在 地　笛吹市八代町竹居字南原1058
調査期間　2010年３月18日
調査面積　52㎡、（調査対象地面積約270㎡）
調査担当　吉岡弘樹・皆川賢司



試掘調査　位置図

山梨リニア実験線は、2007（平成19）年度に試掘調査を行い、2008（平成20）年度から本調査を実施している。試掘調査対象地（G地区）は、周知の埋蔵文化財包蔵地である南原遺跡（散布地-縄文・平安）の東側に隣接する位置にあたる。また、当地は南東側上方に花鳥山遺跡が、東側には柚木遺跡・三光遺跡といった縄文時代の遺跡が存在する位置にあたる。これらのことから、事前協議に基づき試掘調査が年3月18日に実施されることとなった。

調査前の状況は、標高約400mの甲府盆地を鳥瞰できる浅い谷状地形底部の緩傾斜地に造成された東西に長いほぼ三角形に近い形状の平坦な畑地であり、樹木等は事前に伐採されて更地化されていた。

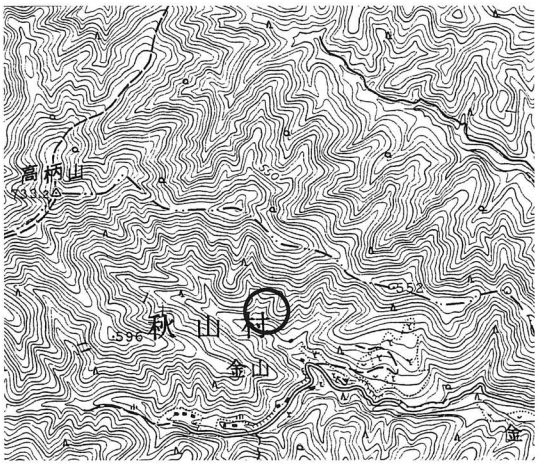
調査は、この状況を考慮し路線に並行した約25mと対象地の短辺に沿った約10mの２本のトレンチを開口させた後、比較的条件の良い６ヶ所で土層堆積状況を確認することとした。掘削には、重機を用いその後、精査をし土層断面の観察、遺構・遺物の有無等の確認を行い調査後に埋戻しを行った。

その結果、全ての土層確認地点で、耕作土下に遺構確認や遺物が包含される層序は確認できず、大小の自然礫を多量に含む層が厚く存在していることが判明した。これは、当地が谷状地形の底面にあるため、上方から浅川の氾濫と共に流出した砂礫が堆積したものと、周囲の地形などから推定できるものである。

上記のとおり、各土層確認地点から遺構や遺物が確認されなかったことや地形などから判断して埋蔵文化財の対応は必要ないものと思われる。

４－24　入山沢通常砂防事業に伴う立会調査

所 在 地　上野原市秋山字金山外地内
遺 跡 名　金山金山遺跡
調査期間　2009年4月22日、5月20日
調査面積　約11㎡（調査対象面積11㎡）
担 当 者　高野玄明・保坂和博



立会調査　位置図

本事業は、金山川入山沢の通常砂防事業予定地であり、周知の埋蔵文化財包蔵地である金山金山遺跡が所在することから2006年度に2地区で試掘調査が実施され、この結果を受けて2008年1月10日に現地協議が行われ、「第2地区（石垣で保護された平坦地）の石垣内部の遺物確認については、掘削時の立会として確認すること」とされ、今回の立会調査に至った。

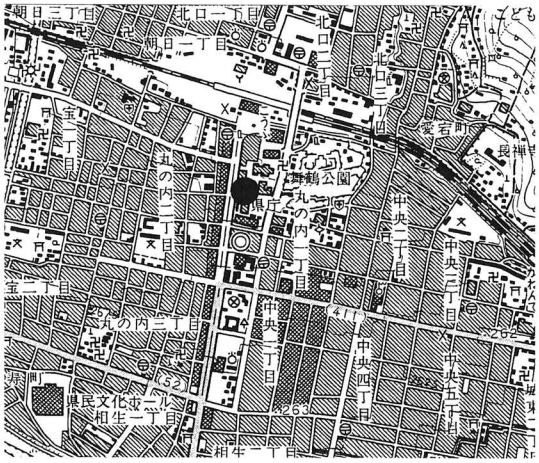
4月22日に掘削が行われるとの連絡を受け現地に赴いたが、掘削の開始に及んでいなかったため、第2地区内の石垣の工事に支障を及ぼさない地点にテストピット4ヵ所を設け、遺物確認を行った。いずれの地点においても遺物・遺構とも確認されず、土層の断面観察では2006年度の試掘調査結果と同様に水田の耕作土とその下の床土と考えられる堆積層が認められた。工事に伴う掘削時の立会調査については、再度調整を図り対応することとした。

5月20日にダム本体工事に伴う立会調査を実施し、ダム設置箇所の山裾部分と付随工事に係るテラス部分にトレンチを設定し、土層断面の確認や遺物の確認を行った。ダム本体工事（山裾部）については、岩盤が露出しているなど、問題ない無いものと考えられる。ダム下部（河床）に関しても現況より約5m掘削を行うとのことであるが、現状でも岩盤が露出していることから、問題ないものと考えられ、この状況が変わらないのであれば事務所からの写真等で確認する等とし、必要であれば立会調査を行うこととした。副ダム（上流）が施工されるテラス部分について、幅1.0m×長さ5.0m×深さ1.5mを設定し、確認を行った。その結果、地表約1.10mで岩盤に到達した。その上部については暗茶褐色粘土に0.05m～1.0m程の礫が多く混入しており、遺構・遺物の確認には至らなかった。

立会調査の結果、今回の立会箇所については問題ないものと考えられ、工事を進めても差し支えない旨を報告した。しかし、上流部の坑口等の存在も確認されており、周辺に開発が及ぶ場合には事前に埋蔵文化財の適切な保存措置の対応が必要となる。

４－25　県庁構内水道管敷設工事に伴う立会調査

所 在 地　甲府市丸の内一丁目地内（県庁構内）
遺 跡 名　甲府城跡
調査期間　2009年4月25日
調査面積　7.6㎡（調査対象面積7.6㎡）
担 当 者　高野玄明

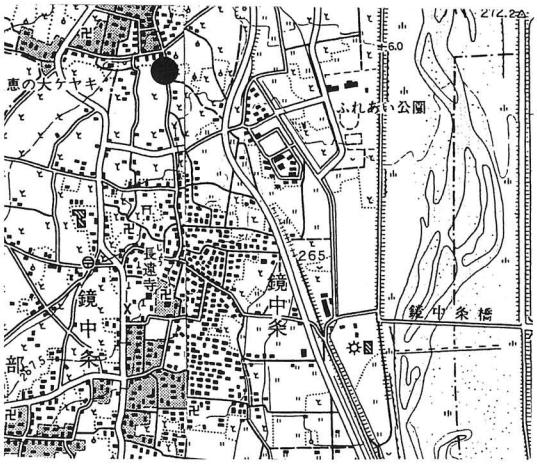


立会調査　位置図

今回の調査箇所周辺は、過去の調査実績から甲府城に関する石積みや石垣が確認されている。今回の調査箇所についてもその延長上に当たることから、協議の結果、施工時には立会調査を行うこととなった。 施工範囲は、県庁旧館と西側車庫を結ぶ幅0.5m、長さ15.0m、深さ0.5mの範囲で掘削が行われた。立会調査の結果、掘削深度が比較的浅かったことから、一部ではアスファルト下部の砕石層や暗褐色粘質土が確認されたほか、今回の掘削範囲の中では、甲府城に関する石垣等の遺構や遺物等については確認できなかった。

４－26　流域下水道敷設工事に伴う立会調査

所 在 地　南アルプス市鏡中条地内
調査期間　2009年6月4日
調査面積　10.5㎡（調査対象面積10.5㎡）
担 当 者　高野玄明・小林万里子



立会調査　位置図

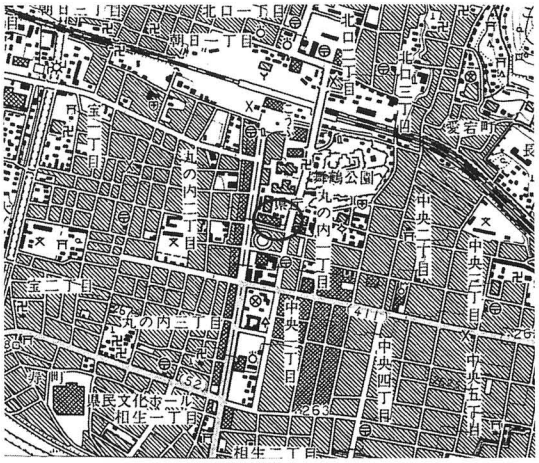
下水道敷設工事は、現状の道路下に深さ3.2m程掘削して、埋設するものである。周辺には遺跡が存在することから立会調査を実施することになった。

調査の結果、確認された土層は、アスファルト舗装直下に砕石層、さらには地盤補強としてコンクリートが敷設されていた。そのコンクリート下には暗褐色粘質土や黄褐色粘質土が堆積している。

下水道管敷設される道路部分について、道路建設時に南アルプス市教育委員会において試掘調査を実施しているが、遺構や遺物の確認はされていない。

このため、今回の箇所における下水道管敷設については、埋蔵文化財は問題ないものと考えられるが、これから下水道敷設工事については西側に延び、埋蔵文化財包蔵地にかかる箇所もあることから、工事に関して事業課と協議を行いながら、調査を行なっていく必要がある。

４－27　県庁舎耐震化等整備事業に伴う立会調査



立会調査　位置図

所 在 地　甲府市丸の内一丁目地内
遺 跡 名　甲府城跡
調査期間　2009年6月12日、7月6日～7日
調査面積　約0.22㎡（調査対象面積0.22㎡）
担 当 者　保坂和博・田口明子

本事業は、県庁舎耐震化等事業予定地であり、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城跡が所在することから総務部管財課と学術文化財課で協議を行い、同課から立会調査の依頼を受け、当センターで実施した。

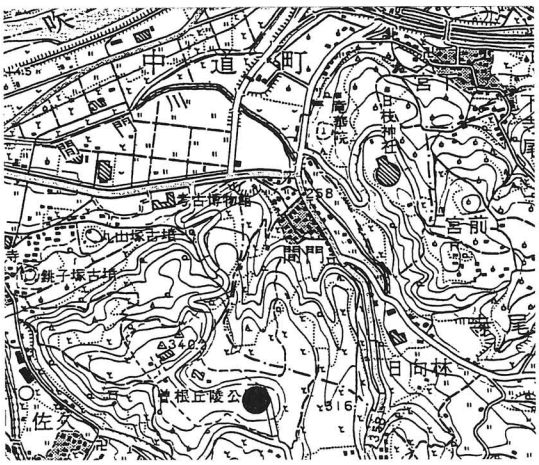
今回の立会調査は、地下埋設物有無確認のためのボーリング調査に伴い、コンクリートカッター等で表層を取り除いた後、手掘りでNo.A～Dの４箇所において実施した。調査は、工事工程に合わせ2回に分けて行った。

第1回目（6月12日）の立会は、No.Aで約0.2m×0.2m×深さ1.05mの掘削範囲において遺構確認と土層観察を行った。現地表（アスファルト）下は、約25cmの砕石層、約55cmの砕石層（多量の瓦出土）、約20cmの暗褐色（7.5YR3/3）粘質土層（小量の瓦出土）が確認された。瓦検出層は、2008年6月に行われた本地点北側の試掘調査で確認された瓦溜層と同一と考えられた。

第2回目（7月6日～7日）の立会は、No.B～No.Dで実施した。No.Bは、約0.35m×0.25m×深さ1.3m、現地表から0.185mまで、タイル・コンクリート等があり、その下は現地表から1.2mまでが盛土層、盛土層下は、自然堆積と思われる粘土質砂礫層であった。盛土層からは、磁器片が１点出土した。No.Cは、約0.2m×0.2mの範囲を0.35mまで、コンクリートカッター等で掘削を行った。コンクリート層がさらに下に続くために、後日掘削を再び行うとのことであった。No.Dは、約0.35m×0.15mの範囲で、現地表から約1.5mまで掘り下げた。現地表下約0.177mまで、タイル・コンクリート等があり、その下は約0.3mの空洞、空洞下約0.3mがコンクリート等の混入した攪乱層、ビニール紐の混入した砂層が確認された。

今回の立会地点では、地下埋設物は確認されなかったが庁舎整備に必要な開発範囲予定地に位置していることから今後開発行為が行われる場合には、事前に埋蔵文化財の発掘調査等適切な保存措置を行う必要がある。

４－28　風土記の丘・曽根丘陵公園整備（方形周溝墓広場展望台基礎撤去）事業に伴う立会調査



立会調査　位置図

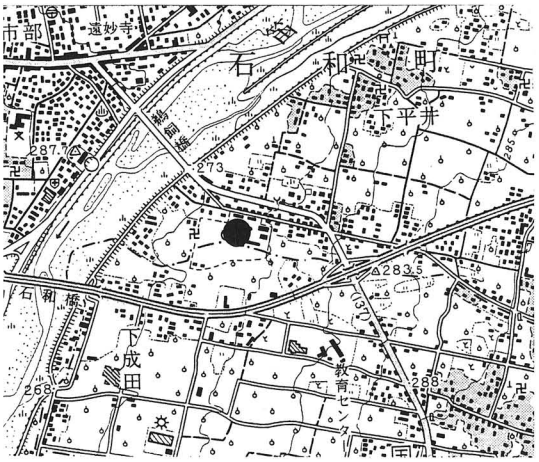
所 在 地　甲府市下向山地内
（風土記の丘・曽根丘陵公園内）
遺 跡 名　上の平遺跡
調査期間　2009年6月22日
調査面積　4㎡（調査対象面積4㎡）
担 当 者　高野玄明

風土記の丘・曽根丘陵公園方形周溝墓広場の展望台改築については、6月1日に新設する展望台の基礎の深さ等の確

認のための試掘調査を実施している。

今回の立会調査は、展望台解体に伴う基礎撤去の立会調査である。調査の結果、試掘調査の結果に基づき深さ1.1m程で基礎の最深部を確認した。また、基礎撤去時における掘削については、旧展望台敷設時の既掘の範囲内で基礎撤去を行っている。

４－29　県立笛吹高等学校給水管敷設工事に伴う立会調査

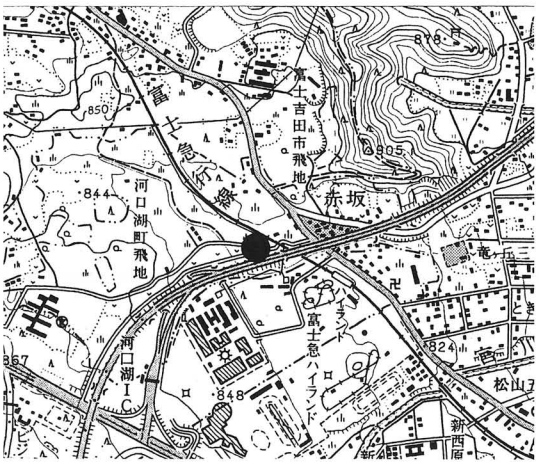


立会調査　位置図

所 在 地　笛吹市石和町市部３番地内
遺 跡 名　石和高校周辺遺跡
調査期間　2009年6月26日
調査面積　4㎡（調査対象面積4㎡）
担 当 者　高野玄明

笛吹高校は周知の埋蔵文化財包蔵地である「石和高校周辺遺跡」が存在しており、校舎建設事業等について試掘調査等で対応しており、今回の給水管の埋設工事にあたって、事業内容を勘案し、立会調査を実施することとなった。給水管は幅0.8m、深さ3.0mの範囲で、高校敷地内を掘削するもので、立会調査は、掘削が行われる箇所において実施した。確認された土層は１層：グラウンド造成面、２層：砕石層、３層：暗褐色粘質土、４層：黄褐色砂質土、５層：赤褐色砂質土、６層：黒色粘質土がみられた。今回の立会調査では調査区幅が0.8mと狭小であり、明瞭な遺構や遺物は確認できなかったが、安定した土層が確認されており、高校敷地内における新校舎改築等に伴う開発には十分注意を払う必要がある。

４－30　流域下水道敷設工事に伴う立会調査



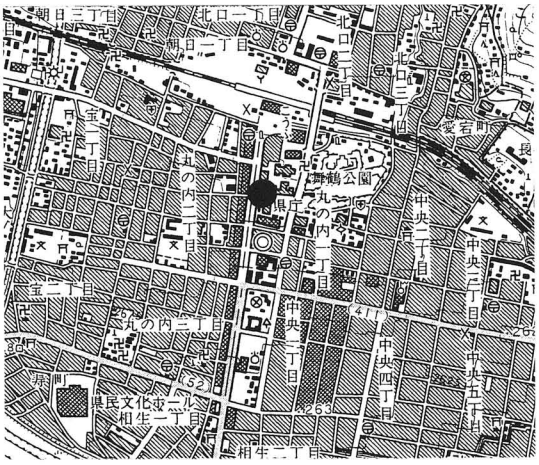
立会調査　位置図

所 在 地　富士吉田市新倉地内
遺 跡 名　赤坂累跡
調査期間　2009年6月29日
調査面積　24㎡（調査対象面積24㎡）
担 当 者　高野玄明・小林万里子

富士吉田市地内において下水道工事が計画されその周辺には赤坂累跡が存在しており、下水道管敷設にあたり、入り口部（竪坑）を地表下9.0m掘削し、地中8.0～9.0mの深さでトンネル工法により地中に下水道管を敷設するものである。今回の立会調査は、竪坑掘削時に調査を実施したが、竪坑の断面はすでに安全のための矢板が施されており、直接土層の確認はできなかったが、掘削された廃土からは富士山の火山灰（スコリア）のみであり、石積みや石垣のような痕跡はみられなかった。このため、水道管敷設工事に関しては問題ないものと考えられる。

４－31　県庁構内ATM基礎撤去事業に伴う立会調査

所 在 地　甲府市丸の内一丁目6 - 1（県庁構内）
遺 跡 名　甲府城跡
調査期間　2009年7月19日
調査面積　25.0㎡（調査対象面積25.0㎡）
担 当 者　高野玄明



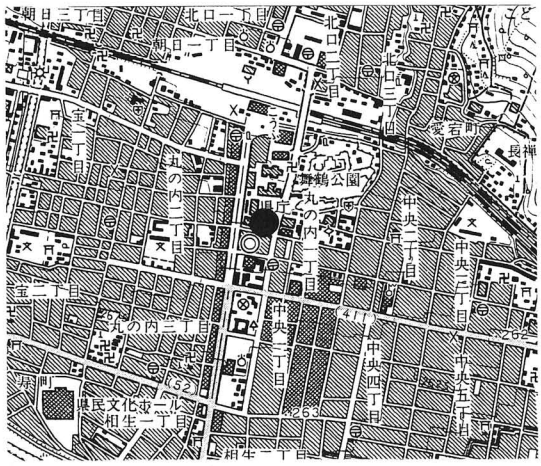
立会調査　位置図

調査箇所周辺は、過去の調査実績から石垣や石積みが確認されており、その延長上に県庁耐震化整備により基礎撤去が行なわれるATMブースが存在していることから、立会調査を実施することになった。

ATMブースの基礎は、5.0m×5.0m四方のベタ基礎であり、アスファルトカッターで煉瓦状に細かく刻みをいれたあと、撤去作業に入った。基礎部分の厚さは、28.0cmと厚いものではあったが、遺構確認面まで掘削深度が及ばないため、埋蔵文化財に関して全く問題はなかった。

４－32　県庁舎耐震化整等整備に伴う地中電線管撤去事業立会調査

所 在 地　甲府市丸の内一丁目6 - 1（県庁構内）
遺 跡 名　甲府城跡
調査期間　2009年7月22日～27日
調査面積　27.2㎡（調査対象面積27.2㎡）
担 当 者　高野玄明



立会調査　位置図

県庁耐震化整備に伴い地中電線管の撤去作業が行われることになり、５地点の箇所について甲府城跡の範囲内であるため立会調査を実施した。

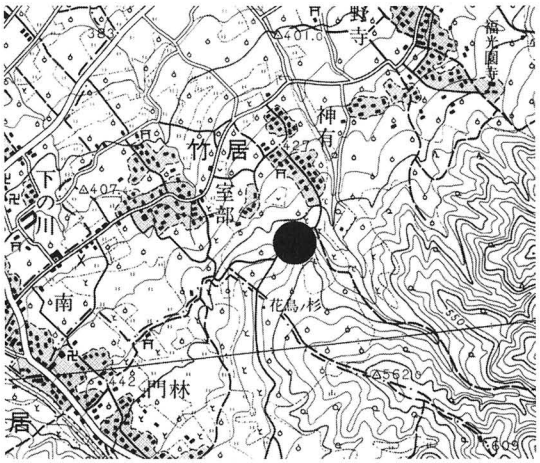
事業内容は、幅約2.0m、地下0.8～1.2m程で埋設されている電線管について掘削を行ない撤去するもので、すべて既掘の範囲内である。

地中電線管については、埋設された電線管の様相から約40年前に施工埋設されたものと考えられ、この周辺は比較的浅い部分で、甲府城に関する石垣や石積み等が確認されている箇所である。

今回の立会調査は、既に埋設されている地中電線管の撤去作業（深さ0.8～1.2m）で、すべてが既掘の範囲内であり、甲府城に関する遺構は認められないが、南別館東側駐車場より甲府城石垣に関する部材と思われる石材が埋土の中から確認できた。

これは、昨年度の耐震化等整備事業に伴う試掘調査でも、甲府城の石垣の一部が確認されており、県庁舎耐震化に関しても慎重な対応が望まれる。

４－33　山梨リニア実験線建設事業（笛吹市道512号改良工事）に伴う立会調査



立会調査　位置図

所 在 地　笛吹市御坂町竹居5025外
調査期間　2009年9月14日
調査面積　150㎡（調査対象面積約750㎡）
調査担当　吉岡弘樹・皆川賢司

本事業は、山梨リニア実験線建設に伴う笛吹市道512号線改良工事であり、既存の市道を約180mに渡り拡幅するものである。

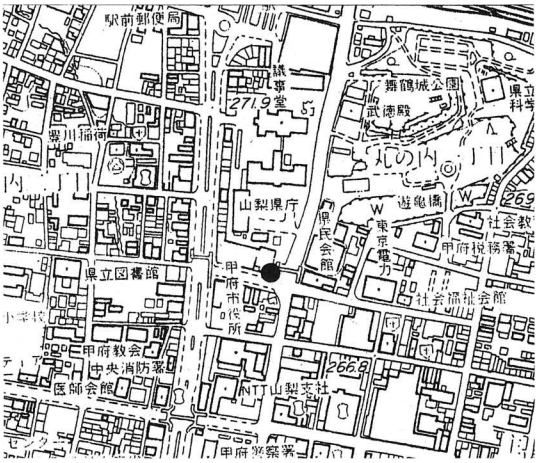
当地は南側上方に花鳥山遺跡が、また、北西下方には三光遺跡が存在する位置にある。また、この他にも近接して周知の埋蔵文化財包蔵地が点在しているため、事前協議に基づき立会調査が9月14日に実施されることとなった。

立会調査は北方に向かい急峻に下る地形の等高線に沿うように造成された既存の道路を拡幅する工事行程に合わせて拡幅部分の山側と谷側が対になるように、基本的に幅約1m、長さ約2～3m程のトレンチを重機によって掘削した後に精査を行い、その土層断面を観察した。また、既に切り土されている山側の土層についても部分的に土層観察を実施した。

その結果、第1号トレンチでは、約60cmの表土層直下、暗茶褐色土層(約30cm)・暗黄褐色土層(約20cm)・淡黄褐色土層(約30cm)・黄褐色土層(地山層)と安定した層序が確認できた。また、第2～6号トレンチでは約20～40cmの表土下に非常にしまりの強い暗黄褐色粘質の地山層が検出された。第7～11号トレンチにおいても前者と同様に約20～40cmの表土層下に地山層(礫混じりの暗黄茶褐色層)が確認された。なお、全てのトレンチ開口地点での遺構・遺物の検出は無かった。

さらに、第11号トレンチより北方では小河川による大きな削平があり、遺構等の検出はないものと判断された。

４－34　県庁構内電気高圧供給管新設事業に伴う立会調査



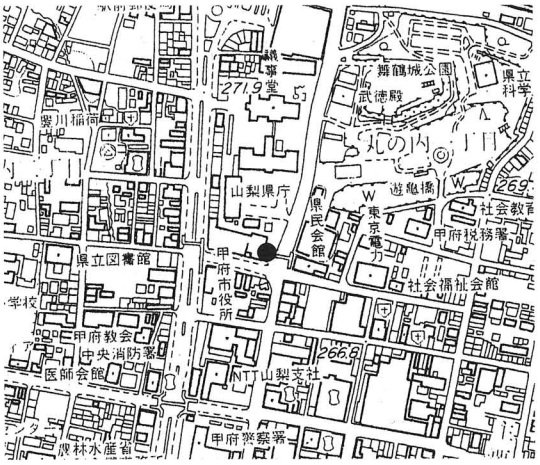
立会調査　位置図

所 在 地　甲府市丸の内１丁目地内
（スクランブル交差点北西部）
遺 跡 名　甲府城跡
調査期間　2009年10月7日
調査面積　2㎡（調査対象面積2㎡）
担 当 者　野代幸和・長田隆志

県指定史跡に隣接する地点であり、城内に位置する地点であることから、学術文化財課より指示があり、埋蔵文化財センターで対応することとなった。計画掘削深度は600㎜であり、道路敷部分における過去の調査実績から遺構が認められたレベルよりも高い位置にあることから埋蔵文化財への影響は少ないものと推定された。調査の結果、既存のハンドホールによる攪乱もあり、掘削も盛土内で収まったことから、遺構・遺物共に認めることはできなかった。

４－35　県庁周辺電気高圧供給管撤去並びに新設事業に伴う立会調査

所 在 地　甲府市丸の内１丁目地内
（旧情報プラザ南側歩道部分）
遺 跡 名　甲府城跡
調査期間　2009年10月19日～22日
調査面積　15㎡（調査対象面積15㎡）
担 当 者　吉岡弘樹・野代幸和・長田隆志



立会調査　位置図

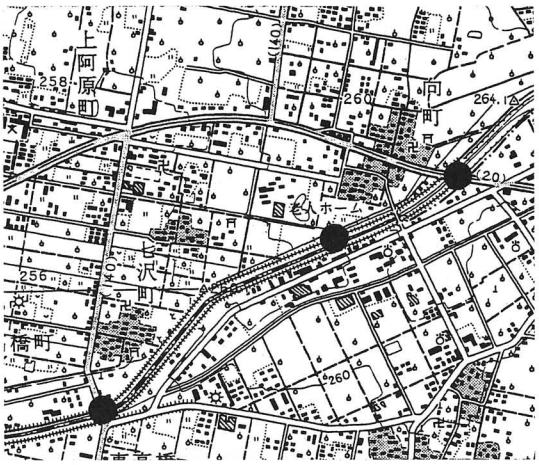
本地点は県指定史跡甲府城跡に隣接する周知の埋蔵文化財包蔵地（甲府城跡）に位置し、過去の調査実績では付近から掘、石垣等の遺構が発見されている。

学術文化財課より連絡があり、埋蔵文化財センターで対応することとなった。掘削地点は三カ所、掘削深度は平均して1100mmということであり、既存配管の攪乱から過去の甲府市教育委員会の調査実績（1700mm下から遺構を検出）から遺構が検出される可能性は低いものと判断された。

しかし、県庁構内では地表下700mmでも遺構が確認されていることや、堀の立ち上がり部分に位置する可能性が高いことから慎重に対応することとしたが、遺構・遺物共に発見することはできなかった。

４－36　平等川基幹河川改修事業に伴う立会調査

所 在 地　甲府市七沢町・西高橋町地内
遺 跡 名　堤防推定地・七沢の渡し場
調査期間　2009年11月12日
調査面積　16.0㎡（調査対象面積16.0㎡）
担 当 者　高野玄明



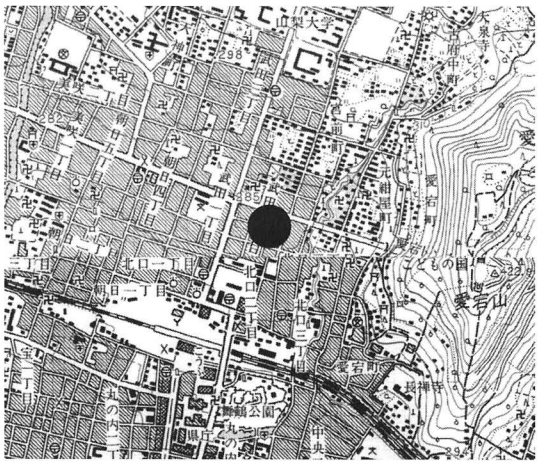
立会調査　位置図

平等川基幹河川改修については、2007（平成19）年度より旧春日居町をはじめとし「堤防遺跡」や「七沢の渡し場」が想定されることから継続的に、試掘調査や立会調査を実施している。

今回の立会調査は、試掘調査の実施が難しい箇所について、工事着手される４箇所の地点において、2.0m×2.0m四方の掘削をお願いし、立会調査により土層の確認及び遺構・遺物の有無を確認した。

調査の結果、いずれの調査対象地の土層断面は河川の自然堆積による砂質土が主体となり、深さ1.5m以降は青褐色砂層に礫の混入がみられ、その下部約2.0mになると礫層が確認された。同事業地周辺は、6月の試掘調査同様、地下水が非常に高い状況であり、トレンチの崩壊が激しく、内部の詳細な精査はできなかったが、掘削の状況から遺構や遺物の確認はできなかった。このため、河川改修工事に関し、全く問題ないものと考えられる。

４－37　県立中央病院北口院長宿舎解体事業に伴う立会調査



立会調査　位置図

所 在 地　甲府市北口三丁目83番
遺 跡 名　武田城下町遺跡、甲府城下町遺跡
調査期間　2010年１月25日～27日
調査面積　約70㎡　(対象地面積　243㎡)
担 当 者　吉岡弘樹・皆川賢司

本事業は、当該地にある中央病院北口院長宿舎の深度約70cmまで敷設してある基礎コンクリートなど埋設物を全て解体撤去し更地化するものである。

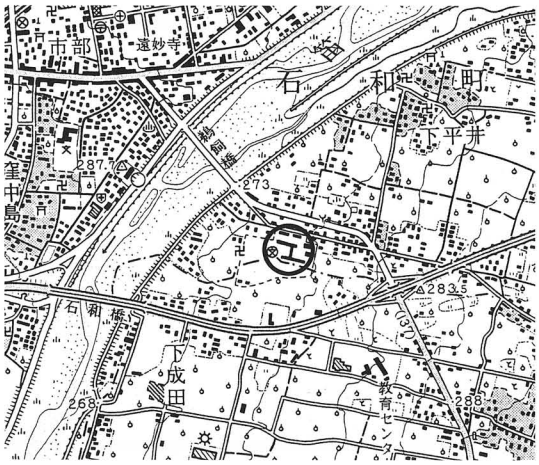
当該地は中世では武田城下町遺跡の南側、近世においては甲府城下町遺跡の北縁部にあたり、この周知の埋蔵文化財包蔵地である二遺跡が重複する位置にある。

上記のことから、事前協議に基づき立会調査が１月25日から27日にかけて実施されることとなった。

立会調査は、243㎡という狭い面積であることから対象地を二分し西側より、基礎コンクリートなどを除去後、比較的良好に土層観察ができる箇所を精査し、８ヶ所において土層断面を観察した。

その結果、宿舎基礎の下に宿舎建設以前に解体された建物の廃棄物が厚く廃棄され転圧されている箇所がほとんどで、遺構・遺物の検出は無く、わずかに残されていた良好に土層観察が実施できた箇所においても遺構・遺物の確認はできなかった。

４－38　県立笛吹高等学校建設事業に伴う立会調査



立会調査　位置図

所 在 地　笛吹市石和町市部3地内
遺 跡 名　石和高校周辺遺跡
調査期間　2009年12月11日、17日、25日　2010年1月4日
調査面積　約330㎡（調査対象面積1,115㎡）
担 当 者　保坂和博

今回の立会調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地である石和高校周辺遺跡の範囲内における県立笛吹高等学校建設に先立つ旧県立石和高等学校特別教室棟（長さ98.8m×幅9.8m）及び北側駐輪場（長さ36m×幅4m）における下部解体（基礎コンクリート）撤去事業に伴い実施された。

調査は、工事工程に合わせ第1日目（12月11日）に建物西端（A:№21地点）、第2日目（12月17日）に建物中央（B:№13地点）、第3日目（12月25日）に建物東端（C:№1地点）、第4日目（1月4日）に駐輪場の4回に分け、遺構・遺物確認と土層観察を行った。

各地点における土層堆積状況は、Ａ～Ｃ地点では約50cmの表土（埋土）下に約180cmの埋土が確認され、それ以下では自然堆積層となる砂礫が湧水を伴い確認された。また、駐輪場地点ではコンクリート基礎（約20cm）の下から約1.3mまで埋土が確認され、それ以下はＡ～Ｃ地点と同様な状況が推測された。

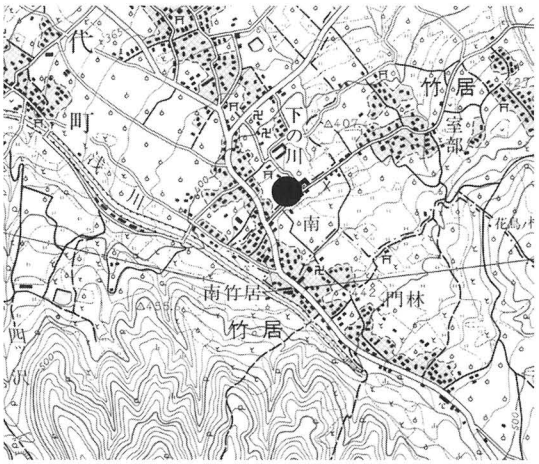
立会調査の結果、建設時に表土下約230cmの自然砂礫層まで掘り下げ基礎コンクリートを布設し、

埋土された状況が見られ、遺構や遺物は全く遺存せず、遺跡はないと考えられたため、今回の立会地点では工事を進めても差し支えない旨を報告した。

なお、12月24日に行われた総務部営繕課、教育委員会学校施設課、学術文化財課と当センターとの協議に基づき、本館、中館、屋内運動場建設で新たに掘削される場所については、改めて試掘調査を実施する必要があることが確認された。

４－39　山梨リニア実験線建設事業に伴う立会調査

所 在 地　笛吹市八代町竹居字柚ノ木1214外
遺 跡 名　柚木遺跡
調査期間　2010年2月12日
調査面積　8㎡（調査対象地面積約30㎡）
調査担当　吉岡弘樹



立会調査　位置図

本事業は、山梨リニア実験線建設に伴う工事用仮設道路敷設により畑地を最大深度約1.5mの傾斜まで掘削し、既存の隣接する道路に接続するものである。

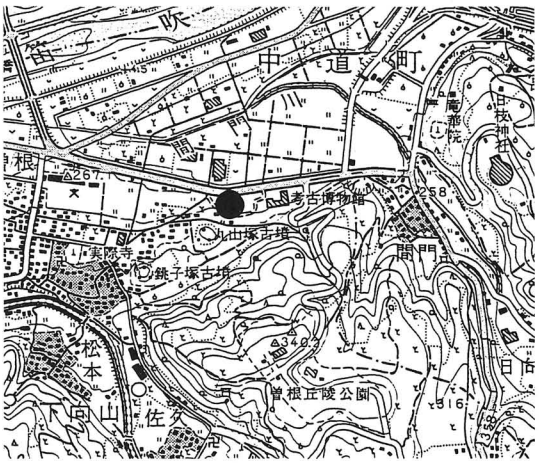
当地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である柚木遺跡（散布地～縄文・平安）の東端部に位置しているため、事前協議に基づき立会調査が2月12日に実施されることとなった。

調査地は南側上方に花鳥山遺跡が、また、南東側に隣接して三光遺跡といった全国的にも有名な縄文時代の遺跡が存在する位置にあたる。

立会調査対象地の状況は、リニア実験線本線に隣接した位置にあり、甲府盆地底部に向かう傾斜地に直角になるよう平坦に造成された畑地の一部分である東西に長い三角形状の土地（約30㎡）である。調査は、このことを考慮し、東西に直列するようにトレンチを２カ所に開口させ土層堆積状況を確認することとした。

その結果、東側に設置した第1号トレンチでは、約40cmの耕作土層直下、暗茶褐色土層（約20cm）・黄褐色粘質土層（約50cm）・黄褐色砂礫層（約40cm）・明黄褐色土層と不安定な層序が重なり遺構・遺物ともに検出はできなかった。また、第2号トレンチでは、約40～50cmの耕作土下に第1号トレンチと同層の暗茶褐色土層（約20～30cm）が確認できた。さらに、その下層には粘性・しまりともにやや強く焼土・炭化粒子をやや含む安定した層序である暗茶褐色土層（約25～30 cm）が観察できたが遺構・遺物などの検出には至らなかった。

４－40　風土記の丘・曽根丘陵公園整備事業（日本庭園改修工事）に伴う立会調査



立会調査　位置図

所 在 地　甲府市下曽根町
（風土記の丘・曽根丘陵公園内）
遺 跡 名　岩清水遺跡
調査期間　2010年1月14日、21日、22日
調査面積　140㎡（調査対象面積140㎡）
担 当 者　高野玄明・田口明子

風土記の丘・曽根丘陵公園内にある日本庭園（池）の改修工事が計画され、池の底部や、その周辺部を幅3.0m、深さ0.9～2.7m程掘削されることから、この状況を踏まえ、施工箇所の掘削時に、立会調査を実施することとした。

【南・北側樹木移植掘削箇所】

改修工事内における南側は、サツキやツツジ、クヌギ等、北側についてはヤマボウシ等が植栽されているが、これについて、改修工事における移植に伴う掘削時に立会調査を実施した。確認の結果、移植に伴う掘削箇所はいずれも盛り土の範囲である。

【北側国道沿い掘削箇所】

現地表から2.0～2.7mまで掘削をおこなった。この付近については樹木の移植箇所同様、盛り土が2.0m以上見られ、その下部はオリーブ黒色シルト層が堆積している。

【池掘削箇所】

日本庭園の北側国道沿いから掘削を行い、池の底部はコンクリートで厚さ0.2m、その下0.2mの砕石層が見られ、砕石層下部は盛り土や自然堆積の黒色シルト層が見られた。

上記のように、３箇所における掘削時の立会の結果、日本庭園改修工事に関し、掘削深度が最大で2.7m程を掘削したが、盛り土の範囲内並びに自然堆積層のオリーブ黒色シルト層のみで周辺が湿地帯であったことが窺えるなど、今回の埋蔵文化財に関して、全く問題は見られなかった。

４－41　運転免許課都留分室他下水道接続工事に伴う立会調査

立会調査　位置図

所 在 地　都留市下谷3-2-18外
調査期間　2010年1月18日、2月23日
調査面積　約3.6㎡（対象面積約20㎡）
調査担当　依田幸浩

本調査は、運転免許課都留分室他の下水道接続工事に伴う立会調査である。工事地点は、西側の桂川と東側の御正体山の山裾に挟まれた日当たりのよい平地で、周辺の同地形上に縄文時代の遺跡である徳重遺跡や小倉遺跡が存在することから立会調査を実施することとなった。

調査は、２地点（Ａ・Ｂ地点）で２日間にわたり行った。Ａ地点は大月警察署都留分庁舎から西側の市道に接続する道路部分である。掘削範囲は、長さ約25m、幅約0.6m、深さ約1～2mで、西端

と東端部分は既設工作物のための攪乱層となる。また、現地表下約1.4m地点からは溶岩の岩盤となる。両端の攪乱層を除き、現地表下約0.5m～0.9mの間に赤色スコリアを含む比較的安定した黒褐色土層が堆積していたが、遺構および遺物は一切確認されなかった。

Ｂ地点は都留分庁舎宿舎から東側の植え込み部分で、掘削範囲は、長さ約9m、幅約0.6m、深さ約1.0mである。Ｂ地点でも掘削範囲の東端から中央のフェンス部分にかけて既設工作物による攪乱層がみとめられた。攪乱層を除いた部分では、現地表下約55～75cmの間に赤色スコリアを含む黒褐色土層、その下に赤色スコリアと黒褐色土ブロックを含む褐色土層が堆積していたが、遺構および遺物は一切確認されなかった。

Ａ・Ｂ両地点ともに遺構や遺物が全く確認されなかったことから、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

４－42　県庁舎耐震化等整備事業（第一南別館解体）に伴う基礎撤去立会調査

所 在 地　甲府市丸の内1丁目6－1
遺 跡 名　甲府城跡
調査期間　2010年3月1日、4日
調査面積　50㎡（調査対象面積900㎡）
担 当 者　高野玄明

立会調査　位置図

県庁耐震化等整備に伴い、県庁第一南別館が取り壊されることになり、県庁内が旧甲府城内にあたるため、基礎撤去時において立会調査を行うことになった。

第一南別館は、1930（昭和5）年3月に竣工し、山梨県立図書館として開館し、その後、県庁第１南別館として使用されてきた。幾何学的な模様を取り入れた「アールデコ」と呼ばれる建築様式が用いられた貴重な建物であることから、取り壊す前に記録保存することとなった。調査終了後、上物撤去後の3月1日と4日に基礎撤去に伴う立会調査を行なった。

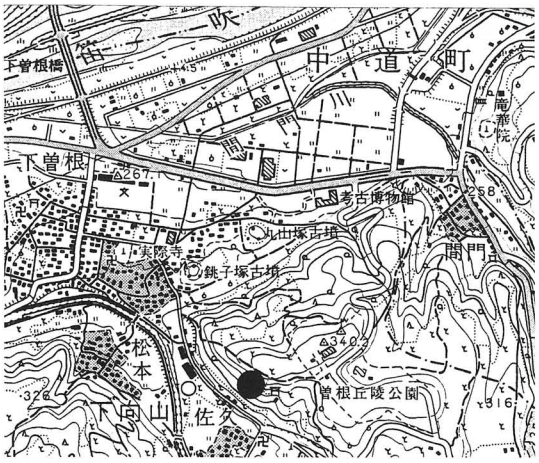
第一南別館は、旧図書館部分と増築された東側部分とわかれており、旧図書館部分は基礎が2.7mまで及んでおり、撤去後には黄褐色の地山と思われる層が確認された。また、建物南西隅に石垣らしい痕跡が確認されたが狭小であったため不明瞭である。

東側増築部分にいて、基礎も浅く旧甲府城の造成面なのかは不明であるが、暗褐色土層が確認されている。

この旧第1南別館については、基礎撤去終了後、試掘調査を実施することとしている。

４－43　風土記の丘・曽根丘陵公園整備（バンガロー解体撤去工事）事業に伴う立会調査

所 在 地　甲府市下向山町地内
（風土記の丘・曽根丘陵公園内）
調査期間　2010年3月29日
調査面積　2㎡（調査対象面積6.5㎡）
担 当 者　高野玄明



立会調査　位置図

曽根丘陵公園内にあるバンガロー解体作業に伴う基礎撤去について、今回、立会調査を実施することとなった。

バンガローについては、全部で15棟の施設があったが、年度ごとに数棟ずつ解体を行っており、今年度については２棟の解体を行うことになった。

今回の立会調査は、1棟のみについて行ったが、地表にはコンクリート支柱による独立基礎のように見られたが、地中は独立基礎をつなぐように布基礎による工法がとられていた。

基礎撤去による掘削の深さは、1.0mに及び、地表から0.65mまでは、暗褐色粘質土に小礫がみられ、その下部には暗褐色粘質土がみられた。

バンガローは、急斜面に立地しており、立会調査の結果、遺物や遺構の検出はできなかった。

上記のように、バンガローは急斜面地でもあり、建設時には試掘調査も実施されている。

今回の基礎撤去の立会調査でも、遺構や遺物の検出はされなかったことから、埋蔵文化財の対応は必要ないものと考えられる。

第Ⅲ章　県内の概況

1　届出件数と内容

平成19年度より文化財保護施行令第50条により県教育委員会が行うこととされている文化財保護法第93条の指示及び第94条の勧告に係る権限の一部を富士吉田市を除く11市に移譲し、平成20年度には富士吉田市にも移譲したことにより、県下全12市へ文化財保護法第93条・第94条に係る権限の一部を移譲した。権限移譲を行ったのは指示・勧告のうち工事立会、慎重工事などの軽微なもので「発掘調査」や「試掘・確認調査」の指示・勧告は現行どおり県教育委員会にて行う。権限移譲にあたって、埋蔵文化財の専門知識と客観的かつ合理的な基準が必要となることから埋蔵文化財専門職員が設置されている市を対象とし、山梨県教育委員会の事務処理の特例に関する条例の一部を改正する条例により実施した。よって届出件数について、権限移譲した分は県への届出件数が減少している。

平成21年度、県内の埋蔵文化財調査による届出件数については、法92条：9（6）件、法93条：126（161）件、法94条：39（65）件、法96条1（0）件、法97条1（6）件、法99条180（174）件である。届出の総件数は355（412）件であり、前年度と比較すると、その件数は57件（14%）の減少となっている。

※（　　）内数字は前年度。　過去20年間の件数の変遷は65頁の表のとおり。

2　発掘調査

平成21年度に実施された県内の発掘調査件数は、65頁の表のとおり試掘調査を含めて189（180）件（発掘調査学術調査等含む）となっている。その内訳は、県が21（25）件・市町村が168（155）件である。発掘調査の原因は、道路25（23）件、鉄道5（4）件、河川1（2）件、学校建設9（10）件、集合住宅8（16）件、個人住宅35（53）件、工場1（4）件、店舗9（4）件、個人住宅兼工場又は店舗0（2）件、その他建物21（23）件、宅地造成25（9）件、土地区画整理4（0）、公園造成1（0）、ガス・電気・電話・水道4（0）件、農業基盤整備事業17（17）件、農業基盤整備事業以外の農業関連事業1（0）件、土砂採取0（1）件、その他開発15（6）件といった緊急調査と、学術調査5（1）件、保存目的の範囲確認4（2）件、遺跡整備1（0）件があった。緊急調査では、地方公共団体が行う公共事業では道路建設等が目立つものの、大きな変動は見られないが、民間開発においては宅地造成やその他開発（携帯電話基地局）に大幅な増加傾向がみられる。　※（　　）内数字は前年度。

3　県指定有形文化財（考古資料）及び県指定史跡

平成21年度は、県指定史跡2件、県指定有形文化財1件が指定されている。平成21年11月12日に県指定史跡として指定された「甲府城跡愛宕山石切場」は、甲府市愛宕町地内にある甲府城の石垣石材（安山岩）の産出した石切場跡であり、16世紀末の甲府城築城期には愛宕山をはじめ、広い範囲に石切場があったと推測できるが、現在は、都市化が進み石切場としての景観が残る唯一の場所であることから、約1,638㎡が指定された。笛吹市春日居町の白鳳期の古代寺院跡「寺本廃寺跡」は、推定される寺域130m四方が平成21年5月21日に県指定史跡として指定された。同じく5月21日に県指定史跡甲府城内から出土した鯱瓦片120点が「甲府城跡出土金箔鯱瓦」として県指定有形文化財に指定された。平成17年に重要文化財に指定された釈迦堂遺跡縄文土器については、順次修理が行われている。

4　発掘調査の成果と保存整備事業

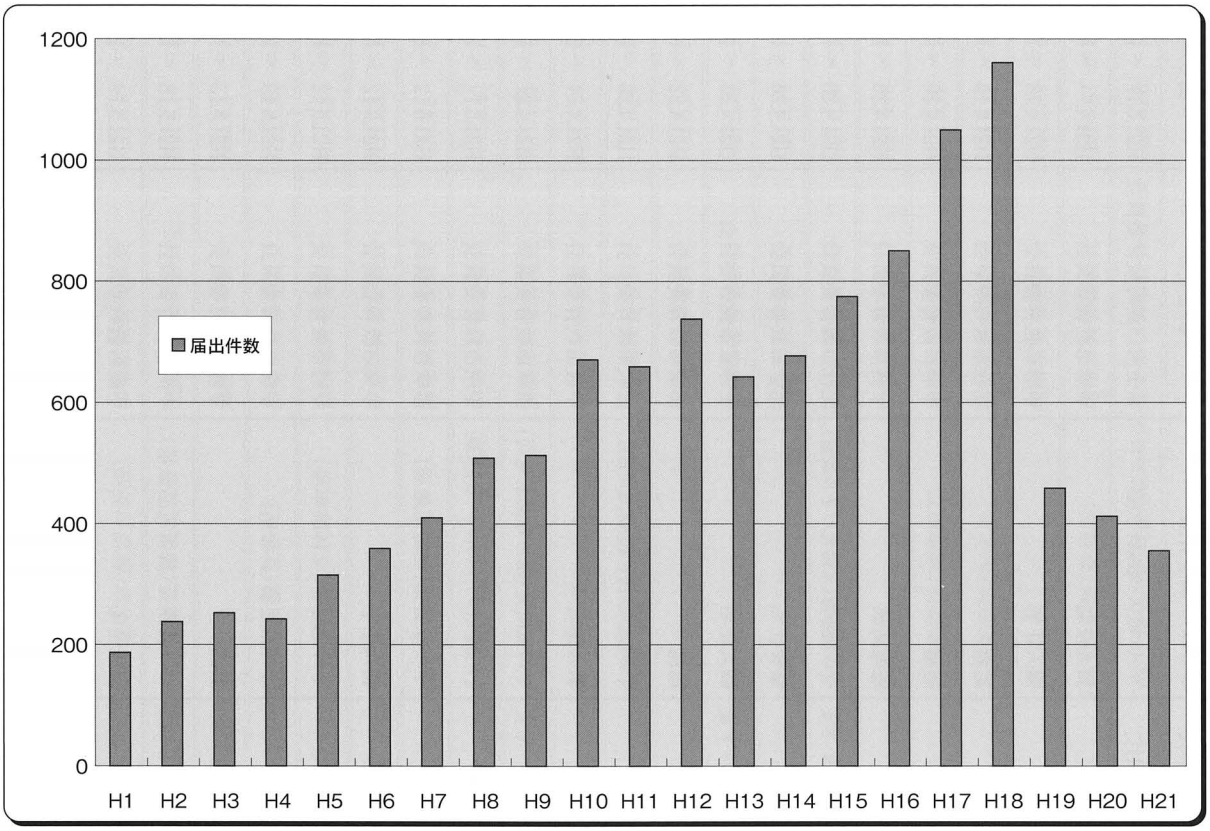
平成21年度県内各地で行われた発掘調査（学術調査等含む）は182カ所ある。北杜市白州町の板橋遺跡では多数の縄文時代前期の住居跡のほか、山梨県では発見例が少ない方形柱穴列と呼ばれる遺構が発見されている。北杜市大泉町の山崎第４遺跡では多数の住居跡などが発見され、土器や石器のほ

かにヒスイ製の装身具が出土した。北杜市須玉町西川遺跡では縄文時代の住居跡や土坑、古墳時代、中世の遺構が発掘された。富士川町（旧増穂町）の町屋口遺跡からは青柳河岸跡へ延びるとされる「お蔵道」の一部や水路跡などが発掘され、水路跡の土留板に舟板が多数転用されている状況が確認されている。富士河口湖町滝沢遺跡からは平安時代の住居跡のほか、弥生時代の方形周溝墓とみられる遺構が見つかっている。都留市美通遺跡では、縄文時代、奈良・平安時代の住居跡、近世の人骨が確認された土坑などが発掘されている。

５　発掘調査体制

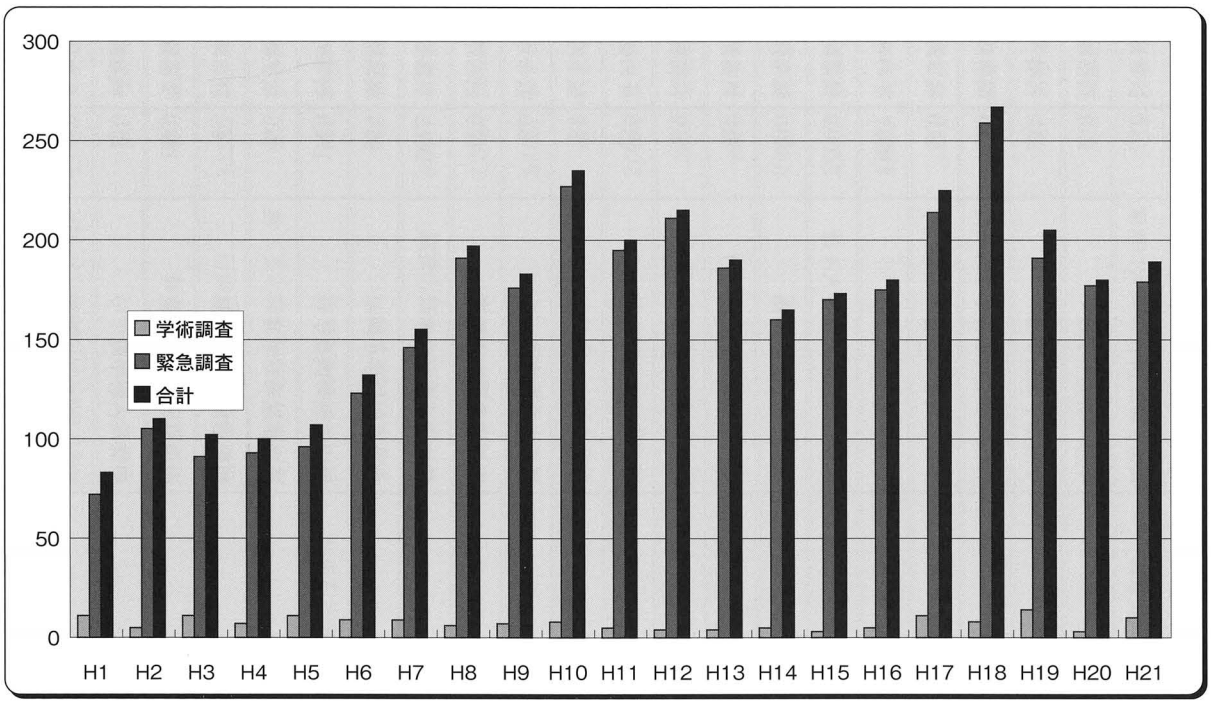
埋蔵文化財専門職員について、県では学術文化財課5名（うち文化財保護担当1名）、埋蔵文化財センター23名（うち教員派遣交流4名、非常勤嘱託5名）、博物館2名、考古博物館3名（外に非常勤嘱託1名）である。市町村では、甲府市6名、富士吉田市2名、甲州市3名（外に非常勤嘱託1名）、大月市1名、韮崎市2名、南アルプス市3名、笛吹市5名（外に非常勤嘱託2名）、甲斐市2名（外に非常勤嘱託1名）、北杜市4名、山梨市2名、中央市1名（昭和町を兼務）、都留市１名、上野原市１名、市川三郷町１名、身延町1名、忍野村１名（非常勤嘱託）、富士河口湖町1名となっている。埋蔵文化財担当者の配置率は、27市町村のうち17市町村で60％となり、平成15年度の61％（64市町村のうち39市町村）と比べわずかに減少している。また、担当職員数も54名から14名減の40名（嘱託等含む）の配置状況である。市町村合併や発掘調査事業量の減少に伴い組織編成が行われ、埋蔵文化財専門職員の配置換えによって実質的に配置職員数の減少となっている。また、専門職員の退職がここ数年で大きな山を迎えることが予想される。近年、発掘調査事業量が減少する一方で、行財政改革が進められるなど、埋蔵文化財行政をとりまく環境は大きく変化しつつあり、実情に見合った適切な専門職員配置は大きな課題である。行政としては、記録保存のための発掘調査の実施にとどまらず、これまでの膨大な調査成果の蓄積を適切に保存・活用し、歴史を活かした地域作りに資するなど、多様な業務を実施し、国民の期待に応えることが求められている。

届出件数の推移



年度	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
届出件数	187	238	253	243	315	359	410	508	513	671	659	738	642	677	775	850	1050	1161	458	412	355

発掘調査件数の推移



年度	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
学術調査	11	5	11	7	11	9	9	6	7	8	5	4	4	5	3	5	11	8	14	3	10
緊急調査	72	105	91	93	96	123	146	191	176	227	195	211	186	160	170	175	214	259	191	177	179
合計	83	110	102	100	107	132	155	197	183	235	200	215	190	165	173	180	225	267	205	180	189

２００９年度　県内発掘調査一覧

No	遺　跡　名	所　在　地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
1	西川遺跡・河口氏屋敷跡	南都留郡富士河口湖町河口西側	53.0	散布地・集落跡	古墳～近現代	ガス・電気・電話・水道	富士河口湖町教育委員会	H21.3.17 ～H21.3.30
2	朝気遺跡	甲府市朝気一丁目	20.0	集落跡	縄文～平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H21.4.7 ～H21.4.9
3	加牟那塚古墳	甲府市千塚三丁目	35.0	古墳	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H21.4.13 ～H21.4.22
4	御崎前遺跡	北杜市須玉町若神子字御崎前	757.0	集落跡	中世	道路	北杜市教育委員会	H21.4.13 ～H21.6.30
5	武田城下町遺跡	甲府市大手一丁目	63.0	城下町	中世	店舗	甲府市教育委員会	H21.4.20 ～H21.4.28
6	原腰遺跡	甲斐市島上条	1,936.1	その他の墓	平安	宅地造成	甲斐市教育委員会	H21.4.20 ～H21.5.15
7	頭無Ａ遺跡	北杜市長坂町夏秋字大々神	3,000.0	集落跡	旧石器～古墳・平安	その他建物(太陽光パネル設置)	北杜市教育委員会	H21.4.20 ～H21.6.30
8	山崎第４遺跡	北杜市大泉町西井出	5,560.0	集落跡	縄文・平安	集合住宅	北杜市教育委員会	H21.4.20 ～H21.7.30
9	狐原Ⅱ遺跡	上野原市大野字木のはけ	20.0	集落跡	縄文・古墳～平安	個人住宅	上野原市教育委員会	H21.4.22 ～H21.4.23
10	壁谷遺跡	都留市大幡字南	90.0	集落跡	縄文	道路	都留市教育委員会	H21.4.22 ～H21.4.24
11	石橋条理遺跡	笛吹市境川町三椚	15.0	その他の遺跡(条里)	平安	その他開発(携帯電話基地局建設)	笛吹市教育委員会	H21.4.23 ～H21.4.23
12	武田城下町遺跡	甲府市大手一丁目	8.6	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H21.4.24 ～H21.4.24
13	中丸東遺跡	笛吹市境川町小山	6.0	散布地	縄文・古墳～平安	その他開発(携帯電話基地局)	笛吹市教育委員会	H21.4.27 ～H21.4.28
14	天神堂遺跡	甲州市勝沼町下岩崎	11.0	散布地	縄文	その他開発(ガソリンスタンド改修工事)	甲州市教育委員会	H21.5.7 ～H21.5.13
15	車地蔵遺跡	笛吹市一宮町末木	261.2	集落跡	奈良・平安	その他開発(無線基地局)	笛吹市教育委員会	H21.5.12 ～H21.5.13
16	小井川遺跡	中央市布施字小阿原	96.4	集落跡	平安～近世	個人住宅	中央市教育委員会	H21.5.12 ～H21.5.13
17	甲府城下町遺跡	甲府市丸の内二丁目	174.0	城下町	近世	その他建物(立体駐車場)	甲府市教育委員会	H21.5.12 ～H21.6.30
18	武田城下町遺跡	甲府市屋形二丁目	40.5	城下町	中世	その他建物(診療所)	甲府市教育委員会	H21.5.13 ～H21.5.14
19	富士見遺跡	甲府市富士見一丁目	6.4	散布地	古墳～平安	店舗	甲府市教育委員会	H21.5.13 ～H21.5.14
20	横畑遺跡	中央市大鳥居字川東	120.0	集落跡	旧石器～古墳・平安～近世	その他開発(携帯電話鉄塔)	中央市教育委員会	H21.5.18 ～H21.5.20
21	武田氏館跡	甲府市古府中町	10.0	城館跡	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H21.5.19 ～H21.5.25
22	加賀美条里遺構	南アルプス市加賀美	9.0	その他の遺跡	古墳	集合住宅	南アルプス市教育委員会	H21.5.21 ～H21.5.21
23	後田堰取水口堤防跡	南アルプス市有野北新田	60.0	その他の遺跡	近世・近現代	保存目的の範囲確認	南アルプス市教育委員会	H21.5.25 ～H21.6.19
24	原腰遺跡	甲斐市島上条	2,100.0	その他の墓	平安	公園造成	甲斐市教育委員会	H21.5.26 ～H21.9.25

No	遺　跡　名	所　在　地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
25	天神西遺跡	甲府市千塚四丁目	4.0	散布地	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H21.5.27 ～H21.6.5
26	滝沢遺跡	南都留郡富士河口湖町河口字滝沢	4,183.0	集落跡	弥生～平安	道路	山梨県教育委員会	H21.5.28 ～H21.10.30
27	上の平遺跡	甲府市下向山町地内	5.0	その他の墓	弥生・古墳	その他建物(展望台新設)	山梨県教育委員会	H21.6.1 ～H21.6.1
28	松留館跡	上野原市松留字社寺原	64.0	城館跡	中世	宅地造成	上野原市教育委員会	H21.6.1 ～H21.6.5
29	西川遺跡	北杜市須玉町穴平字西川	1,212.0	集落跡	縄文・平安・中世	道路	北杜市教育委員会	H21.6.1 ～H21.7.17
30	大神遺跡ほか	南巨摩郡南部町本郷字上大神	60.0	集落跡	縄文・古墳・平安	道路	山梨県教育委員会	H21.6.3 ～H22.3.26
31	鍬柄田遺跡・御坂埋没条理	笛吹市御坂町夏目原	70.0	集落跡・その他の遺跡(条里)	古墳～平安	宅地造成	笛吹市教育委員会	H21.6.8 ～H21.6.10
32	朝気遺跡	甲府市朝気二丁目	4.0	集落跡	縄文～平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H21.6.8 ～H21.6.19
33	原間遺跡	南巨摩郡南部町本郷字原間	6,000.0	集落跡	縄文	道路	山梨県教育委員会	H21.6.8 ～H21.12.25
34	小井川遺跡	中央市布施字小阿原	7,780.0	集落跡	平安～近世	その他建物(地域密着型サービス施設)	中央市教育委員会	H21.6.10 ～H21.6.12
35	包蔵地外	山梨市下栗原字上町	3,712.7			店舗	山梨市教育委員会	H21.6.10 ～H21.6.12
36	武田城下町遺跡	甲府市大手一丁目	94.0	城下町	中世	その他開発(既存マンション撤去)	甲府市教育委員会	H21.6.10 ～H21.6.19
37	御坂中丸遺跡	笛吹市御坂町上黒駒	2,000.0	散布地・集落跡	縄文	鉄道	山梨県教育委員会	H21.6.10 ～H21.9.4
38	六ツ長遺跡	笛吹市御坂町坂野字六ツ長	260.0	集落跡	古墳・平安	鉄道	山梨県教育委員会	H21.6.11 ～H21.7.17
39	天神前東遺跡	山梨市大野	855.0	散布地	縄文・平安	個人住宅	山梨市教育委員会	H21.6.12 ～H21.6.12
40	美通遺跡	都留市古川渡字横道	40.0	集落跡	縄文	道路	都留市教育委員会	H21.6.15 ～H21.6.19
41	小武家遺跡	山梨市上岩下小武家	4,397.0	散布地	平安・中世	宅地造成	山梨市教育委員会	H21.6.15 ～H21.6.22
42	三ヶ所遺跡・連方屋敷	山梨市三ヶ所	8,890.0	散布地・城館跡	平安・中世	道路	山梨市教育委員会	H21.6.15 ～H22.3.31
43	塩部遺跡	甲府市飯田一丁目	40.0	集落跡	弥生～平安	その他建物(診療所)	甲府市教育委員会	H21.6.17 ～H21.6.26
44	大工北遺跡	山梨市堀内	1,031.0	散布地	古墳・平安	その他建物(配水池)	山梨市教育委員会	H21.6.22 ～H21.7.3
45	美通遺跡	都留市井倉字美通	6.0	集落跡	縄文	個人住宅	都留市教育委員会	H21.6.23 ～H21.6.23
46	谷村城	都留市中央二丁目	20.0	城館跡	中世・近世	その他建物(裁判所)	都留市教育委員会	H21.6.23 ～H21.6.25
47	百々・上八田遺跡	南アルプス市上八田	3.5	散布地	奈良～中世	その他開発(携帯電話用基地局)	南アルプス市教育委員会	H21.6.26 ～H21.6.26
48	坂ノ上姥神遺跡	南アルプス市徳永	86.0	散布地	平安・中世	学校建設	南アルプス市教育委員会	H21.6.29 ～H21.7.24
49	美通遺跡	都留市井倉	7,520.0	集落跡	縄文・古墳・奈良・中世	道路	山梨県教育委員会	H21.6.29 ～H21.12.25

No	遺　跡　名	所　在　地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
50	甲府城下町遺跡	甲府市丸の内二丁目	1,000.0	城下町	近世	その他建物	財団法人帝京大学山梨文化財研究所	H21.7.1　～H21.9.30
51	武田城下町遺跡	甲府市屋形二丁目	210.0	城館跡	中世	その他建物(病院)	甲府市教育委員会	H21.7.6　～H21.8.21
52	三昧堂遺跡	甲斐市中下条三味道	3,353.3	集落跡	弥生・平安	店舗	甲斐市教育委員会	H21.7.7　～H21.7.31
53	御所平遺跡	甲州市塩山藤木	60.0	散布地	平安～近世	宅地造成	甲州市教育委員会	H21.7.8　～H21.7.15
54	竜安寺川西遺跡	笛吹市八代町米倉	440.0		縄文・古墳・中世	鉄道	山梨県教育委員会	H21.7.8　～H21.7.15
55	頭無 A 遺跡・頭無遺跡	北杜市長坂町夏秋字頭無	171.0	集落跡	旧石器～古墳・平安	ガス・電気・電話・水道	北杜市教育委員会	H21.7.8　～H21.7.30
56	歌田金桜遺跡	山梨市歌田	112.0	散布地	平安	宅地造成	山梨市教育委員会	H21.7.13　～H21.7.18
57	武田城下町遺跡	甲府市大手一丁目	24.0	城下町	中世	集合住宅	甲府市教育委員会	H21.7.14　～H21.7.22
58	松留館跡	上野原市松留	72.0	散布地・城館跡	縄文・古墳・中世	宅地造成	上野原市教育委員会	H21.7.15　～H21.8.7
59	玉川遺跡	都留市玉川字立道	257.5	散布地	縄文・古墳	個人住宅	都留市教育委員会	H21.7.15　～H21.12.15
60	武田城下町遺跡・峰本南 B 遺跡	甲府市屋形三丁目	6.0	散布地・城下町	中世・近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H21.7.16　～H21.7.31
61	宗高南遺跡	山梨市下石森	106.0	散布地	弥生・古墳	その他建物(建売分譲)	山梨市教育委員会	H21.7.17　～H21.7.24
62	甲府城跡・甲府城下町遺跡	甲府市北口二丁目	316.0	城館跡・城下町	近世	土地区画整理	財団法人帝京大学山梨文化財研究所	H21.7.21　～H21.9.6
63	井坪遺跡	南都留郡富士河口湖町河口	8.0	散布地	縄文・平安	個人住宅	富士河口湖町教育委員会	H21.7.23　～H21.7.24
64	音羽遺跡	甲府市音羽町	55.0	散布地	弥生～平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H21.7.27　～H21.8.7
65	市道遺跡	笛吹市春日居町熊野堂市道	3,460.7	散布地	平安	宅地造成	笛吹市教育委員会	H21.8.3　～H21.8.5
66	宇山遺跡	中央市高部宇山平	604.4	散布地	縄文・中世・近世	個人住宅	中央市教育委員会	H21.8.3　～H21.8.3
67	大林北遺跡	山梨市上栗原	20.0	散布地	縄文～古墳・平安・中世	その他建物(無線基地局)	山梨市教育委員会	H21.8.5　～H21.8.6
68	頭無遺跡	北杜市長坂町塚川字頭無	900.0	集落跡	縄文・中世・近世	道路・農業基盤整備事業	北杜市教育委員会	H21.8.7　～H21.9.11
69	塩部遺跡	甲府市塩部一丁目	22.0	包蔵地	弥生～平安	学校建設	甲府市教育委員会	H21.8.8　～H21.9.11
70	諏訪原遺跡	北杜市明野町上神取	911.0	集落跡	縄文・平安	学術研究	昭和女子大学人間文化学部歴史文化学科	H21.8.10　～H21.8.22
71	宮原遺跡	都留市法能字宮原	205.4	散布地	縄文	個人住宅	都留市教育委員会	H21.8.10　～H21.12.10
72	桂野遺跡	笛吹市御坂町上黒駒	240.0	集落跡	縄文	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H21.8.11　～H21.8.12
73	加牟那塚古墳	甲府市千塚三丁目	21.0	古墳	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H21.8.12　～H21.8.12
74	塚本遺跡	甲府市千塚一丁目	100.0	散布地	古墳	学校建設	甲府市教育委員会	H21.8.17　～H21.8.31

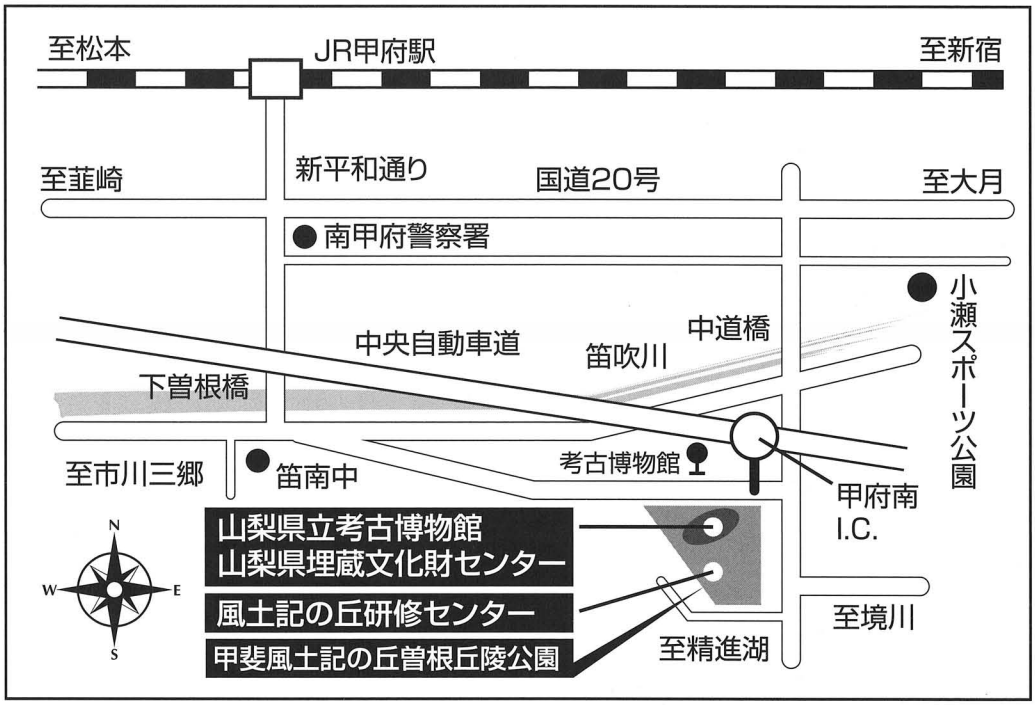
No	遺　跡　名	所　在　地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
75	鰍沢河岸跡	南巨摩郡富士川町(旧鰍沢町)字八幡	490.0	その他の遺跡(河岸跡)	近世・近現代	宅地造成	埋蔵文化財発掘調査支援共同組合	H21.8.17 ～H21.10.16
76	町屋口遺跡	南巨摩郡富士川町(旧増穂町)青柳町地内	1,155.0	田畑跡・その他の遺跡(河岸関連遺跡)	中世・近世・近現代	河川	昭和測量株式会社	H21.8.17 ～H21.11.16
77	西大阪A遺跡	甲府市千塚二丁目	18.0	散布地	縄文	宅地造成	甲府市教育委員会	H21.8.18 ～H21.8.19
78	大堀遺跡	山梨市小原東	110.0	散布地	奈良・平安	宅地造成	山梨市教育委員会	H21.8.24 ～H21.8.27
79	板橋遺跡	北杜市白州町下教来石	4,400.0	集落跡	縄文	工場	北杜市教育委員会	H21.8.24 ～H21.9.30
80	小井川遺跡	中央市布施字小阿原	170.3	集落跡・城館跡	平安～近世	個人住宅	中央市教育委員会	H21.8.26 ～H21.8.27
81	包蔵地外	南アルプス市寺部	4.7			集合住宅	南アルプス市教育委員会	H21.8.26 ～H21.9.26
82	大間々遺跡	上野原市上野原字六貫目	49.0	集落跡	奈良・平安	宅地造成	上野原市教育委員会	H21.8.27 ～H21.8.27
83	太鼓畑遺跡	笛吹市御坂町竹居字太鼓畑	140.0	集落跡	平安・中世	鉄道	山梨県教育委員会	H21.8.28 ～H21.11.6
84	大堀遺跡	山梨市小原東	72.0	散布地	奈良・平安	宅地造成	山梨市教育委員会	H21.8.29 ～H21.9.5
85	甲府城下町遺跡	甲府市丸の内二丁目	645.0	城下町	近世	土地区画整理	財団法人帝京大学山梨文化財研究所	H21.8.31 ～H21.10.31
86	武田城下町遺跡	甲府市屋形一丁目	445.9	城下町	中世	宅地造成	甲府市教育委員会	H21.9.7 ～H21.9.8
87	御崎林遺跡・高家御崎遺跡	笛吹市八代町北	677.8	散布地	縄文・古墳～近世	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H21.9.7 ～H21.9.9
88	浄土寺遺跡	甲州市塩山上於曽	60.0			集合住宅	甲州市教育委員会	H21.9.8 ～H21.9.11
89	朝気遺跡	甲府市朝気三丁目	10.9	集落跡	縄文～平安	店舗	甲府市教育委員会	H21.9.9 ～H21.9.18
90	柳田遺跡	甲州市塩山上粟生野	14.0	散布地	奈良・平安	農業基盤整備事業	甲州市教育委員会	H21.9.11 ～H21.9.18
91	明石西河原遺跡	甲府市上町	120.0	散布地	平安	宅地造成	甲府市教育委員会	H21.9.14 ～H21.9.16
92	諏訪前南遺跡	甲府市中畑町	990.0	散布地	縄文・古墳	道路	山梨県教育委員会	H21.9.14 ～H21.9.16
93	御阪埋没条里	笛吹市御坂町井之上・二之宮	1,708.1	その他の遺跡(条里)	古墳～平安	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H21.9.14 ～H21.9.17
94	百々・上八田遺跡	南アルプス市上八田	180.0	散布地	古墳～近現代	農業基盤整備事業	南アルプス市教育委員会	H21.9.15 ～H21.9.24
95	欠之下遺跡・花桜遺跡・落合市道遺跡	山梨市落合	465.0	散布地	平安・中世	店舗	山梨市教育委員会	H21.9.15 ～H21.10.14
96	緑が丘二丁目遺跡	甲府市緑が丘二丁目	5.4	散布地	古墳・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H21.9.16 ～H21.9.16
97	安道寺遺跡	甲州市塩山下粟生野	90.0	散布地	近世	農業基盤整備事業	甲州市教育委員会	H21.9.17 ～H21.10.9
98	宮の上遺跡	笛吹市石和町上平井	1,212.0	散布地	古墳～平安	宅地造成	笛吹市教育委員会	H21.9.18 ～H21.9.18
99	前御勅使川堤防址群	南アルプス市有野	8.0	散布地	中世・近世	農業基盤整備事業	南アルプス市教育委員会	H21.9.24 ～H21.9.24

No	遺　跡　名	所　在　地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
100	中尾条里	笛吹市一宮町上矢作地内	1,316.5	その他の遺跡(条里)	縄文～平安	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H21.9.24 ～H21.9.30
101	中尾条里	笛吹市一宮町上矢作地内	476.4	その他の遺跡(条里)	縄文～平安	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H21.9.24 ～H21.9.30
102	中尾条里	笛吹市一宮町上矢作地内	886.9	その他の遺跡(条里)	縄文～平安	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H21.9.24 ～H21.9.30
103	包蔵地外	南都留郡富士河口湖町船津字北八ツ倉	10.0			ガス・電気・電話・水道	富士河口湖町教育委員会	H21.9.29 ～H21.9.29
104	甲府城下町遺跡	甲府市武田一丁目	12.0	城下町	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H21.9.29 ～H21.9.29
105	中尾条里	笛吹市一宮町上矢作地内	156.3	その他の遺跡(条里)	縄文～平安	その他開発(携帯電話無線基地局)	笛吹市教育委員会	H21.10.1 ～H21.10.1
106	御所山遺跡	笛吹市境川町藤垈字御所山	600.0	散布地・集落跡	縄文・古墳・平安・中世	鉄道	山梨県教育委員会	H21.10.1 ～H21.10.30
107	寺本廃寺跡	笛吹市春日居町寺本	186.0	社寺跡	奈良・平安	保存目的の範囲確認	笛吹市教育委員会	H21.10.1 ～H21.11.15
108	包蔵地外	山梨市上石森字上手原	60.2			宅地造成	山梨市教育委員会	H21.10.2 ～H21.10.14
109	吉原遺跡	山梨市字田神	1,095.0	散布地	平安	集合住宅	山梨市教育委員会	H21.10.2 ～H21.10.14
110	甲府城下町遺跡	甲府市丸の内一丁目	8.0	城下町	近世	その他建物(庁舎建設)	甲府市教育委員会	H21.10.4 ～H21.10.17
111	冨士御室浅間神社境内地・定善(禅)院跡	南都留郡富士河口湖町勝山	165.0	社寺跡	平安～近世	学術研究	山梨県教育委員会	H21.10.5 ～H21.10.30
112	甲府城	甲府市北口二丁目	263.0	城館跡	近世	土地区画整理	財団法人帝京大学山梨文化財研究所	H21.10.5 ～H21.11.30
113	吉田西原Ａ遺跡	南アルプス市吉田	32.4	散布地	中世～近現代	その他開発(宅地開発・開業医建設)	南アルプス市教育委員会	H21.10.9 ～H21.10.9
114	南・村上遺跡・宮川遺跡・山ノ神遺跡	笛吹市八代町南地内	1,486.3	散布地・集落跡	縄文・古墳～近世	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H21.10.9 ～H21.10.16
115	三光遺跡	笛吹市御坂町竹居字伊勢前	163.2	集落跡	縄文	その他開発(携帯電話無線基地局)	笛吹市教育委員会	H21.10.13～H21.10.13
116	包蔵地外	南アルプス市西野	790.0			学校建設	南アルプス市教育委員会	H21.10.13～H21.10.13
117	栗原氏屋敷跡	山梨市上栗原	6.8	城郭跡	中世	その他建物(寺院建物)	山梨市教育委員会	H21.10.13～H21.10.16
118	鷹の巣遺跡	都留市つる五丁目	10.0	散布地	縄文・奈良・平安	道路	都留市教育委員会	H21.10.15～H21.10.16
119	金地蔵遺跡	笛吹市八代町北	1,306.6	集落跡・包蔵地	縄文・古墳・奈良・平安・中世	農業基盤整備事業	財団法人帝京大学山梨文化財研究所	H21.10.15～H21.12.18
120	物見塚遺跡	笛吹市境川町寺尾地内	1,300.9	集落跡	縄文・弥生・平安	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H21.10.19～H21.10.20
121	大中寺遺跡	笛吹市春日居町国府大中寺	184.4	集落跡	平安	その他開発(通信基地局)	笛吹市教育委員会	H21.10.21～H21.10.21
122	榎原・天神遺跡	南アルプス市榎原	430.0	散布地	平安・中世	学校建設	南アルプス市教育委員会	H21.10.21～H21.10.22
123	下萩原浅間塚	甲州市塩山下萩原	274.0	その他の遺跡(信仰の塚)	平安	道路	甲州市教育委員会	H21.10.27～H21.11.27
124	原腰遺跡	甲斐市島上条字石原田	203.4	その他の墓	平安	個人住宅	甲斐市教育委員会	H21.10.27～H21.10.30

No	遺　跡　名	所　在　地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
125	下木曽遺跡	山梨市牧丘町西保下字下木曽	4.0	散布地	平安～近世	その他建物(携帯電話無線基地局)	山梨市教育委員会	H21.10.28～H21.10.30
126	前御勅使川堤防址群	南アルプス市百々	11.3	その他遺跡(堤防)	近世・近現代	学校建設	南アルプス市教育委員会	H21.10.29～H21.10.29
127	高尾成畑遺跡	北都留郡丹波山村	20.0	散布地	縄文	その他建物	丹波山村教育委員会	H21.10.30～H21.11.6
128	泉尻Ｂ遺跡	甲斐市大下条字泉尻	1,637.3	散布地	弥生・古墳・中世	保存目的の範囲確認	甲斐市教育委員会	H21.11.4 ～H21.11.20
129	北口本宮冨士浅間神社境内地	富士吉田市上吉田	150.0	社寺跡	中世・近世	学術研究	山梨県教育委員会	H21.11.9 ～H21.11.30
130	千手院前遺跡	甲州市塩山上塩後	50.0	散布地		宅地造成	甲州市教育委員会	H21.11.9 ～H21.11.30
131	甲府城下町遺跡	甲府市武田二丁目	83.0	城下町	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H21.11.13～H21.11.13
132	包蔵地外	山梨市下神内川	67.0			宅地造成	山梨市教育委員会	H21.11.16～H21.11.19
133	神ノ前Ｂ遺跡	北杜市高根町小池	9,000.0	集落跡	縄文・古墳	農業基盤整備事業	北杜市教育委員会	H21.11.18～H21.12.25
134	上の平Ａ遺跡	笛吹市八代町米倉地内	4,037.5	集落跡	縄文～平安	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H21.11.18～H22.1.29
135	百々・上八田遺跡	南アルプス市上八田	5.5	散布地	縄文・平安	道路	南アルプス市教育委員会	H21.11.24～H21.11.24
136	百々・上八田遺跡	南アルプス市上八田	200.0	散布地	奈良～中世	その他開発(開発内容未定)	南アルプス市教育委員会	H21.11.24～H21.12.25
137	山ノ神遺跡	笛吹市八代町岡	1,963.8	集落跡	縄文・奈良～中世	集合住宅	笛吹市教育委員会	H21.11.25～H21.11.27
138	武田城下町遺跡	甲府市下積翠寺町	4.0	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H21.11.26～H21.11.26
139	釜池西遺跡	中央市大鳥居字釜池	471.0	散布地	縄文・近世	その他開発(携帯電話無線基地局)	中央市教育委員会	H21.11.26～H21.11.27
140	野牛島・石橋遺跡	南アルプス市野牛島	50.0	散布地	平安	道路	南アルプス市教育委員会	H21.11.26～H21.12.1
141	鷹の巣遺跡	都留市つる四丁目	1,002.5	散布地	縄文・奈良・平安	集合住宅	都留市教育委員会	H21.11.26～H22.3.19
142	大坪遺跡	甲府市横根町	695.6	散布地	古墳～平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H21.11.30～H21.12.3
143	加賀美条里遺構	南アルプス市加賀美	20.0	その他遺跡(条理)	古墳	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H21.11.30～H21.11.30
144	堀の内遺跡	大月市富浜町鳥沢	2.0	集落跡	縄文・平安	個人住宅	大月市教育委員会	H21.12.1 ～H21.12.1
145	下於曽八反田遺跡	甲州市塩山下於曽	50.0	散布地	中世	その他開発(地域密着型介護福祉施設)	甲州市教育委員会	H21.12.4 ～H21.12.8
146	安道寺遺跡	甲州市塩山下粟生野	10.0	集落跡	縄文	学術研究	甲州市教育委員会	H21.12.7 ～H21.12.18
147	甲斐国分寺跡	笛吹市一宮町国分	1,087.0	社寺跡	奈良～中世	遺跡整備	笛吹市教育委員会	H21.12.7 ～H22.4.30
148	金の尾遺跡	甲斐市大下条字金ノ尾	767.0	集落跡	縄文～古墳	その他開発(保育園)	甲斐市教育委員会	H21.12.8 ～H21.3.31
149	日留野遺跡	上野原市大野字日留野	25.0	散布地	縄文	ガス・電気・電話・水道	上野原市教育委員会	H21.12.9 ～H21.12.9

No	遺　跡　名	所　在　地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
150	三ヶ所遺跡	山梨市三ヶ所字新町西	200.0	散布地	縄文・中世・近世	宅地造成	山梨市教育委員会	H21.12.10～H22.1.22
151	美通遺跡	都留市井倉字美通	6.0	集落跡	縄文	個人住宅	都留市教育委員会	H21.12.14～H21.12.14
152	筑前原遺跡	笛吹市一宮町東原	40.0	集落跡	弥生～近世	その他建物(給食ｾﾝﾀｰ)	笛吹市教育委員会	H21.12.18～H21.12.21
153	三ヶ所遺跡	山梨市三ヶ所	1,200.0	散布地	平安・中世	道路	財団法人帝京大学山梨文化財研究所	H22.1.5　～H22.3.25
154	横道Ｄ遺跡	南アルプス市下市之瀬	16.8			道路	南アルプス市教育委員会	H22.1.6　～H22.1.15
155	曽根遺跡	南アルプス市上宮地	1,566.0	集落跡	縄文～古墳	道路	南アルプス市教育委員会	H22.1.9　～H22.3.24
156	石和高校周辺遺跡	笛吹市石和町市部	185.0	集落跡	縄文～中世	学校建設	山梨県教育委員会	H22.1.12　～H22.1.14
157	包蔵地外	上野原市上野原	74.0			店舗	上野原市教育委員会	H22.1.15　～H22.1.16
158	滝沢川堤防址群	南アルプス市和泉	75.3	水田	近世	店舗	南アルプス市教育委員会	H22.1.18　～H22.1.19
159	御坂埋没条里・横畑遺跡・国衙想定域	笛吹市御坂町国衙字宮本	347.1	官衙跡・その他の遺跡(条里)	古墳～平安	保存目的の範囲確認	笛吹市教育委員会	H22.1.18　～H22.1.22
160	塚本遺跡	甲府市千塚一丁目	2,244.0	散布地	弥生～中世	学校建設	甲府市教育委員会	H22.1.18　～H22.7.31
161	松ノ尾遺跡	甲斐市大下条字東側	337.0	集落跡	縄文～平安	宅地造成	甲斐市教育委員会	H22.1.19　～H22.3.26
162	秋山氏館跡	甲府市高畑二丁目	4.0	城館跡	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.1.20　～H22.1.20
163	池之元遺跡	富士吉田市旭三丁目	4,084.0	集落跡	縄文・古墳～平安	道路	山梨県教育委員会	H22.1.25　～H22.1.27
164	町屋口遺跡・青柳河岸跡	南巨摩郡富士川町(旧増穂町)青柳町	11,435.0	田畑跡・その他の遺跡(河岸跡)	近世・近現代	道路	山梨県教育委員会	H22.1.25　～H22.1.29
165	武田城下町遺跡	甲府市大手二丁目	8.0	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.1.27　～H22.1.29
166	清春白樺美術館南遺跡	北杜市長坂町中丸	120.0	散布地	縄文・中世	その他建物(美術館)	北杜市教育委員会	H22.1.25　～H22.2.24
167	甲府城下町遺跡	甲府市朝日二丁目	120.0	散布地	近世	土地区画整理	甲府市教育委員会	H22.2.1　～H22.2.3
168	溝呂木道上第2遺跡・溝呂木道上第5遺跡	南アルプス市十日市場	51.8	散布地	中世	店舗	南アルプス市教育委員会	H22.2.3　～H22.2.4
169	美通遺跡	都留市井倉字美通	6.0	集落跡	縄文	個人住宅	都留市教育委員会	H22.2.4　～H22.2.4
170	武田城下町遺跡	甲府市元紺屋町	4.0	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.2.8　～H22.2.19
171	包蔵地外	南アルプス市湯沢字御前山	7,639.0			農業基盤整備事業の農業関係事業	南アルプス市教育委員会	H22.2.15　～H22.2.16
172	清水原遺跡	南巨摩郡南部町中野字清水原地内	200.0	集落跡	中世・近世	道路	山梨県教育委員会	H22.2.15　～H22.2.19
173	包蔵地外	南巨摩郡南部町中野字古城山	4,000.0			道路	山梨県教育委員会	H22.2.16　～H22.2.19
174	岩崎遺跡	都留市大幡	1,675.5	散布地	縄文	その他建物	都留市教育委員会	H22.2.18　～H22.2.18

No	遺　跡　名	所　在　地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
175	包蔵地外	南巨摩郡身延町上八木沢字清水	1,000.0			道路	山梨県教育委員会	H22.2.18 ～H22.2.19
176	加賀美条里遺構	南アルプス市藤田	5.4	その他の遺跡	古墳	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H22.2.24 ～H22.2.24
177	包蔵地外	南巨摩郡身延町上八木沢字鰍原	2,000.0			道路	山梨県教育委員会	H22.3.1 ～H22.3.5
178	十丁遺跡	甲府市里吉三丁目	5.2	散布地	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.3.8 ～H22.3.15
179	包蔵地外	南アルプス市吉田	16.2			宅地造成	南アルプス市教育委員会	H22.3.11 ～H22.3.11
180	塩部遺跡	甲府市塩部一丁目	430.0	包蔵地	弥生～平安	学校建設	甲府市教育委員会	H22.3.1 ～H22.4.30
181	村前東Ａ遺跡	南アルプス市吉田	5.0	その他の遺跡	弥生～中世	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H22.3.3 ～H22.3.3
182	甲府城跡	甲府市丸の内一丁目	300.0	城館跡	中世～近現代	その他建物(県庁舎)	山梨県教育委員会	H22.3.8 ～H22.3.15
183	山崎遺跡	甲府市横根町字山崎	4.0	散布地	平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.3.15 ～H22.3.15
184	大儘遺跡	笛吹市春日居町鎮目	315.0	散布地	古墳～平安	その他建物(学校付属施設)	笛吹市教育委員会	H22.3.15 ～H22.3.15
185	吉田中畑Ｃ遺跡	南アルプス市吉田	995.3	散布地	弥生～中世	個人住宅・宅地造成	南アルプス市教育委員会	H22.3.17 ～H22.3.17
186	岩下古墳群	山梨市上岩下	229.0	古墳	古墳	農業基盤整備事業	山梨市教育委員会	H22.3.19 ～H22.3.30
187	加賀美条里遺構	南アルプス市藤田	1,365.3	その他の遺跡	古墳	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H22.3.23 ～H22.3.23
188	曽根遺跡	南アルプス市上宮地	27.5	集落跡	縄文～古墳	道路	南アルプス市教育委員会	H22.3.26 ～H22.3.31
189	久保１遺跡・池之原２遺跡・神地４遺跡	南都留郡道志村	5,630.0	散布地	縄文	学術研究	道志村教育委員会	H22.3.8 ～H22.3.31



●路線バスご利用
甲府ー豊富（中道橋経由）考古博物館で下車
●高速バスのご利用（2時間）
新宿西口…南回り、甲府行（中道下車）徒歩5分
南甲府インター下車・徒歩10分

年　報　26

印刷日　2010 年 12 月 15 日
発行日　2010 年 12 月 24 日

発行所　山梨県埋蔵文化財センター
山梨県甲府市下曽根町923
TEL　055－266－3881・055－266－3016
FAX　055－266－3882
E-mail：maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

印刷所　港北出版印刷株式会社
山梨県甲府市高室町155